

官報

號外

大正十五年三月十九日 金曜日

內閣印刷局

○第五十一回衆議院議事速記第三十二號

帝國議會

大正十五年三月十八日(木曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第三十一號

大正十五年三月十八日
午後一時開議

- 第一 製鐵業獎勵法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 製鐵所特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第三 大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會
- 第四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第五 土地貸賃價格調查法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 衆議院議員ノ選舉權ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 北海道會議員及府縣會議員ノ選舉權及被選舉權並市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

- 第十三 土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十五 暴力行為等處罰ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十七 大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコソック」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十九 都市計畫法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十一 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十二 出版物法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十四 獸醫師法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第二十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十六 民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

- 第二十七 民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第二十八 商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第二十九 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十 商事訴訟手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十一 競賣法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十二 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十三 破產法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十四 明治三十二年法律第五十號中改正法律案(外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十五 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十六 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三十七 產業組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第三十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三十九 大正十三年法律第十號中改正法律案(高等諸學校震災復舊諸費ニ關スル豫算ノ施行ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會
- 第四十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- 第四十一 大正十三年度第一豫備金支出ノ件
大正十三年度特別會計第一豫備金支出ノ件
大正十四年度第二豫備金支出ノ件
大正十四年度豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件
大正十四年度特別會計第二豫備金支出ノ件
大正十四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
臨時軍事費特別會計豫備費支出ノ件
自大正六年二月二十六日臨至大正九年六月二十五日臨時軍事費特別會計豫備費外ニ於テ豫算超過支出ノ件
 - 第四十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 副議長(小泉又次郎君) 諸般ノ報告ヲセシメマス
(書記官朗讀)
一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法中改正法律案
大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案
衆議院議員ノ選舉權ニ關スル法律案
北海道會議員及府縣會議員ノ選舉權及被選舉權並市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律案
(以上三月十六日提出)
一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
仙山鐵道ノ起工ニ關スル建議案
提出者 石川長右衛門君 齋藤 金吾君

正米市場法制定促進ニ關スル建議案

提出者 作間 耕逸君 大田信治郎君

警察費國庫下渡金増額ニ關スル建議案

提出者 佐藤 實君

戶井 嘉作君 平沼 亮三君

山宮 藤吉君 小野 重行君

平川松太郎君 川口 義久君

若尾幾太郎君 山口 左一君

上原 好雄君

佐賀住ノ江間臨津線敷設ニ關スル建議案

提出者 福田 五郎君 中野 實君

西 英太郎君 加藤十四郎君

東京都制急施ニ關スル建議案

提出者 作間 耕逸君 關 直彦君

磯部 尚君 高木益太郎君

中島 守利君 岡田 忠彦君

高木 正年君 瀨沼伊兵衛君

中原徳太郎君 前田 米藏君

淺賀長兵衛君 太田信治郎君

斯波 貞吉君 矢野 鈺吉君

宮崎三之助君 佐々木安五郎君

土屋 興君 横山勝太郎君

小島 證作君 本田 義成君

林田龜太郎君 鳩山 一郎君

近藤 達兒君 安藤 正純君

消防組經費國庫補助並消防組員優遇ニ關スル建議案

提出者 倉元 要一君 望月 圭介君

三土 忠造君 東 武君

武藤 金吉君 吉植庄一郎君

山本条太郎君 小泉策太郎君

渡邊 祐策君 菅原 傳君

高山 長幸君 山口 義一君

山口恒太郎君 秋田寅之介君

北海道ニ區裁判所並地方裁判所支部設置ニ關スル建議案

提出者 東 武君 松實喜代太君

岡田伊太郎君 黒住 成章君

北海道甜菜糖業補助ニ關スル建議案

提出者 松實喜代夫君 岡田伊太郎君

東 武君 黒住 成章君

正米市場設置ニ關スル建議案

提出者 福井 甚三君 原田佐之治君

丹下茂十郎君

帝國在郷華人會國庫補助ニ關スル建議案

提出者 池山 泰親君

帝國在郷華人會國庫補助ニ關スル建議案

提出者 松岡 俊三君

東京驛東部乗降場設置速成ニ關スル建議案

提出者 井本 常作君

労働銀行法制定ニ關スル建議案

提出者 井本 常作君

市町村ノ整理改善ニ關スル建議案

提出者 荒川 五郎君 紫安新九郎君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

明治神宮表參道舗装工事ニ對スル道路法ノ運用ニ關スル質問主意書

提出者 横山勝太郎君

正米市場法制定ニ關スル質問主意書

提出者 作間 耕逸君 太田信治郎君

清酒醸造業官營ニ關スル質問主意書

提出者 神崎 勳君

京都府會決議無効ニ關スル再質問主意書

提出者 長田 桃藏君 木戸 豊吉君

尾道開港場設置ニ關スル質問主意書

提出者 嶋居 哲君

(以上三月十七日提出)

一月十六日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ

一五八 藤澤萬九郎君

二二九 浦山助太郎君

羽田彦四郎君

一月十六日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ

日程第一乃至第三ハ關聯セル議案デアリマスカラ、一括シテ議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認

メマス、仍テ日程第一、製鐵業獎勵法改正

法律案、日程第二、製鐵所特別會計法案、

日程第三、大正九年法律第五十三號中改正

法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——片岡商工

大臣

第一 製鐵業獎勵法改正法律案(政府

提出)

製鐵業獎勵法

第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸

以上ノ製鐵能力及一年三萬五千噸以上

ノ製鐵能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製

鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收

用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同

法ヲ適用

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期

間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタ

ル製鐵事業者ニ規定スル設備ノ年及其ノ

翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム

製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所

得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ

設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合

ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收

益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定

ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セサルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一條ノ規定ニ該當セザル設備ヲ

以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可

ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ノ規定ニ

該當スルニ至ルヘキ設備ヲ増設シタル

トキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營ム

製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業

ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主

務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ其

ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増

設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル 鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付ハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製鋼能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル 低炭鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同シ

第五條 第一條乃至前條ニ規定スル製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依リ營業稅營業收益稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ノ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 製鐵事業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製鐵事業者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

一 第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ムトキ

二 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ニ規定スル設備ヲ完成スルニ至ルヘキトキ

三 二以上ノ製鐵事業者ノ事業ニシテ主務官廳ニ於テ其ノ作業ノ狀況ニ依リ第一條ニ規定スル製鐵事業ニ準スヘキモノト認メタルトキ

第九條 帝國内ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル

場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 詐欺ノ行為ヲ以テ前二條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ償還セシム

第八條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者本法、本法ニ基キテ發シタル命令又ハ交付ノ條件ニ違反シタルトキハ其ノ金額ヲ償還セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十一條 第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械具、燃料ヲ主務官廳ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十二條 本法ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ主務官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又、輸入稅ノ免除ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セザルモノニ付テハ本法施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間アルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

第二 製鐵所特別會計法案(政府提出)

第一 讀會

製鐵所特別會計法案

製鐵所ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ固定資本及據置運轉資本並將來ノ製鐵所益金及本會計ノ負擔ニ屬スル公債又ハ借入金ヲ以テ其ノ資本ト爲シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テ特別會計ヲ設置ス

第二條 製鐵所ニ於テ固定財產ノ擴張及改良ニ要スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ公債又ハ借入金ノ額ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

製鐵所ニ於テ運轉資金ニ充ツル爲必要アルトキハ最高六千萬圓ヲ限度トシ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第三條 左ニ掲クル國債ハ本會計ノ負擔トス

一 製鐵所ノ創設及擴張ニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債及之カ借換ノ爲從來發行シタル公債

二 前條ノ規定ニ依リ公債又ハ借入金三、前二號ニ規定スル國債ノ借換ノ爲起債シタル國債

前項ニ規定スル國債ノ償還金、利子、割引料並發行及償還ニ關スル經費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

第四條 本會計ハ之ヲ資本勘定、用品勘定及作業勘定ニ區分ス

第五條 資本勘定ハ作業益金繰入金、固定財產減價償却繰入金、公債募集金、借入金、固定財產ノ當拂代金其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ固定財產ノ擴張費改良費補充費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費、國債償還金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第六條 用品勘定ハ用品收入、工作收入其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ用品費、工作費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第七條 作業勘定ハ作業上ノ諸收入、固定財產ノ貸付料、預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ作業上ノ諸

費用、總係費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金、國債ノ利子割引料其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第八條 需要ノ増加ニ基ク生産又ハ販賣ノ増加ニ因リテ生シタル豫算ノ不足ヲ補フ爲用品勘定及作業勘定ノ歲出ニ豫備費ヲ設クヘシ

第九條 用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ減價償却金ハ之ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第十條 用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ決算上生シタル利益又ハ損失ハ之ヲ資本勘定ニ移シ整理スヘシ

第十一條 資本勘定ニ於テ決算上生シタル利益ハ之ヲ製鐵所益金トシ資本ニ繰入ルヘシ

資本勘定ニ於テ決算上損失ヲ生シタルトキハ之ヲ製鐵所損金トシ資本ヲ減額スヘシ

第十二條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十三條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ最高千萬圓ヲ限度トシ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

一時借入金及融通證券ニ依リ資金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第十四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第十五條 本會計ノ收入支出及損益計算ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法ハ大正十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 作業會計法第一條第一號乃至第六號ヲ左ノ如ク改メ同法第二條第三項ヲ削ル

第一 印刷局

第二 海軍火藥廠

第三 海軍燃料廠

第四 專賣局

第十八條 明治三十八年法律第十七號第一條第一項中「及製鐵所」專賣局ニ在リテハ及製鐵所ニ在リテハ九千八百萬圓ヲ制ル

第十九條 本法ニ依リ本會計ニ於テ借入ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ常分ノ内當該年度内ニ限リ國庫餘格金ヲ維持使用スルコトヲ得

第二十條 本法施行前ニ於ケル製鐵所特別會計(作業會計法ニ依ルモノ)ニ屬スル收入及支出ノ未清額ハ之ヲ本會計ニ繰越スヘシ

第二十一條 一般會計ノ歲出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費ハ大正十六年度以降本會計ノ所屬トス

第三 大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會 大正九年法律第五十三號中改正法律案 大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「前項ノ設備ヲ爲ス者」ヲ「前項ノ設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者」ニ改ム

一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製鐵能力及一年三萬五千噸以上ノ製鐵能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ノ爲ニ必要ナル器具 機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮總督ノ認可ヲ受テ朝鮮ニ輸入スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第八條中「關稅法」ヲ「關稅定率法」ヲ加フ

別表輸入税表中「礦油(關稅定率法別表輸入税表第一一號二ノ乙ニ該當スルモノ)ヲ「礦油(關稅定率法別表輸入税表第一一號二ノ甲ニ該當スルモノノ内〇・七三〇ヲ超エ〇・八七五ヲ超エザルモノ)ニ、木材(關稅定率法別表輸入税表第六一號一ノ己及癸ニ該當スルモノ)ヲ「木材(關稅定率法別表輸入税表第六一號一ノ己ノイ及口並癸ノイニ該當スルモノ)ニ改メ(綿手(生活力ヲ有スルモノ)(無稅)ヲ制ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣片岡直溫君登壇) 只今議題ト相成リマシタ製鐵業獎勵法案提出ノ理由ノ大要ヲ說明致シタイト存ジマス、製鐵業ノ造船機械其他各種ノ重要産業ノ基礎工業ニアリマシテ、是ガ盛衰ハ一國産業ノ消長ニ及ボス所大ナルモノガアリマシカラ、政府ハ大正六年製鐵業獎勵法ヲ制定致シマシテ、本邦製鐵業ノ發達ニ資スル所少クナカッタ

ノ事情ガ變化致シマシテ各國競ウテ廉價ナル製品ノ供給ヲ爲シツ、アル時ニ當リマシテハ、本邦製鐵業モ亦之ニ對應スルノ基礎ヲ確立シナケレバナラスノデアリマス、仍テ將來製鐵業獎勵法ノ適用ヲ受得ルモノハ、其規模ノ相當ニ大ニシテ、且ツ製鐵ノ製造ヨリ鋼材ニ至ル一貫的作業設備ヲ有シ、最モ經濟的ニ其作業ヲ爲シ得ルモノヲ以テ其基礎ト爲スト共ニ、斯ノ如キ製鐵事業ニ對シマシテハ、相當ノ獎勵金ヲ交付シテ其保護ヲ十分ニシ、以テ本邦製鐵業ノ健全ナル發達ヲ期セントスルノデゴザイマス、是レ本改正案ヲ提出致シマスル主ナル理由デゴザイマスガ、其他現行獎勵法ノ適用ヲ受ケツ、アルモノニ對シマシテモ、其現狀ニ鑑ミマシテ、土地收用法ノ適用並ニ營業稅、所得稅、及輸入税ノ免除等ノ現行獎勵法上

附與セラレ居ル特點ハ、現行法ヨリモ更ニ

五年間延長スルコト、致シタノデゴザイマス、尙ホ巨細ノ點ニ至リマシテハ、委員會ニ於テ說明ヲ致スコト、致シマスカラ、何卒御審議ノ上、速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)引續イテ製鐵所特別會計法案ノ大要ヲ說明致シマス、茲ニ議題トナリマシタ製鐵所特別會計法案ニ付キマシテ、其提案ノ大體ヲ申上ゲルノデアリマスルガ、製鐵所ノ事業ヲ最モ適切ニ經營致シマスルニハ、常ニ事業ノ情勢ニ順應シテ、必要ニ應ジテ其擴張又ハ改良ヲ行ハナケレバナラスノデアリマス、然ルニ現在ノヤウナ作業會計ノ組織デゴザイマシテハ、資本ノ擴張改良ハ一般會計ノ負擔ニ於テ行フコト、ナラテ居リマスカラ、一般財政計畫ノ影響ヲ蒙リマシテ、其施設ガ斯業ノ發達ニ順應シナイ憾ガアルノデアリマス、又其設備ノ擴張改良ハ、製鐵所特別會計自身ノ負擔ニ於テ行フコト、致シマシテ、即チ原則トシテハ擴張改良ノ資源ハ、其益金ヲ以テテ是レガ目的ヲ達成致シマスニハ、製鐵所ノ經理ヲ獨立會計ノ組織ト爲スコトガ最モ妥當デアルト認メタノデゴザイマス、製鐵所ノ事業ハ他ノ作業會計ニ於ケル政府ノ作業ト趣ク異ニ致シマシテ、民間業者ト全ク同一地位ニ立ツテ、市場ニ其製品ヲ供給スルモノデゴザイマスルカラ、其會計方式ノ如キモ、民間事業者會社ニ成ベク近似セシムルト、致シマシテ、固定財産ニ付テハ明確ニ評價却テ行ヒ、過去及將來借入金ニ對シマシテハ、是ガ元利ノ償還ヲ負擔ヲ致シマスルコト等ノ方法ニ依リマシテ、損益計算ヲの確明瞭ニ致シマシタナラバ、事業者ヲシテ其精勵ノ效果ヲ自覺セシムルノ效果ガアルト存ジマス、延イテ其經理狀態ヲ良好ナラシムルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、而シテ其益金ヲ以テ更ニ優良ナル設備ノ擴張改良ヲ遂行スルコトガ出來、又其事業成績ヲ彼此比較考慮ヲシヤウトスル民間業者ノ要望ニモ應ズルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、併ナガラ一舉ニ民間會社ト全然同一ノ方式ニ依リ、純然タル獨

〔政府委員黑金泰義君登壇〕

立會計ノ制ヲ設クルコトハ、多少支障ガアルノデゴザイマスルカラ、成ルベク其理想ニ近イ制度ト致シマシテ、大正十六年度ヨリ之ヲ實施致シタキ考ヲ以テマシテ本案ヲ提出致シタノデゴザイマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

〔政府委員黑金泰義君登壇〕 政府委員黑金泰義君 只今議題ニ供セラレマシタ、大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ大要ヲ簡單ニ申上ゲマス、此大正九年法律第五十三號ハ、申上ゲル迄モ朝鮮ニ實施致シマスルニ付テノ特別規定ヲ設ケタル法律デゴザイマス、今般關稅法並ニ關稅定率法及製鐵獎勵法ガ改正セラレマスルニ付テ、改正ノ結果之ニ伴ウテ朝鮮ノ事情ニ適合スヘク改正ヲ求メルノデアリマス、隨テ其第一ハ關稅定率法ニ於ケル所ノ品目表示ノ方法及關稅定率法ノ施行ニ關スル所ノ特別規定致シタノデアリマス、又第二ニ於キマシテハ製鐵獎勵法ノ改正ニ關聯致シマシテ、關稅ノ方面ヨリ製鐵獎勵ニ關スル規定ヲ設ケタノデアリマス、以上ハ此改正案ヲ提出致シマシタ大體ノ理由デゴザイマス、ドウゾ御協賛ヲ願ヒマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス— 森格君

〔森格君登壇〕 森格君 本案ハ關稅定率法中改正法律案ノ委員會ニ於テ、商工大臣ヨリ内市セラレマシタル所ノモノガ、具體化致シタモノデアルト考ヘマス、委員會ニ於キマシテ我が政友會ハ固ヨリ、與黨タル憲政會並ニ政友本黨ノ委員諸君ニ依リマシテ、隨分熱心ニ御論議ニ相成クノデアリマス、其討議ノ内容ハ尠カラズ政府ノ參考ニ相成クモ、ト私ハ信ズルノデアリマス、即チ我黨ノ委員山本衆太郎君ニ依リテ述べラレマシタル論旨ノ如キハ、本案ノ第九條ニ、即チ内地ニ於テ製造セラレタル鋼材ガ船舶ノ修理或ハ建造ノ目的ノ爲ニ使用セラレタル場合ニ

加フ

ハ、之ニモ補助、助成ノ交付金ヲ交付スル
ト云フコトヲ明示セラレタト云フガ如キハ
其一端デアリマシテ、斯ル政府ノ態度
ニ對シマシテハ、私ハ敬意ヲ表スル
者デアリマス、併ナガラ、此案ノ内容ヲ
調ベテ見マスルニ云フト、如何ニモ信念ガ
籠テ居ラナイ、不徹底ナル點ガ甚ダ多イ、
是デハ此案ヲ支持シナケレバナラナイ立場
ニ在ラル、恐ラクハ憲政會ノ諸君モ御満足
ハ出來ナイデアラウト私ハ考ヘルノデアリ
マス(拍手)詳細ナル質問ハ委員會ニ讓ルト
致シマシテモ、審議ニ當テ必要ナリト考
ヘテ居リマスル骨子ニ付テ、四五ノ質問ヲ
致シタイト考ヘマス、第一、製鐵事業ノ如
キ獎勵ヲ政府ガ金テマシタルコトハ、今回
ガ初メテハナイデアリマス、即チ大正
六年ニ制定セラレマシタ製鐵業獎勵法ノ如
キハ、此目的ノ爲ニ出來タノデアリマスガ、
現行獎勵法モ今日議題トナリマシタル本案
モ、等シク鐵鐵ト鋼ヲ一貫作業ト致シタル
點ニ其基調ヲ置イテ居ルノデアリマス、關
稅ノ委員會ニ於キマシテ、商工大臣モ亦
近歐米ニ於ケル製鐵事業ハ、鐵鋼一貫主義
ニ其理想ヲ置イテ居ル、吾々モ亦此一貫主
義ヲ目標ト致シテ本案ヲ組立テ考ヘデア
ルト云フ意味ノ御説明ガアツタノデアリマ
ス、併ナガラ一事業ノ獎勵ヲ爲スト云フガ
如キ場合ニハ、歐米其他ノ例ハ免ニ角ト致
シテ、國情ノ實際ト云フコトヲ考察致シタ
上テ立案致スベキデアル、即チ國情ニ依
テ緩急輕重ヲ圖リ、國情ニ適シタル所ノ獎
勵方法ニ非ズンバ、其效果ヲ齎スコトハ出
來ナイノデアリマス、現行法ガ何故ニ失敗
致シタカ、原因ハ種々ナル點ニ在ルデアリ
マセウガ、吾々ヲ以テ之ヲ考ヘマシタナラ
バ、此國情ヲ考察スルコトナク、漫然鐵鋼
一貫主義ニ其基調ヲ置イタ結果ナリト私共
ハ信ズル者デアリマス(拍手)今ヤ現行法ノ
失敗ノ後ニ、現政府ガ再々獎勵法ヲ御考究
ニナルニ當テ、現行法ノ失敗ヲ益ニ又復
繰返サレト云フガ如キ傾向ノアル點ニ至
リマシテハ、吾々ハ其意ノ在ル所ヲ了解ス

ルニ苦ムノデアリマス(拍手)是ニ於テ私ハ
政府ニ御尋致シタイノデアリマス、政府ハ
現行法ガ何故ニ失敗致シタカ、其原因何レ
ニ在リヤト御考デアリマセウカ、又其原因
ニ對シマシテ、如何ナル工夫、如何ナル用
意ヲ以テ本案ヲ御組立ニ相成タノデアアル
カ、本案ノ長所トスル所ヲ具サニ御説明相
成リタイノデアリマス、第二ニ製鐵事業ガ
振ハナイト云フコトソレ自體ニ於テ種々ナ
ル原因ガアリマス、併ナガラ各種ノ原因ノ
中デ、最も吾々ヲシテ重大ナリト考ヘシム
ル所ノ本質的缺陷ハ、何レニ在ルヤト申シ
マシタナラバ、ソレハ原料ノ不足ト云フコ
トニ歸著致スモノト吾々ハ信ズルノデア
ル、然ルニ此本案ノ内容ヲ見マスルト云フ
ト、本質的缺陷デアリマス原料ノ不足ト云
フ點ニハ、何等ノ意ガ注ガレテ居ラナイ
ト云フコトヲ發見スルノデアリマス(拍手)
我國ノ製鐵事業ニ關係ヲ致シテ居リマスル
八モノ爲ス所ヲ見マスルト云フト、何故カ
此原料ト云フ一點ニ向テ極メテ無頓著テ
アリ、暢氣デアルト云フコトヲ考ヘシムル
ノデアリマス、我國ノ多數カラザル製鐵所
ノ中デ、比較的免ニモ角ニモ形式上此原料
ト云フコトニ筋途ノ立テ居リマスル所ノ
製鐵所ハ、僅ニ八幡ノ製鐵所、釜石ノ製鐵
所アルノミデアルデアリマス、我國事
業界ノ權威デアリマスル、三菱ノ同族ノ計
畫ニ成ル兼ニ浦ノ製鐵所ノ如キモ、八千万
圓ト云フ巨額ノ資本ヲ投ジテ計畫致シタニ
拘ラズ、此原料ト云フ點ニ意ヲ用キナカ
ク爲ニ、今日ハ全ク立枯レノ状態ニナッ
テ居ルト云フ有様デアアルノデアリマス、又農
商務省ガ吾々ニ發表致シテ居リマスル數字
ニ依テ見マスルト云フト、我が日本内地鐵
鑛石ノ可採量ハ僅ニ二千五百噸ニ過ギナイ
ノデアリマス、朝鮮滿洲ニハ抄カラザル所
ノ鐵鑛石ガアルノデアリマスルガ、殆下總
テガ所謂貧鑛デアアル、其品質ガ極メテ惡イ
「ジョホール」デアルトク、或ハ南洋ノ地方
ニ參リマシタナラバ、相當品質ノ良イ所ノ
鑛石ガアルノデアリマスルケレドモ、是ハ
御承知ノ如ク二千五百噸、或ハ二千噸ト云

フ遠隔ノ地ニ在リマスルガ故ニ、若シ運賃
ガ上ホルト云フガ如キ場合ガアツタト致シ
マシタナラバ、到底此地方ノ供給ヲ以テ、
日本ノ原料ト致スコトハ出來ナイノデア
ル、斯ク觀ジ來リマスルト云フト、我國製
鐵事業ノ原料ヲ基礎的ニ依頼シ得ルモノ
ハ、獨リ對岸ノ揚子江沿岸ノ鑛石アルノミ
デアアルノデアリマス、而シテ此揚子江一
ヲ支配致シテ居リマスル支那政府ガ、此鐵
鑛石ニ向テ如何ナル態度ヲ執テ居ルカト
申シマスルト、彼等ハ所謂鐵國有主義ナル
モノヲ樹立致シマシテ、殊ニ我が日本ニ對
シマシテハ、鐵鑛ノ輸出ヲ殆ト禁止ノ態度
ヲ以テ臨シテ居ルノデアリマス、實例ヲ申
シテ見マシタナラバ、鐵鑛暫行辦法ト云フ
ガ如キ禁止ノ法律ヲ制定致シマシテ、鑛石
ヲ輸出致シマスル場合ニハ、一噸當リ輸出
稅ダケデモ一圓以上ノ重稅ヲ課シ、鑛石
ノ賣買ニ當リマシテハ、數量ノ如何ヲ問ハ
ズ、中央政府並ニ地方官憲ノ其都畏許可ヲ
得ナケレバナラナイト云フ嚴密ナル拘束ヲ
與ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ状態ニ
在リマスルガ故ニ、吾々ガ基礎的ニ依頼セ
バナラヌ所ノ揚子江一帯ノ鑛石ト云フモノ
ハ、我國ニ輸入サレル状態ハ甚ダ不安ナル狀
態ニ置カレテ居ルノデアアル、而モ此不安ナ
ル状態ガ何ガ故ニ我ガ政府ノ神經ヲ尖ラス
コトガ出來ナイノデアアルカ、我が政府殊ニ
外務省ガ此誤ヲ支那政府ノ爲シテ居ル事
柄ヲ、何ガ故ニ傍觀ヲ致シテ居ルノデアアル
カト云フコトハ、吾々ハ常ニ不可解ト致シ
テ居ル所デアアルノデアリマス(拍手)又當ニ
鐵鑛石ノミデアリマセズ、他ノ重大ナル
原料デアリマスル所ノ滿鐵鑛石ノ如キニ至
リマシテハ、果シテ何レノ地ニ此滿鐵鑛石
ノ供給ヲ我ガ日本ノ製鐵所ハ得ルノデア
ルカト云フコトニ對シマシテハ、全ク據ルハ
キ所ガ無イノデアアル、滿鐵鑛石ノ如キハ其
日暮シデアラテ、貯鑛ヲスラ持タナイノデア
ル、作業上全ク不安ナル状態ニ置カレテ居
ルト云フ實際デアアルノデアリマス(拍手)是
ニ於テ私ハ政府ニ御尋致シタイ、政府ハ鐵
事業ノ基本的缺陷デアリマスル此原料ノ供

給ニ對シテ、如何ナル方針ヲ樹立致シテ居
ラレルノデアアルカ、殊ニ此獎勵法ヲ制定セ
ラレントスル時ニ當テ、如何ナル御注意
ヲ此一點ニ集メラレタカト云フコトヲ御説
明ヲ仰ギタイノデアリマス、第三ハ本案ニ
於ケル保護助成ノ内容如何ト云フ一點デア
リマス、即チ保護ノ骨子ト致シテ居リマス
ル所ハ鑛石デアアルカ鐵鐵デアアルカ、或ハ鋼
デアアルカ、何レデアアルカト云フコトヲ御問
キ致シタイノデアリマス、一噸ニ對シテ幾
許ノ金ヲ如何ナル手續方法ニ依テ保護ス
ルト云フコトガ本案ノ内容デアアルカ、此内
容ガ示サレル所ノ案文ニ依テハ捕提ス
ルコトガ出來ナイノデアアル、吾々ハ之ヲ明
確ニ知ル必要ガアルノデアリマス、政府ハ或
ハ此點ハ勅令ニ依テ明示致スト云フ御考
デアリヤニ承知致シテ居ルノデアリマス、
併ナガラ此重要ナル數字、此重要ナル點ガ
勅令ニ俟タザレバ之ヲ知ルコトガ出來ナイ
ト云フガ如キ事柄ハ、本案ノ性質上斷ジテ
吾々ニハ満足スルコトハ出來ナイノデアリ
マス、殊ニ上來指摘致シタル如キ數字ハ、
製鐵事業ノ生産費ノ如何ト云フコトヨリ胚
胎ヲ致スノデアリマス、我國ノ製鐵事業ニ
於テ生産費ヲ少クスルト云フコトハ、極テ
困難ナル状態ニ在ルノデアリマス、政府
ガ數十年ノ間一億四千万圓ノ巨額ノ資
金ヲ投ジテ居リマスル若松ノ製鐵所デス
ラ、此大ナル資本ニ對スル元利ヲモ計算
ニ入レズ、又一切ノ税金ヲモ負擔スルコト
ナク、而モ其營業ノ成績ヲ見マスルト云フ
ト、僅カ收支ガ相償フト云フ程度デアリマ
シテ、利益ヲ上ゲルコトハ殆ト出來ナイト
云フ現狀ニ在ルノデアリマス、又數日前ニ
我が鐵道省ガ三菱ノ手ヲ經由致シマシテ、亞
米利加カラ「レール」ヲ輸入致シタノデア
リマスルガ、其「レール」ノ値段ハ八十五圓程
度デアラト云フ出シテ居リマスル値段ハ、
百十圓ト云フガ如キ大ナル差ヲ持テ居ル
ノデアリマス、此一事、即チ我が製鐵事業
ニ於テ生産費算出ガ極メテ困難デアリ、其
生産費ナルモノガ幾多ノ差額ヲ加ヘル餘地

ヲ持テ居ルモノデアルト云フコトヲ示シテ居ルデアリマス、是ニ於テ吾々ガ製鐵事業ノ發達獎勵ヲ大スニ當テ如何ナル點ヲ其調トシテ、目標ト致サバナラヌカト云ヒマシタナラバ、我が日本ニ於ケル製鐵事業ノ生産費ト其差額ガ、吾々ガ獎勵補助長スベキ所ノ目標トナケレバナラナイデアアル(拍手)故ニ私ハ本案ヲ審議スルニ當テ、政府ガ此生産費ノ差額ニ對シテ、數理的ニ其議案ヲ吾々議員ニ御示シニナルコトハ、當然ノ責任デアルト考ヘルノデアリマス、(拍手)私ハ之ヲ此場合明瞭ニ御示シアラシコトヲ御願致スデアリマス(拍手)第四ニ歐米ノ製鐵國ハ、何レモ關稅政策ノ成功ニ依テ其目的ヲ達シテ居ルノデアリマス、或ハ獎勵助成金ノ交付ト云フガ如キ政策ヲ執リマシタ國ハ、何レモ消費者ニ大ナル不便ヲ與ヘ、國民ニ迷惑ヲ與ヘテ失敗ノ跡ヲ貽シテ居ルノデアリマス、然ルニ何ガ故ニ現政府ハ此外國ノ失敗ヲ致シタル、經驗ヲ持テ居ル獎勵助成金交付ナル政策ヲ執リテ外國ガ成功致シマシタル所ノ關稅政策ヲ執ラナカッタカト云フコトヲ私ハ疑フ者デアアル(拍手)本案ガ上程セラレルニ至リマシタル徑路ヲ考ヘテ見マスト云フト、當初商工大臣ハ吾々等シク關稅ノ引上ニ依テ此目的ヲ達セラレル御考デアッタニ相違ナイデアリマス、然ルニ偶、印度ニ於ケル我ガ綿絲布貿易ノ關係カラ、若シ銑鐵ノ關稅引上ゲル時ニ於テハ、印度ニ於テモ我ガ綿絲布ニ對スル關稅ヲ引上ゲラレ、或ハ甚ニ忌ムベキ關稅戰爭ト云フカ如キ問題ヲ誘發スル虞ガアリハシナイカト云フ外務省ノ杞憂ニ基キテ、商工大臣ハ其素志ヲ齎サレ茲ニ關稅引上ニ代ハル所ノ獎勵助成金ノ交付ナル本案ヲ組立テラレタモノト吾々ハ承知致シテ居ルノデアリマス、果シテ然リト致シマシタナラバ、是ハ重大ナル誤デアリト私共ハ確信ヲ致ス者デアリマス(拍手)印度ニ於ケル綿絲布需要ノ大勢ヲ考ヘテ見マスト云フト、其總額ハ約十六億「ルビー」デアリマス、此中八億「ルビー」ハ印度内

ニ於テ生産セラレ、他ノ八億「ルビー」ハ是ハ輸入ニ俟テ居ルノデアリマス、而シテ我國ヨリ印度ニ輸入致シテ居リマス所ノ綿絲布ノ高ハ僅カ八千万「ルビー」ニ過ギナイデアリマス、語ヲ換ヘテ申シマシタナラバ、印度人ノ需要額ハ僅カ二十分ノ一ニ相當致スデアリマス、又總テ印度ヨリ我國ニ輸入致シテ居リマス銑鐵ハ、幾許程度デアルト申シマシタナラバ、之ヲ金額ニ直シテ見マスト云フト、僅ニ七百萬元ヲ過ギナイデアリマス、是ニ於テ吾々ハ一ツノ觀察ヲ爲ス必要ガアル、若シ英吉利ガ其國ノ基本的工業デアリマス紡績業ヲ、國ノ力ヲ以テ國策トシテ、之ヲ關稅政策ニ依テ保護スルト云フ必要ニ遭遇致シマシタト假定ヲ致シタナラバ、此英吉利ノ國策樹立ノ前ニハ、我國ノ區々タル七百万圓ノ銑鐵ノ輸入ニ小シテ關稅ヲ引上ゲルトカ、引上ゲナイトカ云フ小サナ問題ハ斷ジテ英吉利人ノ國策ヲ左右スル原因ニハナラナイデアリマス(拍手)又本案ハ先程申シマス通り、關稅ヲ引上ゲル代リニ爲サレタル所ノ獎勵案ナリト云フコトヲ事實ト致シマシタナラバ、關稅引上ニ依テ英吉利人ノ感情ヲ唆ルナラバ、本案ノ提案ニ依リマシテモ英吉利人ノ感情ヲ唆ルト云フコトニナルノデアアル、固ヨリ是等ノ内情ニ付キマシテハ、委員會ニ於テハ、秘密會ヲ要求セラレタノデアアルガ、委員長ハ現ニ此壇上ニ於テ其一端ヲ漏サレテ居ルノデアアル、ノミナラズ當時ノ日本ノ新聞ハ悉ク此内容ヲ書イテ居リマス、我國新聞ハ之ヲ譯載シテ居ルヲ英吉利人デ我國ニ居リマス人ミノ手ヲ通シテ、是ガ英吉利本國、或ハ印度地方ニ通信セラレテ居ルト云フコトハ、容易ニ想像スルコトガ出來ルノデアアル、若シ斯ノ如キ姑息ナル手段デ英吉利人ヲ胡麻化シ得ントスルガ如キ考ヲ持ツモノナラバ、幼稚極マルモノデアルト私ハ考ヘル者デアリマス(拍手)即チ此一點ヨリ考ヘ、更ニ又英吉利ノ關稅ノ關稅率ノ現狀ヲ見マスト云フト、印度ノ關稅率ノ現狀ヲ見マスト云フト、印度ニ於キマシテハ、銑鐵ニ對シ

テ從價一割ノ輸入稅ヲ課シテ居ルノデアリマス、又鋼ニ對シマシテモ三十「ルビー」、三十五「ルビー」、或ハ四十「ルビー」ノ重稅ヲ課シテ居ル、我國ノ三十三圓ニモナリマセウカ、斯様ナル重稅ヲ課シテ居ル、隨テ我國ガ少クモ此程度ニマデ我國ノ銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲマシテモ、彼等英國人ハ之ニ向テ異議ヲ挾ム餘地ハ一體ナイ筈デアアルデアリマス、殊ニ世界ニ於ケル此製鐵事業ニ對スル獎勵、振作ト云フコトニ向テハ、何レノ國モ極メテ徹底致シタル所ノ關稅政策ヲ用キテ居ルノデアリマス、英國ノ如キデスラ、千八百二十三年マデハ輸入ヲ全然禁止致シテ居リマシタ、亞米利加ニ致シマシテモ、千八百八十四年マデハ七割五分ト云フ禁止稅ヲ課シテ居ル、今日モ尚ホ二割ト云フ重稅ヲ課シテ居ル現狀デアアルデアリマス、斯様ナル點ヲ一々舉ゲマシテ考ヘテ見マスト云フト、我國ガ製鐵事業ヲ國是ト致シテ獎勵シ、其發達ヲ期待致シマスル場合ニ當テ、關稅政策ヲ取ラズ、姑息ナル獎勵助成金ノ交付ヲ爲シテ其目的ヲ達セントスガ如キハ、一大錯誤ナリト私ハ信ズルノデアリマス、私ハ此見地ニ立チマシテ、現政府ハ吾々ノ所見ヲ容レテ、近キ將來ニ於テ銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲ、所謂關稅政策ニ依テ獎勵ノ目的ヲ達スルト云フ御意思ガナイノデアラウカ、此點ヲ豫メ承知致シテ置キタイノデアリマス、第五ニ製鐵事業ニ對スル獎勵助成金ノ交付ト云フコトハ、成程其初年ニ於キマシテハ其金額ハ極メテ少イノデアリマス、併ナガラ外國ノ實例ヲ見マスト云フト、此助成金ハ逐次增加ヲ致シテ、遂ニハ其結果消費者ヲ煩ハシ、或ハ國民全體ニ大ナル迷惑ヲ掛ケテ、而モ其結果ハ失敗ニ終テ居ルノデアアル、政府ガ吾々ニ示シタル計算ニ依テ見マシテモ、近ク我國ハ鐵ノ需要、之ヲ銑鐵ニ直シマシタナラバ四百萬噸ト云フコトデアアルデアリマス、吾々モ此數字ガ早ク實現致スコトヲ望ム一人デアリマスルガ、假ニ此四百萬噸ト云フ數字ヲ舉ゲテ、此四百萬噸ニ對シ一噸ニ付五圓ノ獎勵金ヲ交付致スト致シマシタナラバ、

其金額ハ二千萬圓ニ相成ルノデアリマス、デ政府ハ此二千萬圓ト云フ數字ニ對シテ、如何ナル財源ヲ準備セラレテ居ルカト云フコトガ吾々ノ問題デアリマス、即チ此點ニ對シマスル政府ノ用意ノ在ル所、ソレヲ詳細ニ茲ニ御說明ニナランコトヲ希望致スデアリマス、之ヲ要スルノニ本案ハ極メテ不徹底デアアル、其内容ハ目的トスル所ニ副ハナイノデアアル、前申シマス通り、斯ノ如キ不徹底ナル案ハ與黨タル憲政會ノ諸君モ到底御満足ニナラナイト信ズルノデアリマス、所謂現内閣得意ノ羊頭狗肉ノ案デアルト私ハ考ヘルノデアアル、斯様ナル考ヲ以テマシテ、大體以上五點ニ付テ先ヅ政府ノ意ノ在ル所ヲ御說明アランコトヲ希望致ス者デアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 片岡商工大臣 (國務大臣片岡直溫君登壇)

○國務大臣(片岡直溫君) 只今森君ノ御質問ニ相成リマシタ點ヲ御答ヲ申上ゲマス、森君ハ鐵ノ事業ニ對シテ御經驗ヲ有セララル方デアリマシテ、御質問モ洵ニ適切デアルト存ジマス、第一ノ御質問ハ、現行ノ獎勵法ノ失敗ヲ致シタル原因ヲ政府ハ何ト見テ居ルカト云フコトガ、御等ノ要點デアッタト存ジマス、如何ニモ現獎勵法ナルモノガ完全無缺ノモノトハ言得ナイト存ジマスルガ、サリナガラ失敗トハ認メテ居リマス、其證據ハ是レアリシガ爲ニ免ニ角今日ノ鐵ノ出來高ヲ見ルノデアアル、唯、當業者ソレ自身ガ戰爭ノ後ニ於テ如何ナル變化ヲ生ズルカト云フ用意ガ足ラズシテ、唯、製鐵所ヲ持ヘルモノノ多ク、爲ニ失敗ニ相成テ居ル所ノモノトガ相當デアラウト存ジマス、若シ此獎勵法ヲ作りマシタ當時ニ於テ、今回改正ラケル如キコトヲモ用意シテ居リマシタナラバ、尙更宜カッタデアラウトハ言得ルノデアリマス、第二ノ御質問ハ原料ニ對スル問題デアリマス、是モ御述ニナリマシタ通り、何事ヲ爲スニシテモ其原料ヲ無視シテ仕事ニ取掛ルト云フガ如キコトハ輕率ヲ免レナイ、單リ製鐵ノミニ

ハ限ラヌト存ジマス、併ナガラ戦争ノ爲ニ
總テノ貿易ガ杜絶シテ、内地ニ必要ナルモ
シテヲ滿サナケレバナラヌト云フコトニ迫ラ
レテ、事業計畫ヲ進メタト云フモノハ、製
鐵事業ノミデハナイト思ヒマス、而シテ現
在製鐵所ノ原料其モノガ豊富デナイト云
フコトハ尙速ベノ通りデアリマス、サリナ
ガラ此原料ヲ買入レルコトヲ獎勵法ノ下ニ
仕組ムト云フコトハ、是ハ少々當ヲ得テ居
ラヌト私ハ考ヘル、是ハ別ノ方法ニ依ルベ
キモノト思ヒマス、固ヨリ何品ニ拘ラズ、
需要ト供給ノ關係ニ於テ價格ニ變動ヲ生ズ
ルモノデアアル、ソレ故ニ原料ノ必要トスル
コトニ於キマシテハ、別ノ手段方法ヲ以
テ、我國ノ原料ニ缺乏ヲ來サナイヤウニス
ルコトヲ努メルコトハ當然デゴザリマス、
即チ當業者等ヲ集メ、鐵ノ事業ニ關シテ、
從來ノ如ク目前ノ事ノミニ拘泥セズニ、協
同一致シテ、以テ無益ノ競争ヲ避ケ、生産
費ヲ安クセシムル方法ヲ執ラナケレバナラ
ヌ、是ガ爲ニハ、原料買入ノ如キモノニ於
テモ、各自手ヲ出シテ、以テ其原價ヲ高カ
ラシムルコト云フガ如キ拙策ヲ避ケテ、協同
ノ下ニ於テ、之ヲ求ムルノ手段ヲ講ズルコ
トニシナケレバナラヌト云フ見地ノ下ニ於
テ、相當研究ヲ重ネ、當業者モ亦此意見ニ
一致シテ居ル所デゴザリマス、即チ御話
ノ如キ原料豊富ナル方面ニ於テ、相當ノ契
約ヲ爲スト云フガ如キコトモ是ヨリ進ミ得
ルト存ジマス、又内ニ於キマシテモ、彼ノ
砂鐵ノ如キモノヲシテ、製鐵ノ用ニ爲サシ
ムル爲ニハ、モウ少シ研究ヲ要スルノデア
リマシテ、豫算ノ上ニ於テ、相當ノ研究費
ヲ御協賛ヲ下サレテ居ルノデアリマス、又
現在鐵ノ原料トナルベキモノニシテ、廢レ
テ居ルモノノ澤山アルノデアリマス、其廢
レテ居ルモノヲ蒐集シテ、以テ原料ニ供ス
ルト云フガ如キコトモ、是モ進メテ行カナ
ケレバナラヌノデアリマス、又今日マデ既
ニ此鐵山ノモノハ役ニ立タヌト考ヘ、テ居
タモノニシテ、或ハ研究ノ結果トシテ、確
ニ有用ナルモノモアルノデアリマス、即チ
原料ニ供スルニ足ラズトシタモノガ、寧ロ

有用ナル品物ナリト認メラル、モノモアル
ノデアリマス、故ニ内ニ於テ原料ヲ得ル途
ヲ攻究スルコトヲ怠ラズ、外ニ於テモ亦豐
富ナル所ニ於テ相當ノ契約ヲ致シテ、此我
國ノ鐵ノ國策ニ向テ、故障ヲ生ジナイヤ
ウニ致シタイト云フコトハ考ヘテ居ルノデ
アリマス、唯、其事柄ヲ、此獎勵法ノ條章
ノ中ニ含メルト云フコトヲ致サナイマデノコ
トデアリマス、第三ノ保護ノ内容、即チ獎
勵金ヲ受ケルモノガ鐵材ノミニシテ、鋼ハ入
テ居ナイカドウカ、是ガ御尋ノ要點デア
ト存ジマスルガ、今回ノ獎勵法ハ鐵鐵ヨリ
起テ、鋼材マデ一貫シテ仕事ヲ進メルモ
ノニ向テ獎勵ヲスルノデアリマスルカラ、
即チ鐵鐵ヲ用キテ、鋼若クハ他ノ鐵材ヲ造
ルト云フモノハ矢張獎勵金ハ得ラレルノデ
アリマス、而シテ此點ヲ御速ニナル時ニ、
鐵道省ニ於テ亞米利加ヨリ得タ「レール」ハ
八十四圓デアツテ、製鐵所ガ納メルノハ百
十一圓デアツテ、其差甚シキ状態ニ在ル、
此一點ヲ押ヘテ、鐵道省ニシテハ外國ヨリ
入ルモノト、内地ニ出來ルモノトノ其差ヲ
押ヘテ、以テ關稅政策ヲ攻究シナケレバナ
ラヌト仰セラレタノデアリマス、此事實ハ
私ハ、鐵道省ニ於テ最近八十四圓デアツタ
カドウカト云フガ如キコトハ、マダ承テ
居リマセマツガ、是ガ爲ニ總テ關稅ヲ賦課ス
ル所ノ標準ヲ示セト云フ御要求ニ對シテ
ハ、是ハ關稅ト委員會ニ於テ當局者ヨリ説
明ヲ致シマシタ通り、相當ノ據リ所ヲ以テ
現在ノ關稅ト云フモノハ算出ヲ致シタノデ
アリマス、併ナガラ貿易ノ状態ハ時ニ變
化スル、其變化スル一時ノ出來事ヲ押ヘ、
ソレヲ將來ノ根據ニ致スト云フコトモ亦穩
當ナリトハ言ヘマイト思ヒマス、非常ナ引
下ヲ行テ來ルト云フコトニ付テハ相當ノ
理由ガアリマセウカラ、其理由ノ本ヲ尋ネ
テ、不當ナルモノニ對シテハ、所謂不當廉
賣法ニ依テ當業者ヲ保護シテ行クト云フ
手段ヲ執ルノ外ハナイノデアアル、斯ノ如キ
手段ヲ執ルモノ尙ホ不十分ナリト云フガ如キ
コトゴザリマスレバ、是ハ當設調查委員會
ノ手ニ於テ十分ノ調査ヲシテ、更ニ次ノ議會

ニ於テ御協賛ヲ求メル手段ニ出デル外ハナ
イノデアリマス、唯、此機會ニ一言シテ置
キマスコトハ、我國ノ關稅其モノハ、近來
コソ始メテ國定稅率ニ相成クノデアリマ
スルガ、一ツノ英國ニ對スル條約ゴザリ
マシタ爲ニ、現在ノ關稅其モノハ比較的不
當ナルモノガ多イノデアリマス、之ヲ今日正
當ノモノニ引直スト云フ時ニ當テハ、非
常ニ高ク世間ニ映ルト云フコトゴザリマ
ス、又此英國トノ條約ノ改正ニ際シマシテ
モ、一躍自己ノ都合バカリヲ圖ルモノデナ
イト云フガ如キコトヲ證明致シマシタコト
ハ少クナイト思フノデアリマス、故ニ我國
ノ關稅ヲシテ眞ニ適當ニ、十分ナル所ニマ
デ落着ケマスルニハ、サウ掌ヲ反スヤウニ
ハ參ラヌト思フノデアリマス、次ノ御質問
ノ第四、歐米諸國ハ總テ關稅ヲ以テ事業其
モノヲ保護致シテ居ル、ソレガ又當然デア
ル、何故ニ歐米諸國ニ於テ失敗ノ事實ノア
ル事ヲ日本ニ取テ之ヲ執行フカ、此攻
撃ノ御質問ニ對シマシテハ、他國ニ於テ失
敗ノアツタモノガ日本ニ於テ必ズ失敗ヲス
ルト定マツタモノデハナイノデアリマス、
他國ノ失敗ノ仕方ヲ見テ以テ日本ハ失敗ニ
陥ラヌヤウニスレバ宜シイノデアリマス、サウ
人ガ負ケタカラ此方モ負ケナケレバナラヌ
ト云フガ如キモノデモアリマス、我國今
日ノ製鐵業其モノハ、狀態ハ、第一ノ御質問
ニ對シテ申上ゲマシタ如ク、戰爭ノ爲ニ輸
入品ノ杜絶ノ時期ニ於テ、早ク物ヲ拵ヘタ
イト云フ所ニアセテ、設備ガ甚ダ不十分デ
アリマス、其不十分ナルガ爲ニ、今日ニ於
テハ非常ニ不經濟ナモノガアル、此不經濟
ナルモノヲ經濟的ニスルニハ、今回獎勵法
ノ如ク鐵鐵ヨリ始マテ繼續的ニ鋼材ニマ
デ續ケテ行クト云フコトハ、是ハ熱ノ經濟
ノ上カラ申シマシテモ利益、ソレカラ工程
ヲ別々ニ立テルトキニ考ヘマシレバ、勞銀
ノ上ニ於テモ、雜費ノ上ニ於テモ、確ニ節
約ノ出來ル筈デアリマス、即チ現在ノ製鐵
業者ヲシテ、斯ノ如ク經濟的ニ導イテ行ク
ト云フコトニハ、是ハ獎勵法ヲ以テ之ヲ導
イテ行クトゴ適當ナリト思フノデアリマ

ス、又御尋ノ中ニ印度ニ關スル事例ヲ御引
ニナシテ、大分質問ノ御趣旨ヲ御速ニ相成
リマシタガ、私ハ此場合ニ於テ印度關係ノ
事ヲ申上グルコトヲ欲シナイノデアリマ
ス、此關係ガ起リマシタ爲ニ、之ニ代ハル
ニ獎勵法ヲ布イタナラバ、甚シキ失敗デア
ラウト云フ仰セデアリマシタ、固ヨリ關稅
ヲ引上グルコトヲ以テ製鐵ノ根本策ヲ樹テ
ルコトモ一ツノ意見ニ相違ナイト思ヒマ
ス、サリナガラ日本ノ今日ノ製鐵業者ノ狀
態ニ對シマシテハ、寧ロ獎勵法ヲ行ツテ、鐵
鐵ヨリ始マテ鋼材マデ繼續的ニ爲サシム
ルヤウニ之ヲ導キ、今マダ其設備ノ不十分
ナル點ノモノニ對シテハ、之ヲ設備スルコ
ト云フ條件ノ下ニ獎勵ヲ加ヘテ行キサヘスレ
バ、結局其目的ヲ達スルニ至ルデアラウ、
斯ウ云フ所信ヲ以テ獎勵法ヲ御協賛ヲ求
ムルコトニ致シタノデアリマス、關稅ガ出來
ナイカラヤラナクシテ、別ノ法ヲ取ツタト
云フ意味デハナイノデアリマス、第五ノ御
質問ハ、日本ノ需要額ハ約四百萬噸ト云フ
コトデアアルガ、斯ノ如キ域ニ達スレバ二
萬圓ノ金ヲ要スル、如何ニモ御尋ノ通り、
最初ハ少クシテ段々量ガ増スニ從テ獎勵
金ノ多額ニナルト云フコトハ、是ハ避ケバ
カラザルコトデアリマス、サリナガラ我國
ノ現在ノ鐵ハ、官營ノ製鐵所ガ拵ヘマスル
モノガ半分以上デアリマス、又一足飛ニ御
懸念ノ如キ金ヲ、直二十六年度ニ要スル
ト云フガ如キコトニ發達ヲスルト云フコト
ハ、出來得ナイコトハ、森君ト雖モ御承知
ノ筈デアリマス、是ハ漸次其所ニ到ルベキ
モノデアアル、漸次其所ニ到レテ鐵ノ自給自
足ガ出來ルコトニナレバ、製鐵ノ國策其モ
ノハ目的ヲ達スルコト、シテ喜ンデ宜シイ
コトデアラウト思フテ居リマス(拍手)

(森格君登壇)
○森格君 只今商工大臣ヨリ詳シキ御答辯
ガアツタノデアリマスルガ、私ハ其御答辯ノ
内容ヲ拜聽致シテ居リマシタガ、要スルニ
顯ミテ他ヲ申サレタノデアリマス、本員ノ
質問ニ對シテ居リマシタ所ヲ御答ニ相
成クノデアリマセマツ、若シ時間ガ許ス

トラバ、私ハ此所ニ其一々ヲ捉ヘテ辯駁ヲ試ミタイノデアリマスルガ、會期ノ切迫致シテ此所ニ於テ更ニ要點ヲ御質シテ致シタイ積リデアリマスルガ、唯、一點此所ニ關テ問題ニ對スル商工大臣ノ御答辯ハ、實ニ吾々ヲシテ片岡國務大臣デモ斯様ナ御答辯ヲ爲サルカト云フヤウナ感ジテ致シタノデアリマス(拍手)空々レ自己ノ良心ニ反シタル所ノ御答辯デアルノデアリマス、併ナガラ此點モ亦此席上ニ於テ御答辯相成ルコトヲ好マザルヤノ御様ナデアリマスルガ故ニ、私ハ追究ヲ致シマセヌ、唯、一貫主義——銑鋼一貫主義ハ、熱ノ經濟其他ニ於テドウシテモ必要デアルト云フ御話デアリマシタ、固ヨリ其地リデアリマス、吾々モ銑鋼一貫主義ハ、今日ノ製鐵事業界ノ最モ理想トスル所デアリ、我國モ其點ニ到達セネバナラヌト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアリ、併ナガラ我國ノ製鐵事業ハ、政府自ラ獎勵案ヲ考ヘネバナラヌ程ノ幼稚ナル狀態ニ在ルノデアリ、銑鋼一貫主義ガ未ダ實行サレテ居ラナイノデアリマス、若シ之ヲ實行セント致シマスルトキニ、嚴密ニ之ヲ申シマシタナラバ、我國現存ノ製鐵所ノ中デ、此一貫主義ヲ實行致シテ居ル製鐵所ハ、果シテ幾ツアルカト云フ質問ヲ致シタノデアリ、理想ヲ捉ヘテ現實ヲ捉フルコトヲ忘レタ此一點ハ、矛盾デアルト私ハ指摘致シタノデアリマス(拍手)併ナガラ時間經濟ノ爲ニ、私ハ茲ニ遺憾ナガラ質問ヲ此程度デ打切リマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 前田房之助君
 ○前田房之助君登壇
 ○前田房之助君 前田房之助君致シタイノデアリマスルガ、既ニ質問セントスル大部分ハ森君ニ依リテ質問サレマシタカラ、成ベク重複ヲ致サナイヤウニ質問致シマス、唯、併ニ森君ノ質問ニ對シマシテ、片岡商工大臣ハ願ヒテ他ヲ言ハレタ點モ略クナイノデアリマスルカラ、此點ダケハ重複ヲ厭ハズ質問ヲ致シタイと思フノデアリマス、第一、政府ハ國力ノ充實ヲ圖リ、我が

國家ノ健全ナル發達ヲ期スルガ爲ニ、我國ノ産業ノ中デ特ニ工業ノ發展ニ力ヲ盡サレテ、製鐵業ノミナラズ、有ユル工業ニ對スル國策ヲ樹テ、工業ヲ以テ我が産業ノ基調ト致シテ、所謂工業立國ノ實ヲ舉グルト云フ御考ナキヤ、其點ヲ第一ニ御執致シタイノデアリマス、此産業政策ノ根本方針ガ確定致シテ居リマセヌガ爲ニ、廢ノ關稅定率改正法ニ對シマシテモ、又本案ニ對シマシテモ、頗ル不徹底ナ嫌ガ起テ居ルノデアラウト思フノデアリマス、又近時我が朝野識者ノ輿論デアリマスル所ノ東洋國策ナルモノモ、空ク之ニ由リテ我國ノ工業立國ナルモノヲ助成ヲ致シテ、サウシテ我國ノ生存權ヲ永久ニ確保スルト云フ所ノ點カラ出發シテ居ルノデアラウト思フノデアリマス、併ナガラ固ヨリ農業、商業、工業、其他有ユル産業ノ隆盛ナラントヲ熱望シ、又出來得ル限リシテ實現ニ努力スル者デアリマスルケレドモ、國家ノ財政ニハ自ラ限度ガアルノデアリマス、又我國ノ産業狀態、經濟事情、國防關係、人口、土地、生産原料、其他内外諸般ノ國情ヲ考ヘマス時ニ於テ、私ハ工業ヲ以テ國ノ基礎トシテ、サウシテ産業ノ基調ト致シタリマス、近時モ必要デアラウト思フノデアリマス、近時産業立國ノ聲モ盛デアリマス、洵ニ結構デアリマスルガ、併ナガラソレニ付キマシテ何等具體的ノ立案ヲ今日マデ聞カナイト云フコトハ、私共ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、又農村ノ振興政策ノ如キモ、固ヨリ必要デアリマス、私共ハ出來得ル限リノ努力ヲ致サナケレバナラヌト思フノデアリマス

テ、農業ヲ以テ我國産業ノ基礎トスルト云フコトハ、恐ラクハ何人モ肯定シ得ナイ事實デアラウト思フノデアリマス、又海外ノ例ヲ見マスルニ、獨逸ヲ見マシテモ、英吉利ヲ見マシテモ、亞米利加ヲ見マシテモ、此工業ニ特ニ力ヲ入レタル國家ハ榮エテ、然ラザル國家ハ衰亡ノ傾ガアルト云フコトハ、近代經濟史ノ明ニ證明致シテ居ル所デアラウト思フノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ、政府ガ率直ニ而モ大膽ニ、其所信ヲ披瀝サレシコトヲ希望スル者デアリマス、或ハ政府當局ト致シマシテ、各種ノ産業ハ密切ノ關係ガアル、隨テ時勢ニ應ジテ公正ニ各産業ノ發展ヲ圖ラナケレバナラヌト云フヤウナ御答ガアルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ屬僚政治家ノ口ニスル所デアリ、苟モ國家ノ大所高所ヨリ見テ、我國ノ産業ノ振興ヲ圖ルニ、此産業ノ政策ノ根本方針ヲ御定メニナシテ、サウシテ根本方針ノ實現ヲ期セラレルト云フコトガ、是ハ政黨政治家、立憲政治家ノ義務デアラウト思ヒマスカラ、何卒亦裸々ニ其所信ヲ此席上ニ於テ述ベラレシコトヲ希望スル者デアリマス、第二ニ御申請上ゲマスルコトハ、本案ニ依リテ保護獎勵ニ依リマシテ、果シテ製鐵事業ノ確立ヲ期シ得ルト云フ御自信アリヤ否ヤト云フ點デアリマス、又果シテ斯ル御自信ガアリマスナラバ、何ヲ根據ト致シテ斯様ノ御自信ヲ抱カレタカト云フコトヲ御申請上ゲタイト思フノデアリマス、只今片岡商工大臣ハ森君ノ質問ニ對セラレテ、現行法ハ相當ニ效果アルモノデアラウト、斯様ニ申サレタノデアリマスガ、併ナガラ現行法ノ實施以來、今日ニ至ルマデノ製鐵事業ノ現狀ハ、明ニ此現行法ノ失敗シテ居ルコトヲ物語テ居ルモノデアラウト思フノデアリマス、試ニ其例ヲ申上ゲマスト云フト、大正六年現行法實施以來、全國ニ於テ約八十ノ製鐵所ガ出來タノデアリマス、然ルニ今日マデニ既ニ七十五ノ工場ハ其作業ヲ中止致シテ居ル、或ハ全然廢業ヲ致シテ居ル、僅ニ殘テ居ルモノハ五ツシカナイノデアリマス、サウシテ殘テ居

リマス所ノ釜石ノ製鐵所、鶴岡ノ製鐵所、兼二浦ノ製鐵所、是等悉ク相當ノ損ヲ致シテ居リマス、此事實ハ明ニ私ハ現行法ガ適當ナル制度デナカッタト云フコトヲ如實ニ語テ居ルモノデアルト思ヒマス、無論大正九年ノ財界ノ急轉直下ノ不況ニ依リマシテ、非常ナ打撃ヲ受ケタコトハ事實デアリマス、併ナガラ若シ現行法ナルモノガ相當效果ガアリマシタナラバ、私ハ八十ノ中七十五マデ廢業スルヤウナ結果ニ陥ラテ居ラヌト思ヒマス、此點ハ明ニ現行法ノ失敗ヲ物語テ居ル何ヨリ證據デアルト思ヒマス、其他海外ノ例ヲ森君ガ述ベラレタニ對シテ、外國ハ外國デアアル、我が日本ノ國ハ外國ニ見習フ必要ハナイト云フ御答デアラウトデアリマスガ、併ナガラ我國ガ英、米、獨、佛ニ比シテ、其原礦ノ數量ヨリ致シマシテモ、又石炭ノ質カラ致シマシテモ遙ニ劣テ居ル、其劣テ居ル國家ガ海外ヨリ、ヨリ少イ所ノ保護獎勵ニ依リテ、果シテ製鐵事業ノ確立ノ目的ガ達セラレルト云フ御考ヲ持テ居ラレマセウデアリマスガ、私ハ少シク例ヲ舉ゲテ申上ゲマス、英國ニ於テハ御承知ノ如ク千八百十五年ニハ銑鐵一噸ニ付テ一弗ノ保護デアリマシタガ、千八百七十年ニ於キマシテハ、一噸ニ付テ七弗ノ高率ヲ課シタノデアリマス、サウシテ千八百九十年ニ於キマシテ、彼ノ有名ナル「マッキンレー」ノ保護政策ニ依リテ、初メテ英國ノ製鐵事業ヲ完成致シタノデアリマス、又獨逸ノ如キモ千八百四十四年ニ於キマシテハ、銑鐵一噸ニ付テ二十馬克ノ關稅ヲ掛ケテ、サウシテ漸ク製鐵事業ノ基礎ガ確立致シマシタニ付テ、千九百十年ニハ二十馬克ニ引下ゲタノデアリマス、ケレドモ免ニ角保護關稅ヲ設ケタトキニハ二十馬克ヲ課シタノデアリマス、又英國ノ例ヲ取テ見マシテモ、英國ハ御承知ノ如ク十八世紀ノ末葉ニ於テ關稅政策ヲ行ツタノデアリマスガ、其當初ハ銑鐵一噸ニ付テ二磅十志十片ヲ課シテ居タノデアリマス、其後緩然タル保護政策ヲ實

國ト云フコトニ全力ヲ盡シテ、他ノ方ノ事ヲ無視スル御意味デハナカッタト存ジマスガ、稍、輕視シテ御考ノヤウニ伺ヒマス、是ハ輕視スルコトハ農民多數ヲ占メテ居ル我カ國情下シテ許サナイコトデアルト存ジマス(ヒヤ)工業ノ上カラ申シマスレバ、今日ノ製鐵事業ニ對シテ獎勵法ノ協賛ヲ求メマスルコトモ、又染料工業ニ對シテ重キヲ置イテ居リマスルコトモ、是皆化學工業ノ上ニカフ致サナケレバナラヌト云フ考ノアルコトヲ證據立テルコト、思フテ居ルノデアリマス、其他工業試驗所ニ於テ窒素ノ研究ノ如キ、今中間試驗ニ移シテ居ルノデアリマスガ、是等モドウシテモ自給自足ニ致サナケレバナラズ、其自給自足ニ至ル曉ハ、農民モ亦之ニ依リテ多クノ肥料ヲ得テ、而モ經濟的ニ得テ以テ利益スルト云フコトニ相成ルノデアリマス、其他曹達灰ノ如キモノニ至リマシテハ、最早成功スルコトハ間違ヒガナイマデニ試驗ハ濟シテ居ルノデアリマスガ、詰リ是等ニ要スル所ノ鑛質モノガ、我國ニ於ケル需給ノ關係ガ稍、平衡ヲ待テ居ルノデアリマス、是等工業ニ要スル所ノ鑛ニ致シテハ、別段ノ考慮ヲ致サナケレバナラヌ、唯、考慮スルノミデハ事足ラヌコトデ、是ハ方針ヲ確定シナケレバ相成ラヌコトニナリテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ於キマシテモ、速ニ其方針ヲ確定スルコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ工業立國ノ御趣旨ハ、商工省トシテ懷イテ居リマス所ト差別ハナイ、斯ウ御承知下スツテ宜イノデアリマス、次ニ現在ノ獎勵法ノ下ニ、製鐵事業ヲシテ念、自給自足ノ域ニマデ確立セシムルコトガ出來ルカ否ヤ、此御質問デアリマスガ、現在此製鐵事業ヲシテ一日モ速ニ成功セシムルニハ、關稅ヲ十分ニ引上ゲルト云フコトガ一番仕物イ事デアリマス、一番又效果ガ有ルモノデアリマセウ、サリナガラ我國ニ出來ル所ノ鐵ノ約半分ハ、今輸入ニ仰イデ居ルノデアリマス、此關稅ヲ一時ニ引上ゲタガ爲ニ、其國民ノ多數ガ非常ニ高キ鐵ヲ使用シ

ナケレバナラヌト云フコトニ陥ルノデアリマス、製鐵業者ダケカラ申セバ關稅ヲ引上ゲルコトヲ欲スルノデアリマス、消費者ノ側カラ云ヘバ關稅ヲ成タケ安クシテ貰ハナケレバナラヌト云フコトヲ主張スルノデアリマス、是ハ利害相反スル事柄デアリマス、ソレ故ニ製鐵事業ヲシテ眞ニ自給自足ノ域ニ達セシムル爲ニハ、成ベク國民ヲシテ苦痛ヲ甚シカラシメザル程度ニ於テ之ヲ力メナケレバナラヌト思フノデアリマス、其點カラ申シマスルト、鐵鐵ヨリ始マテ鋼材マデニ一貫シテ行フト云フ此設備ノ整ヒマシタ曉ハ、生産費ニ於テ、約七方圓餘ヲ減ズルト思フノデアリマス、ソレカラ今日獎勵金ヲ與ヘルコトヲ先ヅ別ニ致シマシテ、現在ノ獎勵法其モノニ依リマシテ之ヲ茲ニ延期ヲ致シ最早期限ガ來テ居ルノデアリマス、之ヲ期限ヲ延ベマスル爲ニ、獎勵法ノ下ニ受クル獎勵金ノ外ニ、所謂所得稅トカ營業稅トカ云フモノ、免稅ヨリ致シテ、鋼材一噸ニ對シテ約一圓八十二錢ノ補助ヲ加ヘラレタト同ジ結果ニナツテ居リマス、サウスルト設備ノ改善ニ依リテ生産費ガ七方圓餘安タナリ、所得稅、營業稅ノ免除ニ依リテ一圓八十二錢安クナリ、獎勵法ニ依リテ受クル所ノ金ヲ合セテ相當ノ金額ニナルト思フノデアリマス、而シテ何ニ依リテ此獎勵法ノ根本ヲ定メタカト云フ御話デアリマス、是ハ詳細ニ互リマサルト委員會デ申上ゲル外ハアリマセウ、大體ニ於テ今日輸入シテ來ルモノニ對スル日本ノ製品トシテ比較シタモノデアアルノデアリマス、而シテ果シテ確立スルヤ否ヤト云フ此根本ノ御尋ニ對シテ、當業者ト監督者ト一致協力ノ結果確ニ成功スルト存ジマスルガ、當業者ガ今申シタ通り利益ヲ得ルヤウニカメルコトハ、當業者ニ於テ爲サネバナラヌ、是等ガ果シテ爲スカ否ヤト云フコトハ、政府者ニアラズシテ當業者デアアル、其當業者ト政府者トガ相兼ネテ居ルト云フコトナラバ、何年掛テラヌウナルト云フコトヲ申上ゲルノデアリマスガ、現ニ枝光製鐵所ノ如キハ是デ十分ニ行クノデアリマス、故ニ官營

ノ方カラ申シマスレバ、無論行クノデアリマスガ、此點カラ申シマスレバ、官營ニハ資本ニ對スル利子ヲ拂シテ居ラヌト云フガ如キ御論モ起リマセウガ、其利子ヲ控除致シマシテモ、算盤ハ出ルコトニナツテ居リマス、サウシテ見ルト、此獎勵法ニ依リテ當業者ガ茲ニ奮勵努力シテ以テ國策樹立ニ副フ、此所マデ努力メルト云フコトニ依リテ效果ノ完成スルモノト申サナケレバ、此何年ヲ期シナト云フガ如キコトハ責任ヲ以テ御答ハ出來ル事柄デナイト思フノデアリマス、ソレカラ外國ヨリ少キ補助云々ノコトモゴザイマシタガ、是ハ前段ニ御說明ヲ申上ゲタコトニ依リテ、大略ヲ御承知下サツタト思フノデアリマス、ソレカラ外國ノ獎勵法ハ失敗デアッタ、之ヲ森君ノ述ベラレタ點ニ對シテ重ネテ御述ニナリマシタガ、是ハ其國ノ事情ニモ依リマセウ、凡ソ物ノ補助ト云フモノハ、補助金ガアルガ爲ニ補助金ニ依賴シテ以テ改良ヲシナイト、斯ウ云フコトニ流レ易イノデアリマス、今回ノ獎勵法ハ、現在ノ設備ヲ斯様ニ改良シテ此獎勵法ニ副フヤウニ致スルコトヲ先ヅ立テサセ、之ヲ何時マデノ間ニ實行スルト云フコトニ依リテ、ソレヲ信ジテ助成金ヲ遣ルノデアリマス、若シ其決メタ事柄ヲ實行致サナカッタラバ、獎勵金ハ取上ケルコト云フコトニナリテ居リマス、サウ云フ風ニ定ムル積リネアリマス、ソレ故ニ唯製品ノ分量ニ應ジテ遣ルト云フモノトナリ、以上ハ、相當ノ效果ハアルト信ジテ居リマス、此答ニ依リテ、當業者ノ財政ヲ調ベテ云々ト云フコトノ御質問ハ、御了解ガ出來タカト存ジマス、ソレカラ監督ノ方法ヲ如何ニスルカト云フコトデアリマス、是ハ素人デハ監督ハ出來ナイ、ソレ故ニ既ニ製鐵所技監野田氏ヲ商工省ノ兼務ヲ命ジマシテ、サウシテ是ガ監督ニ當ラシメルヤウニシテアルノデアリマス、何レ其監督ノ方法其細詳細ノ事ニ至リマシテハ、委員會ニ於テ野田政府委員ヨリ詳細ニ御答ガ出來ルト存ジマス、ソレカラ共同販賣ノ設備ノ結果、惡イ品物ヲ高ク賣ルヤウニナリハセスカ、斯

ウ云フコトデアリマスガ、惡イ品物ヲ高ク賣ルヤウニナラウトハ存ジマセウ、左様ナコトハ致サセマセウガ、ソコマデ來レバ大變結構デアリマス、其弊ガ出來テ、之ヲ矯正スルコトニ相成ルマデニ、此共同販賣ノ實績ガ舉ガルヤウニナレバ、洵ニ結構デアリマス、若シソコマデ來マシタナラバ、其弊害ヲ見出セバ是ガ矯正ニ努メルト云フコトハ當然ノ事デアツテ、此矯正ヲ致スコトハ、何モ困難ハナイト思ヒマス、次ハ滿蒙ニ對スル御尋デゴザイマシテ、至極御尤デアリマス、併ナガラ滿蒙ハ我國ノ領土デハナイ、此獎勵法ヲ滿蒙ニ適用スルト云フコトハ出來得ナイノデアリマス、併ナガラ我國ノ勢力ニ於テ、滿蒙ノ仕事ガ今日進んで居リマスル以上、之ヲ無視シテ置クト云フコトハ出來得ナイ、是ハ分リ切テ居ル、ソレ故ニ此滿蒙方面ニ對シテハ、此獎勵法ヲ御協賛ヲ得ルト同時ニ相當ノ考慮ヲ致シテ、彼等ノ苦痛ノ無イヤウニ致サウト云フ事ヲ決メテ居ル次第デアリマス

○前田房之助君 簡單デアリマスカラ當席カラ御許シテ願ヒマス、只今片岡國務大臣ハ私ノ質問ニ對セラレマシテ、私が農村振興ヲ輕視シタ嫌ガアルト云フ言葉ヲ用キタト仰シヤクノデアリマスガ、私ハ斷シテ斯様ナ言葉ハ用キナカッタノデアリマス、今日我國ノ農村ノ振興救済ヲ圖ルト云フ所ノ根柢ハ、社會政策上ノ見地カラ出タト云フコトガ第一デアアルト云フコトヲ申上ゲタニ過ギナイノデアリマスカラ、左様ニ御諒解ヲ願ヒタイト存ジマス

○政府委員(櫻金金義君) 只今前田君ノ御質問デ、朝鮮ニ於ケル酒精並ニ綿織物ノ輸入稅ヲ撤廢スル意思ガナイカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ内地ノ制ノ改正ニ伴ヒマシテ、各種民地ノ稅制モ其趣意ニ順應シテ改正ヲシタイト云フ積リデアリマシタケレドモ、各種民地何レニ異ナル事情ヲ持ッテ居リマシテ、今回直ニ之ヲ實行スルト云フ譯ニハ至リマセウ、隨テ十六年度マデニ於テハ、ソレト調査ヲ遂ゲテ、内地ノ方針ニ順應シテ進ムト云フコトニナツテ居ル

ノデゴザイマス、又朝鮮ノ朝鮮人ニ最モ必要ナル粟ニ對シテ、此輸入税ヲ除外スルノ考ハナイカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ御承知ノ通り今日ニ於キマシテハ、粟ニ對シテハ一石五十錢カノ輸入税ヲ掛ケテ居リマスガ、若シ凶作其他必要ノ場合ニ於テハ、朝鮮總督府ニ於テ臨時ニ是ガ方法ヲ講ジテ、此税金ヲ免除スルト云フ規則ニ今日ナクテ居ルノデアリマス、隨テ其必要アレバ、是其必要ニ應ジテ朝鮮總督府ガ免除スルト云フコトニ今日ナクテ居リマスガ故ニ、此點ニ付テハ其手段ニ依リテ進ムト云フ考デ居ルノデゴザイマス、以上御質問ノ要點ヲケテ申上ゲマス

○副議長(小泉又次郎君) 猪野毛利榮君

○猪野毛利榮君(極ク簡單ニ一二點御尋致シタイト思フノデアリマス、日本ノ鐵國策ト云フモノハ非常ニ重大ナル問題デアルト私ハ思フノニ、取扱方カ如何ニモドウモ早足テ、而モ冷淡ノヤウニ考ヘラレルノデアリマス(「簡單」ト呼フ者アリ)中ニ是ハ急イデザウヤリ得ラルベキ性質ノ問題デアリト下思フ、皆サンハ進行々々ト申サル、ケレドモ、實ハ日本ニ取テ重大ナル問題デス、免モ角片岡商工大臣ニ、一體日本ハ鐵ノ自給自足ニ達シ得ラル、見込ガ確然ト有ルカ無イカト云フコトヲ先ツ聞キタイ、眞先キニコイツヲ聞カナクテヤ駄目ナンデス、何故ナラバデスネ、一體此案ガ出テ來タ歴史ヲ吾台ガ考ヘテ見ルト、腑ニ落チヌ點ガ多イノデス、高橋是清君ガ農商務大臣ノ時デアラ、即チ三派内閣ノ時ハ日本ニ於ケル所ノ三菱其他東洋鐵ノ如キ、五六ノ製鐵會社ガ此大切ナル鐵事業ヲヤテ居ルノデアルケレドモ、ドウシテモ立行カヌカラ之ヲ救濟セナクテハナラヌト云フ議論ヲシテ、サウシテ官民合同デアルトカ何ト云フ即チ會社ノ救濟策ノヤウニ當時ノ輿論ハナクテ居タヤウニ思フ、高橋君ハサウ云フ事ヲ此處テ明言セヌケレドモ、輿論ハ之ヲ認メテ居タノデアル、ソレガ今日ニ至リテハソレヲ

ヤラズシテ、品リ鐵國策ト變更シテ來タノデアル、鐵會社救濟策ガ鐵國策ト變更シテ來タヤウニ吾々ハ考ヘラレル、斯ウ云フ薄弱ナル根據理由ノ下ニ鐵國策ガ現レテ來ルヤウナコトデハハイクヌ、先程ノ片岡君ノ御話ニ依レバ、最初此鐵ニ付テハ關稅主義ヲ執テ來タヤウデアアルケレドモ、此關稅政策ヲ執ルコトハ出來ナイト云フコトニ付テハ、ハッキリ明言シ得ナイ、是ハ重大ナル事デアアル、關稅主義デアルカ、又保證金ヲ給付シテヤルカト云フコトハ重大ナル事デアアル、日本デハ餘リ原鑛石ハ澤山ナイト云フコトハ皆分ッテ居ル、ソレヲ原鑛石ノ澤山ナル外國デモ失敗シテ居ル此事柄ヲ、何等原鑛石ノ無イ日本ガ斯ウ云フ大膽ノコトヲ急イデヤル、實ニ私共ハ腑ニ落チナイデスネ、實ハ鐵ニ付テハ私共ハ素人デアアルケレドモ、素人ガ間クコトハ中ニ眞理ヲ察ツコトガアル、友人バカリデハハイカヌ、片岡君ナドモ鐵ニ付テハ素人デアアルカヌ、隨テ友人以上ノ名案ガ出テ來ルト思フ、特ニ興味ヲ持テ居ル、備鐵事業ニ保證金ヲ充行フテ、事業ヲ獎勵シテ行クノハ宜イケレドモ、今日日本デハ民間デモ製鐵事業ヲヤテ居ル、政府デモ枝光製鐵所ナドヲ持テ居ル、免ニ角民間ニ補助ヲシテ旨ク段々ヤテ行ケルヤウニシテ、ソレカラ後ニ官營ニシテシマフ積リテアルカ、之ヲ政府ガ買收シテ官營デアラスル方カ色ニ都合上統一ガ取レテ宜イト云フノデアアルカ、又今鐵ノ保護ヲ各會社ニヤテ、後デハ枝光製鐵所ナドヲ民間ニ拂下ゲルト云フヤウナ方針デアアルカ、此點モシテカリ聞イテ置カナケレバいかヌノデアアル、枝光製鐵所ノ如キハモウ七八年モ経テマセウガ、非常ナル大疑獄ヲ起シテ、當時ノ押川長官ナドハ其爲ニ自殺スル、其以後ニ於テモ世人ハ九州ノアノ一角ニハ多大ナル疑惑ヲ持テ居ル、今日デモ實ニアノ製鐵所ノ内部ハ紊亂ヲシテ居ルト云フコトヲ、時私等ハ聞イテ居ルノデアリマスガ故ニ、斯ウ云フ點ニ付テモハッキリシタコトヲ片岡サンガ仰シヤラナクテハ、吾々ガ通り一遍ニ議會ヲ通シテモイカヌ、成程トシカ

リ腑ニ落チナケレバいかヌ、國民モ此點ニ付テ疑惑ヲ持テ居ルト私ハ考ヘテ居ル、ソレカラ第二番目ニハ、内地ニ一體ドレ位ノ鐵ノ原鑛石ガアルカト云フコトヲ聞キタイ、私共ハ國防上コンナ事ヲ申シテハ差支アルカモ知レヌケレドモ、日本ノ鐵ノ原鑛石ハ貧弱ナルモノデアルト云フコトハ、世界ノ定論ニナクテ居ルト思フ、一體一年ニドレ位ノ鐵鑛石ヲ掘ッテドレ位拵ヘテ、何年間此原鑛石ヲ始末シテ行ケルカト云フコトハ大凡ノ見込ガ立タナケレバナラヌト思フノデス、又此鐵ヲ製造スルニ付テハ石炭ガ要ル、日本ノヤウナ質ノ惡イ石炭デハ、本當ノ良イ鐵ガ出來ルカドウカト云フコトモ疑問デアアル、諾威ニ於テハ非常ニ良イ鐵ガ出來ルノハ、鐵鑛石モ良イデアラウ、技術モ宜イデアラウガ、其火力即チ石炭ガ良イト云フ説ヲ爲シテ居ル者モアル、斯ウ云フコトニ付テモ吾々ハ知ッテ置ク必要ガアルト思フ、又内地ニ澤山ノ原鑛石ガ無イナラバ、之ヲ濫ニ今日掘鑛シテ使ヒ切ルト云フコトハ、國防ノ上カラ考ヘテ見テモイザト云フ時ニ非常ニ後カラ迷惑ガ來ハセヌカ、現ニ獨逸ノ如キハ自分ノ國ニハ相當ノ鐵鑛石ガアルケレドモ、アノ「ブルガン」ニ於テ製鐵所ヲヤテ居リマスガ、此處ヘ來ル所ノ原鑛石ナドハ皆諾威ノ方カラ持テ來ルケレドモ、ソレニシテ、成ベク自分ノ國ノモノハ使ハヌヤウニヤテ居ル、日本ノ如ク貧弱ナルモノガ濫ニ之ヲ獎勵シテ、内地ノモノヲ掘鑛シテシマフト將來ハ實ニ困リハセヌカト思フ、現ニ石炭ノ如キモノデモ、モウ五十年ダケシカ日本ノ石炭ノ壽命ハナイト云フコトヲ片岡商工大臣ガ知ッテ居ラナクテハ、ナラヌト思フ、モウ一ツ私ハ聞イテ置キタイ、日本ガ一體鐵國策ヲ確立スル上ニ於テハ、支那ヲ措イテ日本ダケデ鐵國策ヲ確立スルコトハ出來ヌ、何トシテモ日本ハ日支合辦トカ何トカ云フ途ニ依ラナクテハ出來ヌ、ソレニ斯ウ云フ點ニ付テハ一向説明ガナイノデス、今滿洲ノ鐵ノ話モアリマシタガ、滿洲ハカリデハナイ、一體支那ト特別ノ何等カ

○國務大臣(片岡直温君) 只今ノ猪野毛君ノ御質疑ニ御答シマス、商工大臣ハ鐵ノ自給自足ヲ確立セシムルノ確信アリヤ否ヤ、サウシテ御言葉中ニハ片岡モ素人デアリ、自分モ素人デアアルト斯ウ仰セラレタノデアリマスケレドモ、如何ニモ私ハ其道ニハサウ明ルイ者デハアハシマセヌ、併シ猪野毛君ヨリモウ少シ研究ハシマセヌ、併シ猪野毛君ナガラ私ノ所信ニ依リテ申上ゲルノデハナイ、之ニ對シテハ製鐵事業ノ將來ニ關スル調査委員會ナルモノヲ組織シマシテ、是ハ高橋農商務大臣時代デアリマスケレドモ、其道ニ詳シイ人ヲ集メテ、十三回ニ至ル長キ時間ノ研究ヲ致シ、ソレニハ我國ノ事ハ固ヨリ他國ニ於ケル製鐵ノ狀況、生産費、運賃、金利、色々ナ調査ヲシ、餘程精密ナル調査ヲ致シ、是ト比較シテ日本ノ製鐵事業ハ自給自足ガ出來得ル、斯ウ云フ論結ニ相成テ居ルノデアリマス、ソレデ私ガ確信スルノミナラズ、斯道ニ明ルキ者ガ確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウシテ其時分ノ決議ハ民間當業者ヲ救済スル爲ガ主デアラト云フ御話デアリマスガ、サウデハアリマセヌ、唯、其論結ガ民間當業者トハ峰製鐵所ト資本ヲ合同致ス方カ宜イ、半官、半民ニスルガ宜イト云フコトガ決議ノ意見ニハナクテ居リマス、此意見ニ對シテ私ハ反對ヲ致ス者デハナイ、サリナカラ

今日ノ場合ニ於テ枝光鐵所ノ資本ガ假ニ一億圓デアルトシタガ、其一億圓ト云フモノ、正體ガ世ノ中ニ分テ居ルカト云フト、分テ居リマス、ソレカラ戰後ニ於テ急造セラレタ製鐵所ガ投ジテ居ル資本ガ、果シテ今日ヨリ見テ適當ノ資本ト云ヘルヤ否ヤ、是等ノモノヲ打ッテ一團トスルガ如キコトハ、早計ノ甚シキモノト思フテ居リマス、ソレ故ニ先ヅ八幡製鐵所ノ會計法ヲ變ヘ、民間ノ會社ニ於ケルガ如キ決算ヲ明ニスルヤウニ致シ、サウシテ此獎勵法ノ下ニ、民間ノ製鐵業者ニ向テモ相當ノ監督ヲ進メテ行クデアリマス、其結果ニ於テハ或ハ資本ノ合同、半官半民若クハ國有、斯ウ云フガ如キコトマデモ起ルカモ知レマセヌ、只今ノ所デハサウ云フコトニ到著スル場合ニ於テモ、何等差支ノナイヤウニ進メテ行クコトガ適當ナリト信ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ八幡ノ製鐵所ハ内部ガ非常ニ紊レテ居ル、私ハ先日四日間バカリ朝カラ晩マデ通ジテ調べマシタガ、併ナガラ四日間バカリデ果シテ正確ナルモノデアアルヤ、否ヤト云フコトガ分ルモノデハゴザイマセヌガ、能ク整頓致シテ居ル、既ニ今日マデ長イ間損失モ可ナリ續クテ來マシタ、併ナガラ昨今ハ確ニ利益ヲ擧ゲラレ、自ラ自營自給ガ出來ルト云フコトヲ信ジマシタカラ獨立會計法——獨立トマデハ行キマセヌガ、獨立ニ近カラシムルモノヲ拵ヘテ今日協賛ヲ求メテ居ルノデアリマス、今日マデ損ヲシタコトモゴザイマスガ、好景氣ノ時代ニ於テハ、今日ノ資本金額ヨリハズト餘計ノモノヲ儲ケテ大藏省ヘ納メテアル、枝光製鐵所ヲ若シ從來ノ金利ノ計算ヲセズニ見タ時ニハ、アレハ只ニナッテ、更ニ千四五百万ノ金ヲ持ッテ居ルト云フテモ宜イ、其所マデニハナッテ居リマスカラ、其點ハ御安心下サツテ宜イト存ジマス

スシ、又第一法案ニ付キマシテハ、先輩ノ諸君ヨリ私ノ間ハントスル所ハ殆ド總テ御質問ニナリマシテ、之ニ對スル當局者ノ御答辯モ承リマシタノデアリマスカラ、私ハ先輩諸君ノ御言及ニナラナカク第二ノ法案ニ付キマシテ、濱口大藏大臣ニ唯、一點御同致シタイノデアリマス

〔此時發言スル者アリ〕
○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○古林喜代太君(續) 濱口大藏大臣ハ前内閣、即チ加藤内閣時代ニ於キマシテ行政、財政ノ整理ヲ爲サル際ニ、御聲明ヲ爲サルタノデアリマスガ、其御聲明ハ此特別會計ナルモノハ成ベク之ヲ少ク致シタイノデアル、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、尙又前議會ニ於キマシテ濱口大藏大臣ハ、二三ノ特別會計法ヲ廢止サレル所ノ法案ヲ御提出ニナリマシタ、其際ニモ將來トモ成ベク特別會計ハ少クスル方針デアルト云フコトヲ御述ニナタコトヲ記憶致シテ居リマス、然ルニモ拘ハリマセズ、今回突如トシテ此製鐵所特別會計法案ト云フモノヲ御提出ニナリマシタノハ、濱口大藏大臣ハ以前ノ御聲明ニ對シテ恥ヂル所ナキヤ否ヤ、片岡商工大臣、御提案ノ理由ハ先刻承リマシタケレドモ、其御提案ノ理由ニハ、濱口大藏大臣ハ公然御贊成デアルカ否ヤト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス、殊ニ此特別會計法ハ一般會計トハ全然關聯ノ無イ所ノ特別會計デアリマス、鐵道省ノ特別會計ト同様ノモノデアリマスガ、鐵道省ノ特別會計ニ付キマシテハ、世間色モノ風評ヲ耳ニ致スノデアリマス、現鐵道省ノ風評ハ諸君御水知ノ通り頗ル清廉ナ方デアリマスカラ、現内閣時代ニハ餘リ多クノ風聞ヲ耳ニ致シマセヌケレドモ、以前ニハ隨分色ミナ風評ヲ耳ニ致シマシタ、八幡ノ製鐵所ハ先刻猪野毛君ノ御言葉モアリマシタガ、先年世人ノ耳目ヲ驚カサウナ大疑獄事件ガ起リマシタ、私共ハ同縣ノコトデアリマスカラ、當時ノ事ハ他ノ人ニ較ベマスルト多少深ク記憶シテ居ルト思ヒマス、只今片岡商工大臣ノ御言葉モアリマシタカラ、假

ニ伏魔殿デハナイカトモ思ヒマセケレドモ、一般會計ト全然關聯ノ無イ所ノ特別會計ヲ設クルト云フコトハ、世人ヲシテ隨分疑ヲ挾マシムル所ノ懸念ガアルト思ヒマス、少クトモ先年ノ大疑獄事件ニ類シタヤウナコトガ幾分起リ易カラウト云フ懸念ヲ致スコトデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ濱口大藏大臣ハ、十分ノ御確信ヲ持ッテ御提案ニナリマシタノデアリマスカ、乃至ハ當初ノ御聲明ヲ抛タレタデアリマスカ、明快ナ御答辯ヲ御願シタイノデアリマス(拍手)

○國務大臣(濱口雄幸君) 御答ヲ致シマス
○製鐵所ノ會計ハ御承知ノ通り今日ニ於テモ特別會計デアアルノデアリマス、此特別會計ノ爲ニ、現在ハ作業會計法ト云フモノガアリマシテ、其會計法ノ内ニ於テ數個ノ特別會計ヲ認メテ居ルノデアリマス、而シテ豫算ノ表ニ於キマシテハ、御承知ノ通り立派ナル所ノ特別會計デアリマス、此度ノ法律案ニ依リマシテ政府ガ設定ヲセントスル所ノ製鐵所ノ特別會計ハ、從來ノ特別會計ニ對シマシテ、其内容ヲ改善シタニ過ギマセヌノデ、特別會計ノ數ニ於テハ少シモ増減スル所ハ無イノデアリマス、第二ニ此度ノ特別會計ノ法案ニ依リマシレバ、大體其模範ヲ現在ノ鐵道ノ特別會計ニ取ッテ居ルノデアリマス、唯、鐵道特別會計ノ如クニ純然タル獨立ノ會計ニハナリマセヌケレドモ、稍、獨立會計ニ近イ所ノ特別會計デアリマス、隨テ御説ノ通り、一般會計ト聯鎖ハ從前ノ如クデアリマセヌケレドモ、一般會計ト聯鎖ノ厚薄、若クハ有無ニ依ッテ其會計ノ整理方或ハ紊亂スルトカ、或ハ整頓スルトカ云フ如キ區別ノアルモノデハナイト考ヘマス、其會計ガ能ク整理セラル、カ、若クハ紊亂スルカト云フコトハ、一ニソレヲ扱ッテ居ル所ノ其人ニ存スルノデアリマス、隨テ此度ノ會計ノ組織ノ改正ニ依リマシテ、是ガ爲ニ製鐵所ノ經營上、惡イ所ノ結果ヲ生ズルト云フコトハ、毛頭考ヘテ居リマセヌノミナラズ、却テ此獨立會計ノ設定ニ依リマシテ、製鐵所ノ事

業ヲシテ愈、合理的ナラシメ、經濟的ナラシムルコトノ利益ガアルモノト確信ヲ致シテ居リマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 之ヲ以テ質疑ハ終了致シマシタ——日程第四、右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

業ヲシテ愈、合理的ナラシメ、經濟的ナラシムルコトノ利益ガアルモノト確信ヲ致シテ居リマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 之ヲ以テ質疑ハ終了致シマシタ——日程第四、右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○井本常作君 各案ヲ一括シテ議長指名八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五、土地賃賃價格調査法案ノ第一讀會ヲ開キマス——濱口大藏大臣

第五 土地賃賃價格調査法案(政府提出) 第一讀會
土地賃賃價格調査法案
土地賃賃價格調査法
第一條 政府ハ本法ニ依リ土地ノ賃賃價格ヲ調査ス
第二條 賃賃價格ノ調査ハ大正十五年四月一日現在ノ地租課スヘキ土地ニ付之ヲ行フ但シ地租條例其ノ他ノ法律ニ依ル各種ノ免租年期地ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 土地ノ賃賃價格ハ各地目毎ニ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準賃賃價格ニ依ル
標準賃賃價格トハ前項ノ區域内ニ於ケル標準ト爲ルヘキ土地ニ付賃主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ賃主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ
第四條 前條ノ區域及標準賃賃價格ハ別ニ定ムル所ニ依リ賃賃價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ム

附則
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○古林喜代太君 諸君、時間ガ大變移リマシタシ、諸君モ御退屈ノヤウニモ見受ケマ

○古林喜代太君(續) 靜肅ニ願ヒマス
○古林喜代太君(續) 濱口大藏大臣ハ前内閣、即チ加藤内閣時代ニ於キマシテ行政、財政ノ整理ヲ爲サル際ニ、御聲明ヲ爲サルタノデアリマスガ、其御聲明ハ此特別會計ナルモノハ成ベク之ヲ少ク致シタイノデアル、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、尙又前議會ニ於キマシテ濱口大藏大臣ハ、二三ノ特別會計法ヲ廢止サレル所ノ法案ヲ御提出ニナリマシタ、其際ニモ將來トモ成ベク特別會計ハ少クスル方針デアルト云フコトヲ御述ニナタコトヲ記憶致シテ居リマス、然ルニモ拘ハリマセズ、今回突如トシテ此製鐵所特別會計法案ト云フモノヲ御提出ニナリマシタノハ、濱口大藏大臣ハ以前ノ御聲明ニ對シテ恥ヂル所ナキヤ否ヤ、片岡商工大臣、御提案ノ理由ハ先刻承リマシタケレドモ、其御提案ノ理由ニハ、濱口大藏大臣ハ公然御贊成デアルカ否ヤト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス、殊ニ此特別會計法ハ一般會計トハ全然關聯ノ無イ所ノ特別會計デアリマス、鐵道省ノ特別會計ト同様ノモノデアリマスガ、鐵道省ノ特別會計ニ付キマシテハ、世間色モノ風評ヲ耳ニ致スノデアリマス、現鐵道省ノ風評ハ諸君御水知ノ通り頗ル清廉ナ方デアリマスカラ、現内閣時代ニハ餘リ多クノ風聞ヲ耳ニ致シマセヌケレドモ、以前ニハ隨分色ミナ風評ヲ耳ニ致シマシタ、八幡ノ製鐵所ハ先刻猪野毛君ノ御言葉モアリマシタガ、先年世人ノ耳目ヲ驚カサウナ大疑獄事件ガ起リマシタ、私共ハ同縣ノコトデアリマスカラ、當時ノ事ハ他ノ人ニ較ベマスルト多少深ク記憶シテ居ルト思ヒマス、只今片岡商工大臣ノ御言葉モアリマシタカラ、假

ニ伏魔殿デハナイカトモ思ヒマセケレドモ、一般會計ト全然關聯ノ無イ所ノ特別會計ヲ設クルト云フコトハ、世人ヲシテ隨分疑ヲ挾マシムル所ノ懸念ガアルト思ヒマス、少クトモ先年ノ大疑獄事件ニ類シタヤウナコトガ幾分起リ易カラウト云フ懸念ヲ致スコトデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ濱口大藏大臣ハ、十分ノ御確信ヲ持ッテ御提案ニナリマシタノデアリマスカ、乃至ハ當初ノ御聲明ヲ抛タレタデアリマスカ、明快ナ御答辯ヲ御願シタイノデアリマス(拍手)

業ヲシテ愈、合理的ナラシメ、經濟的ナラシムルコトノ利益ガアルモノト確信ヲ致シテ居リマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 之ヲ以テ質疑ハ終了致シマシタ——日程第四、右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○古林喜代太君 諸君、時間ガ大變移リマシタシ、諸君モ御退屈ノヤウニモ見受ケマ

○古林喜代太君(續) 靜肅ニ願ヒマス
○古林喜代太君(續) 濱口大藏大臣ハ前内閣、即チ加藤内閣時代ニ於キマシテ行政、財政ノ整理ヲ爲サル際ニ、御聲明ヲ爲サルタノデアリマスガ、其御聲明ハ此特別會計ナルモノハ成ベク之ヲ少ク致シタイノデアル、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、尙又前議會ニ於キマシテ濱口大藏大臣ハ、二三ノ特別會計法ヲ廢止サレル所ノ法案ヲ御提出ニナリマシタ、其際ニモ將來トモ成ベク特別會計ハ少クスル方針デアルト云フコトヲ御述ニナタコトヲ記憶致シテ居リマス、然ルニモ拘ハリマセズ、今回突如トシテ此製鐵所特別會計法案ト云フモノヲ御提出ニナリマシタノハ、濱口大藏大臣ハ以前ノ御聲明ニ對シテ恥ヂル所ナキヤ否ヤ、片岡商工大臣、御提案ノ理由ハ先刻承リマシタケレドモ、其御提案ノ理由ニハ、濱口大藏大臣ハ公然御贊成デアルカ否ヤト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス、殊ニ此特別會計法ハ一般會計トハ全然關聯ノ無イ所ノ特別會計デアリマス、鐵道省ノ特別會計ト同様ノモノデアリマスガ、鐵道省ノ特別會計ニ付キマシテハ、世間色モノ風評ヲ耳ニ致スノデアリマス、現鐵道省ノ風評ハ諸君御水知ノ通り頗ル清廉ナ方デアリマスカラ、現内閣時代ニハ餘リ多クノ風聞ヲ耳ニ致シマセヌケレドモ、以前ニハ隨分色ミナ風評ヲ耳ニ致シマシタ、八幡ノ製鐵所ハ先刻猪野毛君ノ御言葉モアリマシタガ、先年世人ノ耳目ヲ驚カサウナ大疑獄事件ガ起リマシタ、私共ハ同縣ノコトデアリマスカラ、當時ノ事ハ他ノ人ニ較ベマスルト多少深ク記憶シテ居ルト思ヒマス、只今片岡商工大臣ノ御言葉モアリマシタカラ、假

ニ伏魔殿デハナイカトモ思ヒマセケレドモ、一般會計ト全然關聯ノ無イ所ノ特別會計ヲ設クルト云フコトハ、世人ヲシテ隨分疑ヲ挾マシムル所ノ懸念ガアルト思ヒマス、少クトモ先年ノ大疑獄事件ニ類シタヤウナコトガ幾分起リ易カラウト云フ懸念ヲ致スコトデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ濱口大藏大臣ハ、十分ノ御確信ヲ持ッテ御提案ニナリマシタノデアリマスカ、乃至ハ當初ノ御聲明ヲ抛タレタデアリマスカ、明快ナ御答辯ヲ御願シタイノデアリマス(拍手)

業ヲシテ愈、合理的ナラシメ、經濟的ナラシムルコトノ利益ガアルモノト確信ヲ致シテ居リマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 之ヲ以テ質疑ハ終了致シマシタ——日程第四、右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

本法ハ地租條例ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス

〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 只今議題トナリマシタル土地貨賃價格調査法案ニ付テ、概要ノ説明ヲ申上ゲヤウト存ジマス、本案ハ今回政府ノ計畫ニ係リマシタル所ノ、稅制整理ニ關聯シタル重要ナル事項ノ一デアリマス、曩ニ國稅整理ニ關スル諸法律案ノ說明ノ際ニ於テ、大體申述ベテ置キマシタルガ如ク、現行地租ノ課稅標準タル地價ハ、明治ノ初年ニ定メラレタルモノデアリマシテ、其後既ニ五十年ヲ經過致シテ居ルノデアリマス、隨テ經濟上ノ變遷、交通機關ノ發達、農事ノ改良進歩等、各般ノ關係ニ依リマシテ、土地利用ノ狀況ハ著シク變動ヲ來シマシタルニモ拘ラズ、明治四十二年宅地ノ地價修正ヲ行ヒマシタル以外、其他ノ土地ニ付テハ局部ノ修正ヲ加ヘタコトガアルノミデアリマシテ、大體ニ於テハ地價ノ修正ヲ致サズシテ今日ニ至リタノデアリマス、故ニ現在ニ於ケル地租ノ負擔ト申シマスルモノハ、地方ニ依リ又同一ノ地方ニ於テモ各地間ニ著シキ不公平ナル結果ヲ生ジテ居ルト云フコトハ、殆ド疑ノ無イ所デアルト信ズルノデアリマス、是ニ於テ地租負擔ノ公平ヲ圖ルガ爲ニハ、一般的地價修正ヲ行フノ必要ガアルノデアリマス、而シテ地價修正ノ實行ニ付テハ、種々ノ方法ヲ考ヘ得ルノデアリマス、政府ニ於テ攻究シマシタル結果、其調査ガ比較的容易デアリマシテ、而モ最も能ク負擔ノ公平ヲ期シ得ル方法トシテ、土地ノ貨賃價格ヲ以テ課稅標準トスルコトニ致シタルデアリマス、蓋シ貨賃價格ハ、地主ガ其土地ヲ貨賃スル場合ニ於テ、普通ニ取得スル所ノ貨賃料ノ標準トスルモノデアリマス、故ニ、地租ノ課稅標準ト致シマシテハ、最も適當デアルト信ズルノデアリマス、固ヨリ貨賃價格ノ調査モ相當困難ナ事業デアリマス、各地方ニ於テハ、實行ノ簡易ナル方法ヲ擇ビ、各地目毎ニ土地ノ狀況ガ類似シテ居リマスル所ノ區域内ニ於ケル標準貨賃價格ニ據ルコト、致

シマシテ、二箇年内ニ此調査ヲ完了スベキ見込デアリマシテ其調査完了ノ曉ニ於テ、地租制度ノ根本ノ改正ヲ行ヒタイト云フ考デアリマス、以上ハ大體ノ説明ニ止マリマス、尙ホ詳細ノ事項ニ付キマシテハ、委員會ニ讓ルコトニ致シタイト考ヘマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス——吉良元夫君

〔吉良元夫君登壇〕

○吉良元夫君 只今大藏大臣ヨリ、此法案ニ對シテ御提出ノ大體ノ御説明ガアッタノデゴザイマス、然ルニ政府ガ此御提出ニ相成リマシタル所ノ此土地貨賃價格調査法ノ理由ニ依リテ拜見ヲ致シテ見マシテモ、明ニ分テ居ルノデアリマス、政府ハ斯ノ如キ單簡ナル、法ヲ四章ニ約シタル所ノ土地貨賃價格調査法ナルモノヲ御提出シナシテ居リマス、只今御説明ニナシタル所ノ要旨ヨリ伺ヒマシテモ、極メテ簡單ニ此土地貨賃價格ト云フモノ、調査決定ガ出來ルモノト御考ヘノヤウデアリマス、然ルニ吾々ハ隨分是ハ容易ナラヌ困難ナル事業デアルト確信スルノデアリマス、我國デハ明治初年ニ於テ王政維新ノ際、地價ト云フモノヲ御設定ニナリマシタガ、此地價ナルモノハ御承知ノ如ク、全國ニ於テ格クベキ不均等不公平ナル事ガ出來テ居リタノデアリマス、吾々ガ知り得ル程度ニ於テモ、非常ナル地價ノ不公平ガ實際ニ於テ多クアルノデアリマス、ソレガ故ニ此地價修正ナルモノハ、是非根本的ニヤラシムレバイケナイト云フコトデアリマシテ、又政府當局ニ於テモ、是ハ御考ニナツタ歴史ガアルノデアル、然ルニ之ヲ根本的ニヤラシメタ時ニハ、少クトモ三五年ノ歲月ヲ要スルノミナラズ、一億五千萬圓乃至二億ノ巨費ヲ要スル、國費ヲ要スルト云フコトデ、先刻御話ニナリマシタヤウニ、此地價ヲ設定シテ、其後ニ於ケル現在ノ地價ニ於テハ、驚クベキ高低ノ差ガ出來テ居ルニモ拘ラズ、今日マデ地價修正ト云フモノガ出來ヌデ居リタノデアル、然ルニ現政

府ニ於ケラレマシテハ、茲ニ突如トシテ他年御提唱ニ相成ツタ稅制整理ヲ御企テニナツタガ、私ハ此稅制整理ト云フモノハ、實ニ驚クベキ稅制整理デアルト信ズルノデアリマス、併ナガラドウ云フモノカ分リマセヌ、此稅制整理ハ大體ニ於テ宜シイトシテ、既ニ此議會ニ於テハ立派ニ御通過ニ相成テ居ル、然ルニ私ハ甚ダ疑ハザルヲ得ナイ事ガアルノデアリマス、先日通過セラレタ所ノ法案ニ依リマス、先日通過セラレ平ノアル地價二百圓未滿ノ自作農ト云フモノヲ、所謂自作農保護ノ意味ニ於テ之ヲ全部免稅トナシテ參議院ハ通過シテ居ル、是ハ今日申スマデモナイ、農村ノ困憊、農村ノ窮狀、農村ノ振興ト云フ事ノ一日モ速ナランコトヲ欲シテ、斯ノ如キ大英斷ヲ爲サザンノデアリマセウト思フケレドモ、何ゾ知ラン、斯ノ如キ人氣取リノ法案ガ、實際通過シテ居ル今日ニ於テ、邊僻ノ地ニ位シテ居ル農民ガ、決シテ有難ガツテハ居ラスノデアリマス(拍手)酒屋サンニハ分ラヌコトト呼フ者アリ)酒屋サンニ分ラヌコトハナイ、其位ノ事ハ能ク存ジテ居ル——所ガソレハ致方ハナイトシテモ、先日ハ地價ニ於テ免稅點ヲ御作リニナツテ、二百圓未滿ノモノハ全部御免稅ニナツテ、二百圓未滿ノモノ價修正ヲ爲スト云フコトニ付テハ、非常ニ困難デアルトシテ、貨賃價格ニ據ラント欲シタノデアル、所ガ其貨賃價格ナルモノハ、此法案ニ依リテ見マス、ト云フコト、第三條ニ標準貨賃價格トハ前項ノ區域内ニ於ケル標準トナルヘキ土地ニ付テ主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ貨賃スル場合ニ於テ貸主ノ取得スヘキ金額ヲ謂フト云フ定義ヲ下シテ、各地目毎ニ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準貨賃價格ト云フモノヲ御決定ニナルト云フコトニナツテ居ル、所ガ是ハ机上ノ空論デアル、實際ニ於テ、或ル一地區ヲ御決定ニナツテ、其一地區内ノ標準價格ヲ定メテ、其標準價格ト云フモノニ類推シテ御決定ニナルノデアリマセウガ、何ゾ知ラン今日ニ於テ此貨賃價格ノ算定ハ容易ナ

ラ又困難ノアル事情ガ多イノデアリマス、是ハ單リ都市ノミデナイ、村落ニ於テモ近代運輸交通ノ便ガ發達變革ヲ致シタ爲ニ、僅ニ一ツノ橋梁、一ツノ河ヲ挾シテ非常ナル差異ヲ生ジテ居ル現代デアアル、即チ斯ノ如キ困難ガアル故ニ、今日マデ地價ノ修正ト云フモノガ出來ナカッタノデアル、所ガ今度ハ地價ノ修正甚ダ困難ナルガ故ニ、先ヅ以テ標準ヲ決メテ、其標準ニ於テ斯ノ如キ貨賃價格ヲ御決定メニナルト云フノデアリマス、其ヤウニ簡易ニ是ガ實際的效果ヲ奏シ得ルデアラウコト云フコトハ、私ハ甚ダ困難ナルモノデアルト云フコトヲ深ク信ジテ居ル者デアリマス、サウシテ第四條ノ規定ニ依リマス、前條ノ區域及標準貨賃價格ハ別ニ定ムル所ニ依リ貨賃價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ムトアリマス、即チ是ハ現在ノ稅制ノ上ニ於テモ行ハレテ居リマス、所ノ彼ノ營業稅調査委員會、若クハ所得稅調査委員會、ヤウナモノヲ御作リニナツテ、其委員會デ之ヲ公定スルノデアラウト思フ、其内部ノ事務的整理ハ、是ハ私ノ想像スル所ニ依レバ、各地方ノ稅務署ニ於テ、事務内ノ整理ヲ御ヤラセニナルモノデアラウト思フノデアル、所ガ現在ニ於テ行ハレテ居リマスル所ノ營業稅ノ調査委員會ノ決定、及所得稅ノ調査委員會ノ決定ノ如キニ至リテモ、實際ハ其當ヲ得ル事ガ非常ニ多イノデアルケレドモ、之ヲ終末マデ爭フニ於テハ、其時間ト經費ト堪ヘ得ヘカラザル事情アルガ故ニ、泣ク々々木人ハ黙テ居ルノデアル、然ルニ此度ノ此貨賃價格ノ算定ト云フコトニ於テハ、其公平ヲ總テ得マシレバ宜シウゴザイマス、若シ得ナイ時ニハ、默シテ此決定ニ服従スルコトガ出來ナイ場合ガ甚ダ多イ事ヲ私ハ信ズル者デアリマス、私ハ以上申上ゲマシタ事ハ、餘リ言葉ガ順序ヲ成シ得ナイヤウニ考ヘマス、之ヲ簡約致シマシテ、縮メテ御尋ヲ致シタイノデアリマス、地價修正ノ事ハ容易ナラザル事業デアアル、之ニ代フルニ此度ハ土地貨賃價格ト云フコトニ御改メニナリ、是ナラ出來

易イト云フコトデ法ニ單簡ナル僅ニ法ヲ四章ニ約シテ所ノ本法ヲ御出シニナクテ、アリマスガ、斯ノ如キ簡單ナル法ニ於テ、只今ノ大藏大臣御述べニナクヤウト完全ナル調査が出来ル成算アリト云フ御確信ガアルヤ否ヤト云フコトヲ根本的ニ伺ヒタインノリマス、第二ニハ此調査實行ノ爲ニハ、約二年ニシテ片付クト云フ御話アリマスルガ、ソレハ私ノ推察スル所ニ依レバ、稅務署ヲ以テ此實務整理ヲヤラセルノダト思フノデアリマスガ、サウデアリマセヌナラバ、如何ナル機關ト如何ナル吏員ヲ御設ケニナクテ之ヲ御ヤリナルデアアルカ、サウシテ果シテ二年位ノ短日月ニ於テ、是ダケノ立派ナル效果ヲ確實ニ舉ル御見込デアルヤ否ヤ御尋フスルノデアリマス、第三ニハ私共ノ信ズル所ニ依レバ、此貸賃價格ノ調査ト申シマスモノハ、矢張其實質トシテハ地價修正ト同様以上ニ困難ナモノデアルト信ジテ疑ハヌ者デアリマス、私ハ寧ロ地價修正ヨリカ困難デハナイカト思フノデアアル、所ガ果シテ當局ハ斯様ニ單簡ニシテ其實ヲ得ル御調査が出来ルト云フ御確信ガアルノデアアルカ、此邊ハ其次ニハ此貸賃價格ノ調査決定ト云フヤウナ事ガ、洵ニ其當ヲ得タトキニハ結構デアリマスルガ、其當ヲ得ナクシテ、其所有地主ヨリ其決定ニ對シテ異議苦情等ヲ申立ツル場合ハ、如何ナル方法ニ依テ之ヲ處置セラレルノデアリマセウカ、是ハ所謂行政訴訟見タヤウナモノヲ起スノデアアルカ、或ハ第四條ニ規定シテアル所ノ貸賃價格調査委員會ト云フモノヲ御設定ニナル、此取扱規則ト云フモノヲ別ニ御作りニナクテ、其規則ノ範圍ニ於テ之ヲ御取扱ニナルノデアアルカ、隨分今度ノ貸賃價格ノ算定ニ對シテハ、私ハ容易ナラザル異議苦情ヲ申立ツル者ガ出来ルデアラウト云フコトヲ豫想スルノデアリマス、ソレハ何故デアアルカト申シマスルノニ、今日ノ收稅官吏若クハ此土地貸賃價格調査委員ト云フ者ハ、公選サレルモノデアリマセウカ、其局ニ當ルル人ガ、果シテ明德ヲ明

ニシテ立派ナル政治家ノミナラズ宜シイケレドモ、今日ニ於テハ地方ニ於ケル黨弊ナゾガ非常ニアルノデアアル、我が大分縣ナゾハ、殆ド松村知事ノ暴政ノ餘波ヲ受ケテ居テ、今日ニ於テ吾々同志ノ者ヲバ壓迫スルノミナラズ、殆ド罪ナラザル者ニ罪ヲ著セルト云フヤウナ亂暴ナ政治ノミヲ致シテ居ルノガアル、(拍手)ソレデアアルカラシテ當然此貸賃價格ノ如キノ算定ニ至テモ、憲政會ニ屬スル人ノ算定ハ比較的安クシテ、吾々同志ノ者ニハ比較的高クスル位ナコトハ必ズヤルノデアアル(拍手)ソレハ諸君ガ笑フケレドモ、ソレナ實狀ヲ諸君ガ知ラヌカラデ、左様ナ事ハ非常ニ多イデアアル(拍手)今日ニ於テ實ハ政治家ノ明德ヲ明ニシテ居ラヌカラシテ、實ニ出來事ガ甚ダ面白カラヌ事ガ多イノデアリマセウカ、明德ヲ明ニスルト云フコトハ、外ノ事デヤナイノデアアル、即チ至誠ヲ以テスルノデアアル、ハ少シ古イカハ知ラヌケレドモ、兔ニ角明德新民止至善ト云フヤウナ大學ニアル所ノ三綱領八條目ト云フヤウナコトハ、今日ノ立憲政體ニ於テモ、蓋シ是カラ出發點ヲヤラヌカラシテ、政治ト云フモノガ大體ニ於テ紊レテ居テ、拾收スベカラザル今日ノ狀態デアアル(拍手)私ハ當局ガ斯ノ如キザトシタ案ヲ出シテ、之ヲ二年內ニヤリ得ルト云フコトヲ御聲明ニナルカ知ラヌガ、私ハ少クトモ公平至誠ヲ以テヤリ得ナイト云フコトヲ私ハ疑フ者デアアル(拍手)故ニマダ御尋ネシタイコトハ山ノヤウニアリマスルケレドモ、先ヅソレダケヲ御尋フシテ此壇ヲ降ルモノデアリマス

(國務大臣濱口雄幸君登壇)
 ○國務大臣濱口雄幸君 御答ヲ致シマス、只今吉良君ノ御述べニナリマシタ通り、今日ノ法定地價ハ如何ニモ是ハ不公平デアリマス、ソレハ私ガ先刻説明ヲ致シマシタ如クニ、一般的ノ地租改正以來五十年ヲ經過シタル所ノ今日デアリマス、其間ニ於テ交通機關ハ固ヨリ諸般ノ事情ガ非常ニ變化ヲ致シテ參ッテ居リマスカラ、今日ニ於キマシテハ大分不公平ノ地價トナッテ居リマス、是ハ

争フベカラザル事柄デアリマス、是ニ於テ此不公平ナル所ノ法定地價ヲ標準トシテ現在賦課シテ居リマスル所ノ地租ク、其負擔ガ不公平デアルト云フコトハ是ハ當然ノ結果デアリマス、此不公平ヲ矯正セシムル爲ニ、如何ナル方法ニ依テ地價修正ヲ行フベキヤト云フコトガ、歴代内閣ニ於テ研究ヲサレマシタ所ノ宿題デアラッタデアリマス、大正七年、時ノ内閣ガ此問題ノ準備調査ヲ致シマスルガ爲ニ、三箇年ニ互テ相當ノ經費ヲ要求ヲ致シテ地價修正ノ準備調査ヲシタコトハ、吉良君モ御承知ノコトデアラウト存ジマス、即チ其當時問題ニナリマシタ所ノ方法ハ、第一ニ明治ノ初年ニ改正ヲ致シマシタ如キ、アレト同一ノ方法ニ依テ地價修正ヲ行フベキヤ、即チ收買本位ノ地價修正ヲ行フベキヤ、或ハ土地ノ貸賃價格ヲ調査ヲ致シ、其貸賃價格ヲ標準ト致シテ、地租ヲ賦課スルト云フ方法ニ改ムベキヤ、第三ニハ土地ノ賣買價格ニ依テ地租ノ賦課ヲスルト云フ方法ヲ採ルベキカ、此三點ニ付テ十分ナル所ノ調査研究ヲ遂ゲタノデアリマス、其研究ノ結果トシテ到達ヲ致シマシタ結論、收買主義ノ現在ノ如キ地價修正ハ甚ダ困難デアアル、又土地ノ賣買價格ニ依テ地租ヲ徵收スルト云フ方法モ、頗ル是ハ實行困難デアアル、是ニ於テ第三ノ方法タル所ノ土地ノ貸賃價格ヲ調べテ、ソレニ依テ地租ヲ賦課スルト云フコトガ最も實行的デアッテ、且ツ其施行ニ制合ニ多クノ年月ヲ要シナイ、斯ウ云フ結論ニ達シタノデアリマス、其結論ニ基キマシテ、大藏省ニ於テハ全國ニ互テ土地ノ貸賃價格ノ標準ノ調査ヲ致シタノデアリマス、即チ全國ノ各稅務署ニ訓令ヲ發シマシテ、サウシテ土地ノ狀況ノ稍、類似セリト認ムル所ノ地域ヲ限リマシテ、ソレヲ一ツノ區域ト致シ、其區域毎ニ標準地ヲ撰ビマシテ、其標準地ノ貸賃價格ヲ調査ヲ致シ、其事業ガ大正七年カラ大正九年ニ至ル三年間ニ互テ漸ク大體ノ了ヲ告ゲタノデアリマス、其了ヲ告ゲマシタ所ノ調査ノ書類ハ、今日全國ノ稅務署ニ於テ保管ヲ致シテ居ルノデアリ

マス、唯、震災地ニ於キマシテハ不幸ニシテ燒失ヲ致シマシタケレドモ、其以外ノ土地ニ於キマシテハ全國ニ互テ、其時ノ調査ノ書類ハ現ニ存在ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨テ此度政府ガ稅制整理ヲ行フニ當リマシテ、地租ノ根本的ノ改正ヲ爲ケムトスル計畫ヲ定メタ時ニ於テ、土地ノ貸賃價格ヲ標準トシテ、地租ヲ課スベシト云フコトヲ突然トシテ思付イタ譯デアアリマセヌ、即チ大正七年ノ調査以來沿革的ニ考ヘマシテ、其時ニ調べタモノヲ標準トシテ行ヒマスレバ、割合ニ多クノ年月ヲ要セヌ、又比較的多額ナラザル所ノ經費ヲ以テシマシテ、此調査ヲ完了スルコトガ出来ルト云フ確信ヲ得タノデアリマス、固ヨリ貸賃價格ノ調査ハ決シテ事容易ナリトハ申シマセヌ、相當困難ナル面倒ナル仕事デアアルニハ相違ナリマセヌガ、併ナガラ從來ノ方法ニ依テ土地ノ收買ヲ調べ、其收買ニ石代ヲ乘ジテ、ソレカラ經費ヲ差引キマシテ、純益ヲ出シテ、ソレヲ利子ノ高底歩合ヲ以テ還元ヲ致シタモノヲ、之ヲ其土地ノ地價トスルト云フ如キ、其方法ヲ以テ地價修正ヲ行ヒマスルト云フコトハ、非常ニ困難ナル仕事デアリマスルガ、其仕事ニ比較ヲ致シマスレバ、土地ノ貸賃價格ト申シマスコトハ、外部ニ現ハレタル所ノ課稅標準デアリマスルケレドモ、其調査ハ比較的ニ容易デアッテ、比較的ニ實行的ニ出來得ルト考ヘマス、是即チ此度ノ稅制整理ニ關聯ヲ致シマシテ地租ノ根本的改正ヲ企ツルニ當リ、其課稅標準ヲ貸賃價格ニ選ンダ次第デアリマス、此調査ヲスル所ノ機關ハ從前ノ如クニ、全國ニ散在シテ居ル所ノ稅務署ヲ以テスルカ、或ハ他ノ機關ヲ以テスルカト云フ御質問デアリマスルガ、是ハ申ス迄モナク全國ニアリマス所ノ稅務監督局、又其下ニアリマス所ノ稅務署、即チ大藏省ノ直系ノ機關ヲ以テ是ガ調査ニ當ラシムル積リデアリマス、固ヨリ其調査ニ當リマシテハ多大ノ手數ヲ要シマスルガ故ニ、相當ニ人員ヲ增加致シ、又相當ノ經費ヲ要スルコトハ申スマデモアリマセヌガ、是ハ迫加豫算ヲ以テ御協賛ヲ仰グ積

リテアリマス。其シテ其調査ニ二箇年間ニ完了スルヤ否ヤト云フ御質問デアリマスガ、若シ此調が初メテノ調査デアリマスルナラバ、私ハ二箇年間ニ完了スルト云フコトヲ確信ヲ以テ申上ゲルコトハ出来マセヌガ、只今申上ゲマスル通り、前二三年間調ベテ其資料ヲ残シテ居リマスルニ依テ、其資料ヲ利用ヲ致シテ調査スルコトが出来マスルニ依テ、二箇年間ニ此調査ヲ完了スルト云フ確信ヲ持シテ居ル次第デアリマス、

最後ニ調査委員會デ此調査ヲ致シマシテ、稅務署長ガ其調査ニ依テ之ヲ決定ヲ致シ、其決定ヲ致シマシタモノヲ、ソレニ對シテ土地ノ所有者ガ異議若情ヲ申立テル場合ニ於ケル所ノ救済ノ方法ハ如何ニスルカト云フ御質問デアリマスルガ、是ハ其當該稅務署ヲ經由致シ、又所轄ノ稅務監督局長ヲ經由致シマシテ、訴願、並ニ行政訴訟ノ途ヲ開ク積リデアリマス、此度ノ法律案ニハ此事ハ明記致シテアリマスセズデレドモ、此法律案ハ唯、土地ノ賃借價格ノ調査ニ關スル所ノ原則ヲ規定シタルニ止マリマシテ、其調査ヲ致シマスル所ノ調査委員會ノ組織、並ニ權限、及之ニ對スル所ノ救済ノ方法ニ付キマシテハ、他日別ニ法律案ヲ提出致シマシテ御協賛ヲ願フ積リデアリマス、最後ニ土地ノ政治上ノ狀況ト此問題トヲ結び附ケテ御心配ヲ以テノ御質問デアリマシタガ、此地租ノ課稅標準タル所ノ土地ノ賃借價格ヲ調査スルト云フ如キ事柄ハ、純然タル事務上ノ問題デアリマシテ、全ク政治上ノ問題デハナイノデアリマス、隨ヒマシテ此賃借價格ノ調査ノ其範圍ニ政治上ノ争ガ侵入スルト云フ如キ虞ハ、萬々アルベカラザルモノト思ヒマス

御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第七、海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、財部海軍大臣

第七 海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案 (政府提出)

海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案 第一條 海軍軍備補充計畫遂行ノ爲政府ノ爲シタル勸告ニ基キ軍艦、兵器又ハ其ノ材料ノ製造ニ必要ナル施設ヲ爲シタル會社カ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ軍艦及兵器製造計畫ノ變更ノ爲被リタル損害ニ對シテハ本法ニ依リ之ヲ補償スルコトヲ得

第二條 前條ニ規定スル補償金ノ總額ハ二千二百萬圓以內トス

第三條 補償金ハ主務大臣補償審査會ノ審査ヲ經テ之ヲ決定シ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス 補償審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第五條 本法ニ依リ補償金ヲ交付スル場合ニ於テハ政府ハ相手方ニ對シ補償ノ目的タル設備ノ無償讓渡其ノ他必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (國務大臣財部大臣登壇)

○國務大臣(財部大臣) 只今上程セラレマシタル海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案ニ付キマシテ大要御說明申上ゲマス、數年前我ガ海軍々備充實ノ計畫ガ決定致シマシテ、漸次八々艦隊完成ノ實行ニ取掛リマスニ當リマシテ、當時ノ海軍當局者ハ其軍艦兵器、又ハ其材料ノ製造ヲ請負ハシメント思ヒマスル所ノ造

船、造兵等ノ當業者ニ對シマシテ、豫メ其計畫ノ大要ヲ内示致シマシテ、是ガ實施ニ差支ナキヤウ既設會社ノ製造能力ノ擴張ヲ促シマシテ、又或ハ新會社ノ設立ヲ勸告致シタ次第デアリマス、是ニ於テ是等當業者ハ此勸告應ニ應ジマシテ、ソレノ巨額ノ資本ヲ投ジテ各般ノ設備ヲ致シマシタ、然ル所彼ノ華府會議ノ結果ト致シマシテ、大正十二年八月海軍軍備制限ニ關スル條約ガ實施セラレルコトニ相成リマシタ、ソレガ爲折角ノ是等設備ヲ致シマシタ所ノ者モ、之ヲ利用スルコトが出来ズ、加フルニ職工モ亦多數不要トナリマシテ、ソレ等ノ職工ニハ少ナカラヌ手當金ヲ與ヘテ解僱スルノ已ムナキニ立至リマシタ、是ガ爲ニ諸會社ハ莫大ナル損害ヲ被リマシテ、其中ニ極度ノ悲況ニ陥テ居ルモノガアルノデゴザイマス、政府ハ當時ノ海軍當局者ガ其會社ニ對シテ致シマシタ勸告應ニ應ジタルモノト云フ如キ私法上ノ關係ヲ生ゼシメタルモトハ認メマセヌ、隨テ此損害ニ對シタルシテ政府ニ當然賠償ノ義務ガアルモノトハ考ヘマセヌ、去リナガラ政府ノ勸告ニ基キマシテ或ハ設備ヲ擴張致シ、或ハ會社ヲ新設致シ、而モ是ガ國際條約ノ實施ノ爲ニ莫大ノ損害ヲ被リタモノニ對シマシテ、何等補償ノ途ヲ講ジナイト云フコトハ、德義上甚ダ失當ノ議リヲ免レナイモノト考フルノデゴザイマス、加之、是等ノ損害ニ對シマシテ相當ノ補償ヲ與ヘマスコトハ、帝國政府ノ信用ヲ保持スル上ニ於キマシテ已ムヲ得ザル處置ナリト信ズル次第デゴザイマス、如上ノ趣旨ニ基イテ本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切ニ希望致シマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、順次ニ之ヲ許シマス、三善清之君

〔三善清之君登壇〕

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、順次ニ之ヲ許シマス、三善清之君

〔發言スル者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 辭請ニ願ヒマス

○三善清之君 只今政府提案ノ海軍々備制限條約ノ實施ニ關スル損害補償法案ニ對シ

テ質問ヲ致シマス、此質問ニ先ダテ財部海相ニ一言致シタイ、吾々ハ愛國至誠ノ精神ヨリ、今期議會ノ劈頭ニ於テ海軍ノ缺陷ヲ憂慮シテ、廢艦補充計畫ノ確立ヲ絶叫シテ質問ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ何等海相ニ對シテ私怨ノアル者デハアリマセヌ、然ルニ海相ノ之ニ對スル答辯ハ甚ダ不深切、矛盾、不得要領ナル答辯ヲサレタコトヲ本員今尙遺憾ト致シテ居ルノデアリマス、其第一節ニ海軍ノ艦艇ノ隻數、噸數等ヲ以テ、海軍力ノ缺陷ヲ絶叫サレテハ困ルト云フナウナ、諍辯ヲ弄セラレテハ困ルマス、本員共考ヘマスノニ、海軍ノ實力ヲ見ルノニハ、矢張り、隻數、噸數及戰艦ノ新舊等ヲ論ズルコトハ必要デアルト思フデアリマス、左様ノ趣旨ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマス、最近ニ至リマシテ貴族院ニ於テ又此問題ガ喧シク質問ヲサレテ、結局政府ノ言質ヲ取ラレタヤウデアリマス、其結果遂ニ海相及首相ハ十六年度豫算ニ於テ、此補充計畫ヲ立テルト云フコトヲ言明サレタヤウデアリマス、勿論明カナル言明デハアリマセヌガ、十分ニ其意味ハ吾々ガ聽取ラレル、是ニ於テ吾々ノ主張ガ漸ク達成シ掛ケタト云フコトニ付テ稍、安心ヲシマシタ、併ナガラ海相ガ當初、此衆議院ノ議場ニ於テ爲サレタル答辯トハ、全然其趣旨ガ違フテ居ルヤウニ思フ、吾々ニ對シテ左様ニ答辯フニ二三ニサレテハ、甚ダ不滿ニ堪ヘラレナイ、斯様ナ政府當局者カラ本日モ亦其答辯ヲ伺フコトハ甚ダ快シトシナイ、本日ノ質問ニ對シテハ、成ベク藏相或ハ首相ノ答辯ヲ煩シタイト思フデアリマス、本日ノ提案ハ只今申シマシタ海軍ノ軍備制限條約ト云フノハ、華盛頓條約ニ而シテ華盛頓條約成立以後、今日マデ既ニ二年所七八箇年ヲ經過シテ居ル、其間ニ於テ内閣ノ交迭ヲ見ルコト數次、即チ加藤友三郎内閣、山本内閣、清浦内閣、加藤高明内閣ノ四代ヲ經過シテ居ルノデアリマス、然ルニ其間ニ於テ斯ノ如キ法案ヲ提出サレナカッタ、然ルニ突如トシテ現内閣ハ此法案ヲ提出サレタ譯デアリ

テ質問ヲ致シマス、此質問ニ先ダテ財部海相ニ一言致シタイ、吾々ハ愛國至誠ノ精神ヨリ、今期議會ノ劈頭ニ於テ海軍ノ缺陷ヲ憂慮シテ、廢艦補充計畫ノ確立ヲ絶叫シテ質問ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ何等海相ニ對シテ私怨ノアル者デハアリマセヌ、然ルニ海相ノ之ニ對スル答辯ハ甚ダ不深切、矛盾、不得要領ナル答辯ヲサレタコトヲ本員今尙遺憾ト致シテ居ルノデアリマス、其第一節ニ海軍ノ艦艇ノ隻數、噸數等ヲ以テ、海軍力ノ缺陷ヲ絶叫サレテハ困ルト云フナウナ、諍辯ヲ弄セラレテハ困ルマス、本員共考ヘマスノニ、海軍ノ實力ヲ見ルノニハ、矢張り、隻數、噸數及戰艦ノ新舊等ヲ論ズルコトハ必要デアルト思フデアリマス、左様ノ趣旨ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマス、最近ニ至リマシテ貴族院ニ於テ又此問題ガ喧シク質問ヲサレテ、結局政府ノ言質ヲ取ラレタヤウデアリマス、其結果遂ニ海相及首相ハ十六年度豫算ニ於テ、此補充計畫ヲ立テルト云フコトヲ言明サレタヤウデアリマス、勿論明カナル言明デハアリマセヌガ、十分ニ其意味ハ吾々ガ聽取ラレル、是ニ於テ吾々ノ主張ガ漸ク達成シ掛ケタト云フコトニ付テ稍、安心ヲシマシタ、併ナガラ海相ガ當初、此衆議院ノ議場ニ於テ爲サレタル答辯トハ、全然其趣旨ガ違フテ居ルヤウニ思フ、吾々ニ對シテ左様ニ答辯フニ二三ニサレテハ、甚ダ不滿ニ堪ヘラレナイ、斯様ナ政府當局者カラ本日モ亦其答辯ヲ伺フコトハ甚ダ快シトシナイ、本日ノ質問ニ對シテハ、成ベク藏相或ハ首相ノ答辯ヲ煩シタイト思フデアリマス、本日ノ提案ハ只今申シマシタ海軍ノ軍備制限條約ト云フノハ、華盛頓條約ニ而シテ華盛頓條約成立以後、今日マデ既ニ二年所七八箇年ヲ經過シテ居ル、其間ニ於テ内閣ノ交迭ヲ見ルコト數次、即チ加藤友三郎内閣、山本内閣、清浦内閣、加藤高明内閣ノ四代ヲ經過シテ居ルノデアリマス、然ルニ其間ニ於テ斯ノ如キ法案ヲ提出サレナカッタ、然ルニ突如トシテ現内閣ハ此法案ヲ提出サレタ譯デアリ

テ質問ヲ致シマス、此質問ニ先ダテ財部海相ニ一言致シタイ、吾々ハ愛國至誠ノ精神ヨリ、今期議會ノ劈頭ニ於テ海軍ノ缺陷ヲ憂慮シテ、廢艦補充計畫ノ確立ヲ絶叫シテ質問ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ何等海相ニ對シテ私怨ノアル者デハアリマセヌ、然ルニ海相ノ之ニ對スル答辯ハ甚ダ不深切、矛盾、不得要領ナル答辯ヲサレタコトヲ本員今尙遺憾ト致シテ居ルノデアリマス、其第一節ニ海軍ノ艦艇ノ隻數、噸數等ヲ以テ、海軍力ノ缺陷ヲ絶叫サレテハ困ルト云フナウナ、諍辯ヲ弄セラレテハ困ルマス、本員共考ヘマスノニ、海軍ノ實力ヲ見ルノニハ、矢張り、隻數、噸數及戰艦ノ新舊等ヲ論ズルコトハ必要デアルト思フデアリマス、左様ノ趣旨ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマス、最近ニ至リマシテ貴族院ニ於テ又此問題ガ喧シク質問ヲサレテ、結局政府ノ言質ヲ取ラレタヤウデアリマス、其結果遂ニ海相及首相ハ十六年度豫算ニ於テ、此補充計畫ヲ立テルト云フコトヲ言明サレタヤウデアリマス、勿論明カナル言明デハアリマセヌガ、十分ニ其意味ハ吾々ガ聽取ラレル、是ニ於テ吾々ノ主張ガ漸ク達成シ掛ケタト云フコトニ付テ稍、安心ヲシマシタ、併ナガラ海相ガ當初、此衆議院ノ議場ニ於テ爲サレタル答辯トハ、全然其趣旨ガ違フテ居ルヤウニ思フ、吾々ニ對シテ左様ニ答辯フニ二三ニサレテハ、甚ダ不滿ニ堪ヘラレナイ、斯様ナ政府當局者カラ本日モ亦其答辯ヲ伺フコトハ甚ダ快シトシナイ、本日ノ質問ニ對シテハ、成ベク藏相或ハ首相ノ答辯ヲ煩シタイト思フデアリマス、本日ノ提案ハ只今申シマシタ海軍ノ軍備制限條約ト云フノハ、華盛頓條約ニ而シテ華盛頓條約成立以後、今日マデ既ニ二年所七八箇年ヲ經過シテ居ル、其間ニ於テ内閣ノ交迭ヲ見ルコト數次、即チ加藤友三郎内閣、山本内閣、清浦内閣、加藤高明内閣ノ四代ヲ經過シテ居ルノデアリマス、然ルニ其間ニ於テ斯ノ如キ法案ヲ提出サレナカッタ、然ルニ突如トシテ現内閣ハ此法案ヲ提出サレタ譯デアリ

テ質問ヲ致シマス、此質問ニ先ダテ財部海相ニ一言致シタイ、吾々ハ愛國至誠ノ精神ヨリ、今期議會ノ劈頭ニ於テ海軍ノ缺陷ヲ憂慮シテ、廢艦補充計畫ノ確立ヲ絶叫シテ質問ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ何等海相ニ對シテ私怨ノアル者デハアリマセヌ、然ルニ海相ノ之ニ對スル答辯ハ甚ダ不深切、矛盾、不得要領ナル答辯ヲサレタコトヲ本員今尙遺憾ト致シテ居ルノデアリマス、其第一節ニ海軍ノ艦艇ノ隻數、噸數等ヲ以テ、海軍力ノ缺陷ヲ絶叫サレテハ困ルト云フナウナ、諍辯ヲ弄セラレテハ困ルマス、本員共考ヘマスノニ、海軍ノ實力ヲ見ルノニハ、矢張り、隻數、噸數及戰艦ノ新舊等ヲ論ズルコトハ必要デアルト思フデアリマス、左様ノ趣旨ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマス、最近ニ至リマシテ貴族院ニ於テ又此問題ガ喧シク質問ヲサレテ、結局政府ノ言質ヲ取ラレタヤウデアリマス、其結果遂ニ海相及首相ハ十六年度豫算ニ於テ、此補充計畫ヲ立テルト云フコトヲ言明サレタヤウデアリマス、勿論明カナル言明デハアリマセヌガ、十分ニ其意味ハ吾々ガ聽取ラレル、是ニ於テ吾々ノ主張ガ漸ク達成シ掛ケタト云フコトニ付テ稍、安心ヲシマシタ、併ナガラ海相ガ當初、此衆議院ノ議場ニ於テ爲サレタル答辯トハ、全然其趣旨ガ違フテ居ルヤウニ思フ、吾々ニ對シテ左様ニ答辯フニ二三ニサレテハ、甚ダ不滿ニ堪ヘラレナイ、斯様ナ政府當局者カラ本日モ亦其答辯ヲ伺フコトハ甚ダ快シトシナイ、本日ノ質問ニ對シテハ、成ベク藏相或ハ首相ノ答辯ヲ煩シタイト思フデアリマス、本日ノ提案ハ只今申シマシタ海軍ノ軍備制限條約ト云フノハ、華盛頓條約ニ而シテ華盛頓條約成立以後、今日マデ既ニ二年所七八箇年ヲ經過シテ居ル、其間ニ於テ内閣ノ交迭ヲ見ルコト數次、即チ加藤友三郎内閣、山本内閣、清浦内閣、加藤高明内閣ノ四代ヲ經過シテ居ルノデアリマス、然ルニ其間ニ於テ斯ノ如キ法案ヲ提出サレナカッタ、然ルニ突如トシテ現内閣ハ此法案ヲ提出サレタ譯デアリ

マス、固ヨリ金額ニ於テ二千二百萬圓ノ限度トシテ居リマスルケレドモ、問題ガ關聯デアリマス故ニ、其背後ニ於テハ金權閣ノ運動モアツタデアラウト思フ、請負者ノ運動ハ無論アツタデアラウト思フ、其邊ニ付テ聊カ疑ナキヲ得ナイノデアル、而シテ政府ハ是ガ爲ニ特ニ國債證券ヲ發行サルノデアル、特ニ起債ヲシテ其償價ノ貴ニ當ルト云フノデアリマス、諸君、此法案ノ第一條ニ依リマスレバ、民間ノ會社ガ海運當ノ契約ヲ應ジテ、即チ會計法ニ依ル所ノ契約ハナイ、而シテ軍艦、兵器、材料等ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シテ、其損害ヲ辨償スルト云フノ法案デアリマス、故ニ之ヲ民法上カヲ見、又會計法上カヲ見マシテ問題デアラウト考ヘマス、故ニ歷代ノ内閣ハ之ヲ取扱フコトヲシナカタモノデナカラウカト云フ疑モアルノデアリマス、此點ニ付テ特ニ裁相ノ詳カナル答辯ヲ伺ヒタイノデアリマス、第二問ト致シマシテハ、前年ノ議會ニ確カ此案ガ豫算委員會ニ於テ質問サレタコトガアリマスマス、其際ノ政府委員ハ井出海軍次官デアッタ思ヒマスルガ、勸告ニ依ル所ノモノ、損害等ハ辨償ノ限リデナイ、補償解約ヲスルノデアルト云フ答辯ヲサレタヤウニ本員ハ記憶ヲスル、併シ是ハ確ニ茲ニ明言ハ致シマセスガ、左様ニ記憶致シマスガ、此點ニ付テ政府デハ御調ヘガアツタマラウト思ヒマスカラ伺ヒマス、第三ニ會計法ノ命ズル所ニ依リマシテ、軍艦、兵器、材料等ノ注文契約等ヲ致シマシタ場合ニハ、其註文契約ニ於テ必ズ其後事變ニ依テ、變更、中止、又ハ解約ヲ致シマスル場合ハ、必ズ斯ク々々致ス、斯様ナ損ヲ持チ、斯様ナ條件ニ依テ契約ヲ解除スルト云フコトハ、契約文面ニ確ニ具テ居ナケレバナラヌコトデアリマス、契約文面ニ若シ明文ガ無イ場合ニハ、無論辨償ノ貴ナシト斷言シテ俾ラナイト思ヒマス、又一方請負人カラ云ヒマシテ、即チ會社側カラ申シマシテ其損害ノ補償ヲ受クベキ權利ガ法規ニ依テアリマスマスナラバ、今日マデ當然既ニ請求ヲサレテ居ル譯デア

リマス、之ヲ要スルニ政府トシテ既定ノ法規ニ依テハ支拂ノ義務ナシ、會社側ト致シマシテハ既定ノ法規ニ依テハ請求スベキ權利ナシト云フ問題デアリマス、第三問トシテ斯様ナ問題デアリマスカラ、無論請負者側、會社側トシテハ、種々ノ運動、懇請ヲ致シタモノデアリマセウ、只今海相ノ言ハレル如ク、已ムヲ得ズ德義上ニ依テ、テヤラナケレバナラヌト云フ事情モアルデアラウト思ヒマス、斯ノ如キ法案デアリマスカラ、吾々モ徒ニ反對ヲ致スノデアリナイ、十分密議調査ヲ致ス考デアリマスカ、斯様ナ案ハ調査ヲシナケレバナラヌト考ヘル、而シテ民間ノ會社ト云フノハ何會社々々デアアルカ、之ヲ明ニ伺ヒタイ、而シテ何會社ニ何百萬圓、何會社ニ何千萬圓ヤルト云フコトモ伺ヒタイノデアリマス、併ナガラ其限度ニ於テハ二千二百萬圓ヲ超エナイコトハ承知シテ居リマス、斯様ニ伺ヒマスレバ政府ハソレハ答辯ハ出來ナイ、ソレガ爲ニ此法案第三條ニ於テ、補償審査會ト云フモノヲ設ケテ、審査ノ結果支拂ヲスルノデアラウカラ、其答辯ハ出來ヌト云フハレルデアラウト思ヒマスガ、併シ既ニ二千二百萬圓ト云フ此金額ノ計算ノ所出何處ニ在ルカ伺ヒタイ、而シテ民間ノ會社ガ損害ヲシテ、德義上政府ガ辨償ヲシナケレバナラヌト云フ其民間ノ實際ノ損害ガ幾ラデアルカ、斯ウ云フ事モ明確ニ伺ヒタイト思ヒマス、ソレデ第三條ノ法文ニ、今ノ所謂補償審査會ナルモノヲ組織サレルノデアリマスカ、政府ハ政府ノ政務官或ハ事務官、與黨ノ議員或ハ準與黨ノ議員等ヲ以テ此審査會ヲ組織サル場合、所謂自畫自贊チヤナイカ知ラヌ、ドウ云フ人間ヲ以テ組織サレルノカ、此點モ伺ヒタイノデアリマス、斯様ニ申シマスト、政府ハ今日マデ打テ置イタノデアリナイ、震災復興等ノ爲ニ此辨償ヲスル追ガナカタノデアアル、今ヤ震災ノ復興モ略、見當ガ付イタノデアアルカラ、茲ニ本案ヲ提出シタノデアルト言ハル、カモ知レナイ、併ナガラ國家ガ民間ニ對シ、即チ國民ニ對シテ支拂ベキ義務ガアルナラバ、今日

マデ七八年ノ間打テ置イタノハドウ云フ譯デアアルカ、甚ダ不條理千萬デアルト考ヘマス、斯様ナ問題デアリマスカラ、歷代ノ政府ハ之ヲ打テ置イテ今日此案ガ此處ニ現レタ、會社側トシテハ當然現行法規ニ於テハ請求權ハアリマセウ、之ヲ要スルニ本問題ハ權利義務ヲ全ク離レタル問題デアリマス、然ルニ現内閣ハ茲ニ新ニ法律ヲ制定シテ、國家デ起債シ、債權者ノ位置ニ立チ、而シテ會社側ヲ新ニ債務者ト致シテ此辨償ヲ致ス上ト云フ、此奇怪ナル理由ヲ明白ニ伺ヒタイノデアリマス、之ヲ要スルニ本案ハ現行法規的ニ見マシテ、甚ダ不條理デアラ、結局情實ノ問題デアリマスカラ、吾々ハ十二分ニ審議ヲ致シテ、而シテ贊否ヲ決シタイト思ヒマス、十分政府ノ明確ナル御答辯ヲ煩シマス(拍手)

シ政府ノ勸告ト云フコトガナカタナラバ、法律上ハ勿論ノコト、道徳上カラ申シマシテモ何等ノ責任ハ無イノデアリマス、茲ニ問題トナリマスノハ、政府ノ勸告ガアツタト云フ事情デアリマス、既ニ政府ガ勸告ヲ致シテ、相當ノ設備ヲ爲サシメ、其設備ガ不用ニナリマシタ爲ニ、當該ノ會社ハ不測ノ損害ヲ被ムル、政府ト致シマシテハ、無論法律上ノ責任ハナイ、契約上ノ義務ハアリマセウガ、是ハ即チ政治上、德義上ノ義務責任デアルト思ヒマス、其見地ニ基イテ提案ヲ致シマシタノガ、即チ此度ノ法案デアリマス、第二ノ御質問ノ御趣意ト致シマシテハ、然ラバ此事件ガ起テカラ今日ニ至ルマデ既ニ數年ヲ經過シ、其間内閣ノ更迭モ數回デアツタニ拘ラズ、此内閣ノ時ニ於テ始メテ此提案ヲ致シタト云フノハ、如何ナル理由デアアルカト云フ御趣意デアッタ思ヒマス、歷代ノ内閣ニ於キマシテモ、私ノ承知シテ居ル所ニ依リマスマス、此問題ノ解決ニ付テ種々調査研究ヲ重ネラレテ居、タト云フコトハ明瞭ナル事情デアリマス、唯、從來内閣ノ更迭ガ頻繁デアリマシタガ爲ニ、其調査研究ニ於テ其事ヲ果サズシテ内閣ガ更迭ヲ致シ、又其問題ヲ後ノ内閣ニ引繼グト云フコトガアツタ爲ニ、今日ニ至ルマデ實行ノ機ヲ得ナカタモノデアラウト私ハ思ヒマス、加之三善君モ御承知デアラウト思ヒマスマスガ、此問題ヲ此内閣ニ於テ方針ヲ決シマシタノハ、即チ前議會ノ頃デアツタノデアリマス、前議會ノ頃ニ於キマシテ、其當時ノ所謂三派ノ内閣、其内閣ニ於キマシテ、此問題ヲ解決ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ廟議ヲ決定致シマシテ、サウシテ議會ノ終リマスト同時ニ、從來ノ調査ニ基キマシテ、更ニ精密ナル調査研究ヲ重ネテ漸ク成案ヲ得マシタノデ、此度提案ヲ致シテ御協賛ヲ仰グ次第デアリマス、ソレカラ此補償金ヲ受クル所ノ會社ノ姓名、並ニ金額ノ算出ノ基礎如何、斯ウ云フコトデアリマスカ、是ハ海軍當局カラ御答致スコトデアラウト思ヒマシテ、私ハ説明ヲ省略致シテ置キマス、又民間ノ實際ニ被

○國務大臣濱口雄幸君登壇

國務大臣(濱口雄幸君) 私ヨリ大體ノ御答ヲ致サウト思ヒマス、私ノ御答致シマセナカタ事項ニ付キマシテハ、適當ナル機會ニ於テ、海軍ノ當局ヨリ説明ヲ申上ゲルコトデアラウト思ヒマス、只今ノ御質問ノ要點ヲ伺ヒテ居リマシタ、數項ニ分レテ居リマシタケレドモ、大體ノ御趣意ハ、此度ノ造船會社ニ對スル補償ト云フコト、法律上ノ義務ヲ對スル權利上若クハ契約上會社ガ之ヲ請求スル權利ノ有ルモノデアアルカ、或ハ無イモノデアアルカ又政府ノ側カラ申シマセ、法律上、契約上、支拂ヲスル義務ガ有ルベキモノデアアルカ、或ハ無イモノデアアルカ、是ガ第一點デアツタヤウデアリマス、三善君モ御質問ノ中ニ御述ニナリマシタ通り、是ハ現在ノ法律上又ハ契約上カラ申シマセ、政府ハ其支拂ノ義務ハ持テ居リマセウ、又會社ト致シマシテモ、法律上之ヲ請求スル所ノ權利ヲ持テ居ナイコトハ勿論デアリマス、唯、海軍大臣ガ最初ニ說明サレマシタ通り、是等ノ會社ト云フモノハ、當時ノ政府當局ノ勸告ニ基イテ、ソレト、設備ヲ致シタモノデアリマス、其設備ヲ致シマシタモノガ、軍備制限條約ノ結果トシテ不用ニ歸シタノデアリマス、若

場ニ改メ「郡長」ヲ削ル

第二十一條中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改

第二十四條第一項中「郡市長」ヲ「市町村

長」ニ改メ同條第一項ヲ削ル

第二十五條第一項中「郡市長」ヲ「市町村

長」ニ改ム

第二十六條 削除

第二十七條第二項中「郡市長」ヲ「市町村

長」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第三十二條第一項中「郡市長」ヲ「市町村

長」ニ、「各投票區内」ヲ「其ノ投票區内」

ニ改ム

第五十一條中「郡市役所」ヲ「支廳若ハ市

役所」ニ改ム

第五十九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第六條第一項第三號ノ規定ニ依リ

地方長官ノ指定シタル官吏(支廳長ヲ

除ク)選舉長タル場合ニ於テハ地方長

官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前條第一項但書ノ規定ハ選舉錄及

投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第五十五條ノ二 本法中郡トアルハ從前郡

長ノ管轄シタル區域ヲ謂フ

前項ノ規定ハ島ノ之ヲ準用ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内

ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ

區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變

更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變

更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ

境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合

ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬

スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第五十五條ノ三 北海道廳支廳長ノ管轄區

域ニ變更アルモ選舉區ニ關シテハ仍從

前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界

ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管

轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ

在ラス

前項ノ規定ニ依ル選舉ニ關シ本法ノ規

定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以

テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第六十五條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中

郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ

之ヲ適用ス

附則

本法ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行

ス

大正十年法律第六十四號ハ之ヲ廢止ス

第十 大正十四年法律第四十七號衆議

院議員選舉法中改正法律案(政府提

出)

大正十四年法律第四十七號衆議院議員

選舉法中改正法律案

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選

舉法中左ノ通改正ス

第十二條第一項及第二項ヲ削リ同條第三

項中「市長」ヲ「市町村長」ニ、「市内」ヲ「市

町村内」ニ改メ同條第四項中「第一項又

ハ」及同條第六項中「又ハ第三項」ヲ削ル

第十三條中「郡市役所」ヲ「市役所」ニ改メ

「郡長及」ヲ削ル

第十四條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」

ニ改ム

第十五條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」

ニ改メ同條第二項及第三項ヲ削ル

第十六條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」

ニ改ム

第十七條第二項中「郡市長」ヲ「市町村長」

ニ改メ同條第三項及第四項ヲ削ル

第四十四條中「郡市長」ヲ「支廳長、市長又

ハ地方長官ノ指定シタル官吏」ニ改ム

第四十五條中「郡市役所」ヲ「支廳、市役

所」ニ改ム

第五十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四十四條ノ規定ニ依リ地方長官

ノ指定シタル官吏開票管理者タル場合

ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘ

シ

第五十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前條但書ノ規定ハ開票錄及投票錄

ノ保存ニ之ヲ準用ス

第五十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ掲クル者ヲ以テ選舉長トス

一 一縣又ハ一市一選舉區タル場合ニ

於テハ其ノ地方長官又ハ市長

二 一選舉區數市又ハ支廳管内及市ニ

涉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市

長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

三 其ノ他ノ選舉區ニ於テハ官吏又ハ

關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定

スル者

第五十九條中「縣廳若ハ郡市役所」ヲ「縣

廳、支廳若ハ市役所」ニ改ム

第六十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第五十八條第一項第三號ノ規定ニ

依リ地方長官ノ指定シタル官吏(支廳

長ヲ除ク)選舉長タル場合ニ於テハ地

方長官ニ於テ選舉錄及第四十九條第三

項ノ報告ニ關スル書類ヲ保存スヘシ

第六十四條ノ二 本法中郡又ハ島廳管

内トアルハ從前郡長又ハ島司ノ管轄シ

タル區域ヲ謂フ

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内

ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ

區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變

更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變

更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ

境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合

ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬

スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第六十四條ノ三 北海道廳支廳長ノ管

轄區域ニ變更アルモ選舉區ニ關シテハ

仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ

境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長

ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ

限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選舉ニ關シ本法ノ規

定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以

テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第六十四條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本

法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區

域ニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行

ス

第十一 衆議院議員ノ選舉權ニ關スル

法律案(政府提出) 第一讀會

衆議院議員ノ選舉權ニ關スル法律案

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレ

タル最近ノ衆議院議員選舉人名簿ニ登錄

セラレタル者ハ次に總選舉ニ至ル迄ノ間

納稅要件ヲ關クニ至リタル場合ト雖之カ

爲其ノ選舉權ヲ失フコトナシ本法公布後

次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間ニ調製セラレ

選舉人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二 北海道會議員及府縣會議員ノ

選舉權及被選舉權並市町村會議員ノ

公民權ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

北海道會議員及府縣會議員ノ選舉權及

被選舉權並市町村會議員ノ公民權ニ關

スル法律案

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレ

タル最近ノ北海道會議員又ハ府縣會議員

ノ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次に

總選舉ニ至ル迄ノ間納稅要件ヲ關クニ至

リタル場合ト雖之カ爲其ノ選舉權及被選

舉權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選

舉ニ至ル迄ノ間ニ調製セラレタル選舉人名

簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

本法公布ノ際現ニ北海道會議員、府縣會

議員又ハ市町村會議員ノ職ニ在ル者ハ其

ノ任期ヲ終ル迄ノ間被選舉權又ハ公民權

ノ納稅要件ヲ關クニ至リタルカ爲其ノ職

ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選舉ニ

至ル迄ノ間ニ其ノ職ニ在ルニ至リタル者

亦同シ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三 土地收用法中郡長ノ職務ヲ定

ムル規定ノ適用ニ關スル法律案(政

府提出) 第一讀會

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定

ムル規定ノ適用ニ關スル法律案(政

府提出) 第一讀會

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定
ノ適用ニ關スル法律案
土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ハ
町村長ニ之ヲ適用ス

附則
本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 只今上程セラレマシタ諸案ノ大要ヲ御説明申上ゲマス、第九、第十、第十一ハ何レモ衆議院議員選舉法ニ關スル事デアリマスガ、極メテ重要ナル法案デアリマス、其提案ノ趣意ハ極メテ簡單デアリマス、先ヅ第九、第十ノ兩案ハ關係致シマスルカラ、併セテ御説明申上ゲマス、政府ハ大正十五年度ニ於キマシテ、行政財政ノ整理改善ヲ圖ルノ目的ヲ以テマシテ、郡長ヲ廢止スルコトニ致シテ居ルノデゴザイマス、隨テ衆議院議員選舉法中改正ヲ爲スノ必要ヲ生ジマシタ故ニ、郡長ノ廢止ニ關聯致シマシテ、必要已ムヲ得ザル限度ニ於テ、現行選舉法並ニ改正選舉法ニ付選舉長、開票管理者、選舉人名簿、投票立會人等ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘントスルノデアリマス、是ガ本案ノ改正ヲ提案シタ理由デアリマス、次ニ第十一、第十二ハ關係致シマスカラ、併セテ御説明申上ゲマス、今回ノ稅制整理ニ依レバ地租、所得稅及營業稅ニ關シ改廢ヲ加フル結果ト致シマシテ、衆議院議員ノ選舉權並ニ地方議會議員ノ選舉權、被選舉權及公民權中ノ納稅要件ヲ缺如スルニ至レルガ故ニ、相當多數ノ失格者ヲ生ズル見込デアリマス、而シテ稅制整理ノ結果速ニ多數ノ失格者ヲ生ズルハ、健全ナル地方行政ノ運用上圓滿ヲ缺ク嫌ガアリマスカラ、隨テ、是ガ適當ナル對策ヲ講ズルノ必要ガアルノデアリマス、是レ此兩案ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、最後ニ第十二ノ提案理由ヲ説明致シマス、現行法ニ依レバ天災地變ニ際シマシテ、急務ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スル場合ニアリマシテハ、郡市長ガ其事業ノ認定ヲ致シマシテ、其土地ヲ使用セシムル規定デアリマスガ、然ルニ今回郡長ヲ廢シマスルガ爲ニ、是等ノ事務ハ町村長ヲシテ執行セシムルコトガ必要デアアルノデアリマス、是レ本案ヲ提出シタ理由デアリマス、何レモ今申シマスル通りニ極メテ簡單デゴザイマスルカラ、願ハクハ御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス——原夫次郎君

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 只今上程セラレマシタル法律案ハ、何レモ憲法附屬ノ大典ノ改正案デアリマシテ、就中昨年吾々ガ協賛ヲ與ヘタル所ノ衆議院議員選舉法、即チ新選舉法ノ改正案ガ只今日程第十トシテ上程セラレタデアリマス、私ハ先ヅ此改正法律案ニ付テ改正ノ内容ニ立入テ御質問ヲ致ス前ニ、先ヅ内務大臣其他ノ國務大臣カラデモ宜シイ得タイ事項ガアル、現内閣ノ責任アル答辯ヲ得タイ事項ガアル、ソレハ申シテモナク此憲法附屬ノ大典ノ改廢ニ關シマシテ、是ハ言フマデモナク樞密院ノ官制ニ依リマシテ、先ヅ政府ハ我ガ議院ニ提案スル前ニ、樞密院ノ御諮詢ヲ相俟ツコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、此改正法律案ハ、既ニ遠ク先々月デアリマシタカ、樞密院ニ御諮詢ニ相成ツテ居ルデアリマスガ、樞密院ニ於キマシテハ、現内閣ノ施政ノ方針ヲ見解ヲ異ニスルト云フ故ヲ以テ、即チ現内閣ガ施政ノ大方針ト致シテ居ル郡長、郡役所、支廳長等ノ廢止ヲ企テタコトニ依テ、此改正案ヲ提出致シタノデアリマスガ、樞密院ハ根本ニ於テ郡役所廢止ニ付テハ反對デアルト云フ、此現内閣ノ施政ノ方針ト立入テ、根本ノ見解ヲ異ニスルガ爲ニ、樞密院ニ於テハ精査委員會ヲ既ニ六回モ開會致シ、而シテ最後ニ去ル十六日ノ本會議ニ於テ、二ツノ希望條件ヲ附シテ之ガ諮詢ニ御答ヲ致シタト云フコトデアリマス、其第一ト致シテハ、樞密院ニ於テハ先程申ス如ク、郡長郡役所ノ廢止ハ絕對ニ反對デアアル、反對デアアルケレドモ、既ニ政府ハ此政策ヲ遂行セントスル場合ニ當テハ、少クモ此郡役所

ニ代ルニ出張所ヲ設クルコトヲ希望條件ト致シ、第二ト致シテハ、郡長廢止ノ所謂地方官制ニ屬スル所ノ事項ヲ、將來樞密院ノ議ニ付スルト云フコトノ二ツノ條件ヲ附シテ、此改正案ヲ通過セシメタト云フコトデアリマス、現内閣ノ首班ノ若槻首相ハ、新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ、此樞密院ノ誤レル希望條件ニ對シテ、之ニ承諾ヲ致シ、幸ニ其通過ヲ得テ此法律案ヲ本議場ニ提出致シタト云フコトデアリマスガ、果シテ斯ノ如キ弱音ヲ吐イタノデアアルカ、ドウカ、第一ニ之ヲ御伺ヒシタイ、何トナレバ若槻首相ハ、吾々ノ此衆議院ニ於テハ、郡役所ヲ廢止スルト同時ニ、其出張所ハ之ヲ設ケナイ、唯、全國僅カニ在リ島嶼、即チ島國ニ於テ五箇所カ六箇所設ケルニ過ギナイ、其他ハ全部之ヲ設ケナイト云フコトデ、吾々ハ此郡役所廢止ノ豫算ニ協賛ヲ與ヘテ、其豫算ハ今貴族院ノ議ニ付シテ居ルノデアリマス、然ルニ樞密院ノ官制ニ於テハ斷ジテ此施政ノ事ニ喙ヲ容ル、ハコトハ官制上相成ラヌノデアリマス、是ハ私が申シテモナクイ、然ルニ斯ノ如キ希望條件ヲ附シタト致シマスルナラバ、樞密院ナルモノハ自己ノ職責ヲ顧ミナイデ、濫ニ施政ノ事ニ關與シ、而モ現任貴族院デ論議ノ的トナツテ居ル所ノ、此郡役所廢止問題ニ對シテ、大ナル間接射擊ヲ爲シ、以テ施政ノコトニ容喙スルコトニナツテ居ル、斯ノ如キコトガ眞ニアツタリトスルナラバ、是ハ斷ジテ吾々ノ許容スベカラザルコトニ屬スルノミナラズ、又現内閣ノ餘リニ弱腰ヲ啾ハザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ此會期切迫ノ今日、此重大ナル三法律案ヲ提出致シタト云フコトハ、是ハ全ク樞密院ノ斯ノ如キ越權ノ處置カラ、事甚ニ至リタモノデアツテ、若シ本案カ吾々ノ手ニ依ツテ審議ヲ致シ、次ニ貴族院ニ於テ握演シニ相成タ場合ニ於テハ、其責任ハ樞密院ガ負ハナケレバナラヌノデアアル、此點ニ關シテ政府ハ如何ニ樞密院ニ對シテ責任ヲ負ハシムルト云フ考デアアルカト云フコトヲ御伺致シタイ、ソレカラ次ニハ法律案ノ内容ニ關スル點デアリマ

スガ、即チ新選舉法中ノ改正法律案、此法律案ノ百四十四條ニ二ツノ項目ヲ新設致シタコトデアリマス、一體先程俵政務次官ノ本案提出ノ理由ヲ聽キマシテモ、又此改正法律案ノ理由書ヲ拜見致シマシテモ、此改正法律案ナルモノハ、今般郡長及島司ノ廢止ニ付テ、新選舉法ヲ改正スルノ必要ガアルカラ之ヲ出シタノデアアル、斯ウ云フコトデアリマスルカラ、隨テ此改正ノ範圍ナルモノハ、郡長及島司ノ廢止ニ付テ、眞ニ必要已ムヲ得ズシテ此改正ヲ爲シタモノデアルト云フコトニ吾々ハ拜承致スノデアリマス、然ルニ拘ラズ只今申上ゲタ所ノ百四十四條ニ、新二ツ設ケタ項目ハ如何ナルコトデアアルカト申シマスナラバ、是ハ郡長及島司ノ廢止ニ付テト否トニ拘ラズ、全然ソレトハ關係ナキ條項ヲ茲ニ掲ゲ來タコトデアリマス、即チ新選舉法ニ於キマシテハ、昨年咄嗟ノ間ニ吾々ガ協賛ヲ與ヘタ法律デアリマスルガ爲ニ、彼ノ選舉法ノ別表ニ於テ、各府縣共ニ選舉區ト並ニ選出議員ノ數ヲ限定致シテアルノデアリマス、而シテ此別表ナルモノハ、將來十年間ハ之ヲ改廢シナイト云フ特別ナル規定マデ設ケテアル、然ルニ今度ノ改正法律案ニ依ルコト云フ、郡役所ガ廢止ニナツタ結果、郡役所ノ從來管轄致シテ居ル所ノ其管轄區域ガ即チ選舉區ニナルト云フコトハ、是ハ海ニ尤モナ事デアアルノデアリマスケレドモ、若シ各郡役所ト郡役所トノ間、或ハ北海道ニ於テハ支廳長ト支廳トノ間、若クハ各府縣ニ於テ此郡ト市トノ中間ニアル地域、或ハ北海道ニ於キマシテモ支廳ト市トノ中間ニ位スル地域ニ於テ、市町村ノ管轄ガ變更ヲ來シタ場合ニ於テハ、此別表ノ改正ハ是ハ勅令ヲ以テ改正スルコトガ出來ルト云フ、茲ニ百四十四條ノ三項ニ於テ新ナル條項ヲ挿入致シタコトデアリマス、諸君、如何デアリマセウ、斯ノ如キ規定ナルモノハ、昨年協賛ヲ與ヘタル新選舉法中ニ是ハ規定セザリシ缺陷デアツタ箇條デアアルノデアリマス、然ルニ此度郡長及島司ノ廢止ニ付テト云フコトデ、多クノ條文ヲ改正致シ、其改正ハ

主トシテ其廢止ダケノ問題ニ牽聯シテ、文字ノ修正ダケガ改正ニ相成テ居ルノデアリマス、然ルニ拘ラズ只今申上ダケル所ノ百四十四條ノ第二項並ニ第三項ヲ附加ヘテ、郡長若クハ島司ノ廢止ニ何等ノ關係ノナイ新ナル斯ノ如キ別表改正ノコトハ、勅令ヲ以テ之ヲ規定スルコトガ出來ルト云フヤウナ、咄嗟ノ間ニサウ云フ規定ヲ設ケテ之ヲ改正セントスル法案デアリマス、吾々ハ斷ジテ斯ノ如キ憲法上法律ノ規定事項デアアルモノヲ、咄嗟ノ間ニ此條文ヲ設ケラレテ、是ガ後日勅令デ以テ自由ニ改廢セラレルト云フコトニナリマシタナラバ、新選舉法ノ別表デアアル所ノ選舉區制ノ問題、選出議員ノ數ノ問題ハ、勅令デ以テ裁ラデモ改廢ガ出來ルコトニ相成ルノデアリマス、時ノ政府ノ都合ニ依テ、吾々ガ協賛ヲ與ヘナケレバナラナイ事項ヲ、勅令ニ之ヲ讓ルト云フコトハ一體何タル事デアリマセウカ、是ハ吾々議員ト致シテ斷ジテ斯ノ如キ改正ヲ企ツベキモノデハナイト信ズルノデアリマス、殊ニ又斯ノ如キ郡ト郡トノ間ヘ挾マル所ノ市町村ノ境界ガ異ルト云フコトハ、郡ノ變動ガアルト云フ場合ニ於テハ、其場合ニ於テ勅令ヲ以テ其境界ヲ定メ、其場合ノ勅令ガ出タル時ニ於テハ、此選舉區ノ別表ハ其場合ニ於テ政府者ハ直ニ議會ニ提案ヲシテ、別表ノ改正ヲ爲セバ宜シイノデアリマス、然ルニ拘ラズ其事ヲ規定シテナクテ、直ニ勅令ヲ以テ斯ノ如キ重大ナル變更ヲ爲セントスルコトハ、吾々此法案ヲ見テ立所ニ疑問ガ起ルノデアリマス、以上ノ點ニ於テ實ハ内務大臣ノ御聲明ヲ求メテ置イタノデアリマスガ、只今總理大臣ガ御出ニナクノデアリマスカラ、其點ニ於テ御答辯ヲ煩シタイノデアリマス(拍手)

○國務大臣(若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 只今御質問中、衆議院議員選舉法第百四十四條ニ關スル御質問ハ、政府委員ヨリ御答辯ヲ致スコトニ致シマス、樞密院ノ議事ニ關スル御質問ニ對シテ私ヨリ御答ヲ致シマス、樞密院ノ議事ハ御承知ノ通り秘密ニスルト云フコトニナクテ居リマシテ、法規上私ハ議事ノ内容ヲ茲ニ申上ダケルコトガ出來ヌノデアリマス、ソレ故ニ樞密院ノ議事ガ如何ナルモノデアラカト云フ御質問ニ對シテハ、私ハ答辯ガ出來マセヌト御答スルノ外ナイノデアリマス、唯、世間ノ疑惑ヲ解クガ爲ニ、新聞紙ニ書イテアルコトニ付テ私ハ申上ダケタインデアリマス、即チ新聞紙ニ於テハ地方官々制中ノ重要ナル事柄ニ付テハ、是ガ改正ノ場合ニハ樞密院ニ御諮詢ニ相成ルヤウニ政府ガ奏請シテ貰ヒタイト云フコトヲ、樞密顧問官カラ要求ヲセラレテ、私ガ之ニ同意ヲ表シタト云フコトガ書イテアリマス、是ハ全然事實デナイノデアリマス、左様ナ事ハ私ハ決シテ同意ヲ致シテ居リマセヌ、是ダケハ明瞭ニ申上ダケマス

トニナクテ居リマシテ、法規上私ハ議事ノ内容ヲ茲ニ申上ダケルコトガ出來ヌノデアリマス、ソレ故ニ樞密院ノ議事ガ如何ナルモノデアラカト云フ御質問ニ對シテハ、私ハ答辯ガ出來マセヌト御答スルノ外ナイノデアリマス、唯、世間ノ疑惑ヲ解クガ爲ニ、新聞紙ニ書イテアルコトニ付テ私ハ申上ダケタインデアリマス、即チ新聞紙ニ於テハ地方官々制中ノ重要ナル事柄ニ付テハ、是ガ改正ノ場合ニハ樞密院ニ御諮詢ニ相成ルヤウニ政府ガ奏請シテ貰ヒタイト云フコトヲ、樞密顧問官カラ要求ヲセラレテ、私ガ之ニ同意ヲ表シタト云フコトガ書イテアリマス、是ハ全然事實デナイノデアリマス、左様ナ事ハ私ハ決シテ同意ヲ致シテ居リマセヌ、是ダケハ明瞭ニ申上ダケマス

○政府委員(俵孫一君登壇)

○政府委員(俵孫一君) 只今原君ノ百四十四條ノ二並ニ三ノ規定ハ、此際之ヲ提案スルコトハ甚ダ不都合デハナイカト云フ御尋ニ對シマシテ御答致シマス、是ハ第九ノ明治三十三年法律第七十三號、衆議院議員選舉法中改正法律案、其中ニアリマスルガ、大正十年ノ法律第六十六號衆議院議員選舉區ニ關スル件ト云フ單行法ガアリマス、此單行法ヲ今回矢張第九ノ改正案ニ依テ廢止致シマシテ、廢止致シマス、結果ト致シマシテ、此規定ニ關シテ島司並ニ北海道支廳長ニ關スル問題ガ全ク消滅スルノデアリマス、ソレ故ニ其善後法ト致シマシテ、第十ノ改正法ニ依テ茲ニ百四十四條ノ二、並ニ百四十四條ノ三、此二箇條ヲ追加致シマシテ、一ツハ島司ニ關シ、一ツハ北海道支廳長ニ關スル規定ヲ設ケタダケデアリマス、極ク簡單ナ理由デアリマス

○原夫次郎君 選舉法ノ改正案ノ内容ニ付テハ何レ委員會ニ讓ルコト、致シマス、又現内閣樞密院ノ問題ニ付キマシテ、先程若槻首相カラ御質問ヲ得テ大ニ安心シタノデアリマスルガ、序ニモウ一ツ御質問致シテ置キタイト思フノハ、流石ハ若槻首相デアリマス、斯ル新聞ニ掲ゲテ居ルヤウナ言明ヲ致

シタコトハナイ、斯ウ云フコトデアッテ、是ハ左モアルベキコト、思フノデアリマスガ、然ル所第二ノ質問ト致シマシテ、私ノ御尋致シタ所ノ現内閣ハ郡役所廢止問題ニ付テ、當初豫算ヲ提案セラレ、斷乎タル施設ノ方針トシテ述ベラレテ、御考ヘニナクタモノデアアルカラ、ソレニ付テ此法律ガ改正ニナル場合ニ於テ、今日マデ樞密院ニ精査委員會ヲ、此簡單ナル問題デ五回モ六回モ開カスト云フコトハ、一體ドウ云フコトデアリマスカ、今日此會期切迫ナ場合ニ於テ、本院ガ之ニ協賛ヲ與ヘテモ、貴族院ガ協賛ヲ與ヘナケレバイカヌデアアル、而シテ若シ貴族院ガ之ヲ握リ潰シニナクテナラバ、樞密院ハ大ナル責任ヲ持タナケレバナラヌ立場ニ在ルノデアリマス、所デ樞密院ハ隨分無責任ナ所デアリマシテ、陛下ノ御諮詢ニ奉答スルダケノ職責デアアルガ故ニ、何共手ノ著ケヤウガナイト思フノデアリマス、一體此樞密院ノ官制ニ依ルト云フ十分ニ表決ニ加ハルコトモ出來ルノデアリマス、然ルニ今日マデ此重大ナル法案ヲ樞密院ニ握ラセテ置イタト云フコトハ、一體ドウ云フコトデアリマスカ、又樞密院ニ對スル鞭撻方法ハ、今後ドウ云フ御政策ニ依ルデアリマセウカ、其點ヲ一應御伺シテ置キマス

十三條ノ規定ニ基キマシテ政府ハ過般勅令ヲ以テ施行令ヲ御公布ニ相成、タノデアリマスルガ、如何ナル者ニ對シテ所謂不在者投票ヲ認ムルカト云フ事ニ付キマシテハ、同施行令ノ第二十六條ニ、船員又ハ船舶乗務ノ常況ニ在ル者、鐵道列車乗務中ノ者、演習又ハ教育ノ爲メ召集中ノ陸海軍々人、海上勤務中ノ艦船乗員タル軍屬、是等ノ人ニ對シテ不在投票ヲ認メテ居ルノデアリマスルガ、傳染病豫防法、又ハ海港檢疫法等ニ依テ、自由ヲ拘束セラレテ居ル者ニ對シテ此規定ノ適用ガ無カト云フコトハ、如何ナル譯デアリマスカ、御承知ノ通り傳染病豫防法、又ハ海港檢疫法等ニ依テ隔離ヲ致サレテ居ル人々ハ、私ノ用務デアリマセヌ、又病ニシテ意欲ヲ失、テ居ル者デモアリマセヌ、法律ニ依テ自由ヲ拘束セラレナイ以上ハ、健康ニシテ自ら投票所ニ到、テ投票スルコトノ出來ル人々デアリマス、唯、此法律ガアルガ爲ニ此法律ニ依テ自由ヲ拘束セラル、ガ爲ニ投票ガ出來ナイノデアリマス、況ヤ豫防法ノ規定スル所、消毒方法ヲ施行致シマスレバ、其投票ハ絕對ニ安全ニ行ハレルノデアリマス、而モ是等ノ法律ニ依テ自由ヲ拘束セラルル所ノ人々ハ、例ヘバ虎列刺ノ如キ場合ニ於キマシテハ、一市郡ニ於テ一時ニ數千人又ハ數萬人ノ人ガ隔離セラレルコトニ相成ルノデアリマス、是等ノ人々ニ對シテ此十三條ヲ適用セラレナカト云フコトハ、他人ノト比較ヲ致シマシテ甚ダ權衡ヲ失スルト考ヘルノデアリマス、是ハ或ハ當局ニ於テ、千慮ノ一失デアラカモ知レマセヌ、若シサウデナイトスルナラバ、如何ナル理由ニ依テ除外セラレタカト云フコトヲ明白ニ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

○國務大臣(若槻禮次郎君) 是ハ原君モ御承知ノ通り、樞密院ハ憲法上一ノ獨立シタル機關デアリマス、政府ノ監督ノ下ニ居ラナイノデアリマスノデ、樞密院ニ於ケル事務ノ處理ノ仕方ニ付テハ、政府ハ之ニ就テ責任ヲ負ヒマセヌト共ニ、又何トモ致方ガナイノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 土屋清三郎君

(土屋清三郎君登壇)

○土屋清三郎君 此ハ此機會ニ新選舉法第三十三條、即チ「選舉ノ當日自ら投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票」所謂不在投票ニ關スル特別規定ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、此三

○政府委員(俵孫一君) 此不在者ノ投票ニ付キマシテハ、如何ニ其範圍ヲ限定スルカト云フコトハ、是ハ極メテムツカシキ問題デアラトデアリマス、只今御話ノ傳染病豫防法並ニ船舶檢疫法ニ依テ隔離シタ者ハ、如何ニモ御説明ノ通りニ、是モ矢張不在投票

○政府委員(俵孫一君) 此不在者ノ投票ニ

付キマシテハ、如何ニ其範圍ヲ限定スルカト云フコトハ、是ハ極メテムツカシキ問題デアラトデアリマス、只今御話ノ傳染病豫防法並ニ船舶檢疫法ニ依テ隔離シタ者ハ、如何ニモ御説明ノ通りニ、是モ矢張不在投票

者ノ中ニ算ヘテ宜イト云フ御議論モ、是ハ決シテ私理由ナキコト、ハ考ヘマセヌ、併シ是ト同様ナ者ハ他ニ幾ラモアルノデアリマス、ソレ故ニドノ程度ニ止メルカト云フコトガ最モ困難デアリマシテ、御承知ノ通りニ不在投票ト云フコトハ今回ガ初メテデアリマス、初メテノ試ミデアリマスカラ澤山アリマス中ノ最モ緊切重要ナルモノヲ、先ヅ以テ此不在者投票ノ勅令ノ中ニ規定シテデアリマス、其他ノ者ニ付キマシテハ、實地施行ノ曉ニ於キマシテ、更ニ必要ニ應ジテソレト、是ガ救済ヲ致ス積リデアルノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、日程第十四、右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 各案ヲ一括シテ議長指名特二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十五、暴力行為等處罰ニ關スル法律案ノ一讀會ヲ開キマス——江木司法大臣

第十五 暴力行為等處罰ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

暴力行為等處罰ニ關スル法律案

第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ用シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ用シ、兇器ヲ用シ又ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ掲ケタル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條 財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行為ヲ

爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行為ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條 第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十一條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役ノ行為ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

(國務大臣江木翼君登壇)

○國務大臣(江木翼君) 近時團體ノ威力等ヲ用キテ暴行、脅迫、器物ノ毀棄、又ハ面會強請、強談、威迫等ノ罪ヲ犯シ、或ハ兇器ヲ携ヘ、或ハ常習トシテ此種ノ犯行ヲ爲ス者ガアリマス、又不逞ノ徒輩ヲ利用シテ良民ニ迫害ヲ加フル者モ洵ニ少ナクナイノデゴザイマス、而シテ彼等不逞ノ徒ハ現在ノ法律ノ刑ノ輕キニ慣レテ、法ヲ蔑視スルノ風ガアルノミナラズ、被害者ハ時トシテハ後難ヲ恐レマシテ、告訴ヲシナイト云フ場合モアルノデアリマシテ、親告罪ナル暴行毀棄ノ罪ニ至ラズ、訴追ヲ免レルノ例ガ甚ダ多イノデゴザイマス、又彼等ヲ利用スル者ニ對シマシテハ法ノ不備ナルガ爲ニ、之ヲ取締ルコト能ハザル場合モ又少ナクナイノデアリマス、仍テ新ニ茲ニ法ヲ設ケマシテ、是等ノ所爲ヲ嚴重ニ取締ルノ必要ヲ

認メタノデゴザイマス、即チ本案ヲ提出致シマシタ所以デゴザイマスルノデ、何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、是ヨリ順次之ヲ許可致シマス——山口政二君

(山口政二君登壇)

○山口政二君 只今議題トナッテ居リマスル暴力行為等處罰ニ關スル法律案ニ付キマシテ、極メテ簡單ナル質疑ヲ致シマス、第一ハ本案ニ謂フ所ノ威力ヲ用ス團體意義並ニ其範圍ヲ御伺致シタイノデアリマス、威力ヲ用ス團體ト申シマスルノハ、威力ヲ用スコトヲ表面若クハ裏面ノ目的ト致シタル團體ノ意義デアアルカ、又ハ威力ヲ用スコトヲ目的ト遂行ノ手段ト致ス團體ノ意義デアリマスカ、ソレトモ亦目的ノ手段共ニ正當デアアルカ、或ハ外部ヨリ挑發セラレトカ、或ハ生活上ノ最小限度ノ要求ヲ貫徹致シマスルガ爲ニ、已ムヲ得ズ威力ヲ行フヤウナ團體ヲモ本案ニ所謂威力ヲ用ス團體ト御認メニナルカ否カ、此威力ヲ用ス團體ト云フ言葉ノ意義並ニ範圍ヲ明ニ致シマスルト云フコトハ、此法案ノ運用上極メテ必要ナル事デアルト考ヘマスガ故ニ、先ヅ此點ヲ御尋致スノデゴザイマス、尙ホ之ニ關聯致シマシテ、政府ハ此提案ヲ致スニ力ヲ、勞働運動トカ、小作運動、水平運動ト云フヤウナ正シイ目的ヲ持ツタ所ノ多衆運動ヲモ、此法案ニ依ッテ取締ラントスル意思ヲ以テ致サレタルモノデアアルカ否カト云フコトヲモ併セテ御伺致シタイノデアリマス、第二ハ提案ノ趣旨デゴザイマス、只今ノ御說明ニ依リマスルト、我國現在ノ事情ニ鑑ミテ、是等不逞ノ徒ハ相當重キ處罰ヲスル必要ガアルト云フコトデゴザイマシタ、ソコデ私ガ御伺致シマスルノハ、今日ノ事情ニ於キマシテ政府ノ所謂不逞ノ徒、此言葉ハ私ハ感服致サヌト思ヒマスガ、ソレハ別問題ト致シテ、所謂威力ヲ用ス團體ノ跋扈跳梁ノ現狀ヲ大體御伺致シタイ、又是等ノ者ニ對

シテ現行ノ處罰法令ヲ以テ致シテハ、何故ニ之ヲ取締ルコトガ出來ナイノデアアルカト云フコトモ御尋致シタイノデアリマス、尙ホ政府ハ相當重キ處罰スル必要ガアルト云フコトデアリマスガ、之ヲ此法案ニ依ッテ重ク處罰ヲ致サル、ナラバ、是等ノ團體ヲ勸滅スルト云フ信念ヲ御持ツニナッテ居ルカ否カ、又ハ勸滅スル覺悟ヲ以テ此法案ヲ御出シニナッテ居ルカ否カノ政府ノ信念ヲ御伺致シタイノデアリマス、第三ト致シマシテ、此法案ニ謂フ威力ヲ用ス團體ノ發生原因ニ付テ御尋致シタイ、神聖ナル我が議會ノ議場ニ於キマシテモ、動モスレバ暴力ノ行ハレント致シマスル我國ノ現狀ニ於テ、是等ノ法案ヲ提出スルニ力アリマシテハ、暴力ノ行ハレル原因ヲ十分ニ政府ハ考察セラレテ居ルト考ヘルノデアリマスガ、果シテ能ク御考ノ上デ提案サレタルカ否カヲ御尋致シタイノデアリマス、例ヘバ我國ノ教育ノ現狀、教育ノ内容ト其制度ガ果シテ是等暴力ノ横行ト關係ガアルカナイカドウカ、或ハ又今日ノ思想ノ惡化、殊ニ現代社會ノ病根デアリマスル生活難ノ問題ト、是等暴力行為トガ無關係デアアルカドウカ十分ニ政府ハ考察セラレテ居ラレカドウカ、若シ是等ノ原因ヲ十分ニ考察サレテ居ラレマスルナラバ、其原因ヲ除去スルコトニ付テ、如何ナル用意ヲ爲シテ居ラレマスルカ、若クハ將來如何ナル對策ヲ此法案ト併セテ講ゼラレルノデアリマスルカ、其點ヲ併セテ御伺致シタイノデアリマス、以上三點ニ互リマシテ政府ノ御答辯ヲ求ムル次第デアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 江木司法大臣(國務大臣江木翼君登壇)

○國務大臣(江木翼君) 山口君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマスルガ、第一ニ威力ヲ用ス團體ノ意義並ニ範圍如何、此威力ヲ用ス目的ヲ以テ、而シテ其目的タルヤ、暴力の威力ヲ施ス目的ヲ以テ生レテ居ル團體ト云フモノガ現存シテ居ルコトハナカラウト思フノデアリマス、茲ニ團體ト申シマスルノ

シテ現行ノ處罰法令ヲ以テ致シテハ、何故ニ之ヲ取締ルコトガ出來ナイノデアアルカト云フコトモ御尋致シタイノデアリマス、尙ホ政府ハ相當重キ處罰スル必要ガアルト云フコトデアリマスガ、之ヲ此法案ニ依ッテ重ク處罰ヲ致サル、ナラバ、是等ノ團體ヲ勸滅スルト云フ信念ヲ御持ツニナッテ居ルカ否カ、又ハ勸滅スル覺悟ヲ以テ此法案ヲ御出シニナッテ居ルカ否カノ政府ノ信念ヲ御伺致シタイノデアリマス、第三ト致シマシテ、此法案ニ謂フ威力ヲ用ス團體ノ發生原因ニ付テ御尋致シタイ、神聖ナル我が議會ノ議場ニ於キマシテモ、動モスレバ暴力ノ行ハレント致シマスル我國ノ現狀ニ於テ、是等ノ法案ヲ提出スルニ力アリマシテハ、暴力ノ行ハレル原因ヲ十分ニ政府ハ考察セラレテ居ルト考ヘルノデアリマスガ、果シテ能ク御考ノ上デ提案サレタルカ否カヲ御尋致シタイノデアリマス、例ヘバ我國ノ教育ノ現狀、教育ノ内容ト其制度ガ果シテ是等暴力ノ横行ト關係ガアルカナイカドウカ、或ハ又今日ノ思想ノ惡化、殊ニ現代社會ノ病根デアリマスル生活難ノ問題ト、是等暴力行為トガ無關係デアアルカドウカ十分ニ政府ハ考察セラレテ居ラレカドウカ、若シ是等ノ原因ヲ十分ニ考察サレテ居ラレマスルナラバ、其原因ヲ除去スルコトニ付テ、如何ナル用意ヲ爲シテ居ラレマスルカ、若クハ將來如何ナル對策ヲ此法案ト併セテ講ゼラレルノデアリマスルカ、其點ヲ併セテ御伺致シタイノデアリマス、以上三點ニ互リマシテ政府ノ御答辯ヲ求ムル次第デアリマス

ハ、多衆ガ協同シテ一ツノ集合體ヲ爲シテ居リマスル以上ハ、是ハ總テ團體ト見ザルヲ得ヌノデアリマス、而シテ其團體ガ其團體ノカヲ示シテ、サウシテ茲ニ擧ゲテアルヤウナ刑法ノ犯罪行爲ヲ爲スコトニ於テ、始メテ所謂威力團體ノ暴行行爲ナルモノガ成立スルノデゴザイマス、隨ヒマシテ如何ナル團體ガ此法律ノ範圍ニ入りマスルカト云フコトヲ豫メ豫斷スルト云フコトハ、一寸ムヅカシイト思フノデアリマス、併ナガラ今日現ニ存シテ居リマスル團體ノ中ニ、斯ノ如キ常習ナル團體ト云フモノガ、多少見ラレナイデハナイノデアリマス、常ニ其團體ノ背景ヲハ、自分ノ暴行其他皆追等ノ用ニ供シテ、團體ノ背景ヲ以テ暴行脅迫ヲ爲スコトヲ、其團員ガ常習トシテ居ルガ如キ團體ガ、都下若クハ京都府、大阪府等ニ相當アリマスルコトハ、見出サレ得ルト思フノデアリマス、其數ガドノ位ニナルカト云フガ如キコトハ、又委員會等ニ於キマシテ詳シク申上ゲタイト思フノデアリマス、ソレカラ勞働ナリ、小作ナリ、其他水平運動ナドヲ、此法律ニ依リテ取締ル意思ガアルカドウカ、是ハ全クサウ云フ意思ヲ持テ居ラヌノデアリマス、此法律ハ御覽ノ通りニ威力ヲ示シテ、刑法二百八條、即チ暴行或ハ器物毀棄デアルトカ、或ハ公務ノ執行妨害デアルトカ云フガ如キ行爲ヲ爲ス者ヲ取締リ、或ハ財産上不正ノ利益ヲ得、若クハ得シムル目的ヲ以テ是等ノ行爲ヲ爲シ、面會ヲ強要スル、強談威迫ヲ爲スト云フガ如キ行爲ヲ取締ラントスルモノデアリマスルガ故ニ、此法律ノ目的トシテ、勞働運動デアルトカ、或ハ小作運動デアルトカ若クハ水平運動デアルトカ云フガ如キモノヲ取締ルト云フ目的ハ、毛頭持テ居ラヌノデアリマス、ソレカラ提案ノ趣旨トシテ、如何ナル現狀ニ在ルカト云フ點ハ、只今ザト申上ゲマシタガ、尙ホ詳シキ事ハ、各府縣ニ互リマスル統計等ガ出來テ居リマスカラ、相成ベクハ委員會ニ於テ説明スルコトニ御許シテ得タイト思フノデアリマス、唯、此法律ガアルナラバ、直ニ之ヲ以テ絶滅

ヲ期シ得ルト思フカト云フヤウナ御意ガアツタノデアリマスルガ、現在暴行ニ致シマシテモ、其程度ガ傷害ニ至ラザルモノ、或ハ器物ノ毀棄ト云フガ如キモノハ、親告罪ニナツテ居ルノデアリマス、暴行ニシテ負傷一ノ殺傷ニ及ブモノハ、固ヨリ是ハ親告ヲ須キマセヌノデアリマスケレドモ、程度ノ輕キモノニ依リマシテハ、親告罪ニナツテ居ル、器物毀棄亦然リ、斯ノ如キ場合ニ於キマシテ、親告ト云フコトガ概シテ少ナイノデアリマス、又此少ナイノ好機ト致シマシテ、隨分犯罪ノ行ハレマスル事情ト云フモノハ、必ズヤ山口君ニ於テモ御認メ下サルコト、思フノデアリマス、即チ刑法ノ親告罪ニシテ居ル部分、及此刑法ノ刑ハ輕キニ失スルコト云フ點ト云フガ如キモノニ對シマシテハ、相當ノ此情狀ノ重キモノニ對シテハ、即チ其手段トシテ威力ヲ用ス、兇器ヲ用ス、或ハ數人協同シテヤルト云フガ如キ性質ノモノニ對シマシテハ、刑法ノ罪ヨリモ刑ヲ重クスルコト云フ手段ヲ以テ之ヲ律スルコト云フコトガ、此行爲ヲ稍、少ナクスルコトニ於テ大ニ效果ガアルモノト認ムルノデアリマス、固ヨリ之ヲ施行シテ見マセヌケレバ、是ガ絶滅サル、モノデアラカドウカト云フコトハ、今ヨリ豫斷ハ出來マセヌノデアリマスルガ、此簡單ナル法律デアハゴザイマスルガ、是ガ出來マスルニ於キマシテハ、非常ニ效果ガアルモノデアラウト認ムルノデアリマス、ソレカラ第三三、發生ノ原因、此發生ノ原因モ、只今申上ゲマシタ如ク、或ハ現行刑法ノ罪ノ輕キ點、親告罪デナイ點其他各種ノ理由ニ依リマシテ、斯ノ如キ犯罪ガ頻發スルコト云フコトモ一ツノ原因デゴザイマセウガ、同時ニ御述ベノ如ク所謂生活ノ脅威ト云フモノモ、固ヨリ一般の原因ヲ爲シテ居ルモノデアラウカト認ムルノデアリマス、之ニ對シマシテハ、全體ニ所謂社會政策ト云フモノヲ徹底的ニ行フト云フコトガ、最モ總テノ犯罪ニ對シマシテ之ヲ少ナカラシムル所デアラウト思フノデアリマスルガ、是ハ此會期中屢々各方面ヨリモ説明サレテ居ルノデゴザイマシ

テ、大體山口君ニ於テモ御想像デモアリマスルシ、御諒解ニモナツテ居ルコト、思フノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 篠原和市長君(篠原和市長君登壇)

○篠原和市長君 只今司法大臣江木君ノ御答辯ヲ伺ヒマシタガ、徹底シナイ點ガアリマスカラ、一二伺ヒタイノデアル、先ヅ第一ニ、此本法ニ定メタル暴力行爲ト云フコトハ、ドウ云フコトヲ暴力行爲ト定メテ居ルノデアルカ、此意義ト性質、範圍内容、ドレダケノ高サト、ドレダケノ深サノモノガ暴力行爲デアルカ、此點ヲ先ヅ以テ明確ニシテ置クナケレバナラナイ、其次ニハ、小作爭議及水手社ノ問題ニ付テハ、本法ニハ觸レナイ、斯ウ云フ江木君ノ御答辯デアリマスル、シテ見マスルト、大體ニ於テ暴力ヲ振ハレル者ハ、吾々人類社會ノ生活ニ於テ、最モ個人主義ノ人間カ、或ハ手取早ク申シマス、手癖ノ惡イ人間カ、此共存共榮ノ社會生活ヲ害スル、斯ウ云フヤウナ者ガ偶、暴力ニ觸レルヤウニ思フテ居ル、シテ見マスルト、暴力モ場合ニ依リテハ、正義ノ一部ノ發露デアルト思ヒマスルカラ、獎勵ヲスル譯デアアリマセヌガ、必シモ暴力ヲ全然阻止スル必要ハ無カラウト思ヒマス、ト申シマスルノハ、法律的ニ言フノデアリマシテ、現ニ刑法ニ於テ澤山デアアル、本法ノ規定ニ依リマスルト、刑法二百八條、二百二十二條、二百六十一條、是等ヲ綜合シタ其上ニ持テ行テ、三箇年ニシヨウト云フノデアルガ、一箇年モ牢ハ打込メバ澤山デアアル、此點ニ關シテ政府ハ何故ニ三箇年ニシタカ、此點ヲ伺ヒタイノデアアル、モウ一ツハ、暴力ハ現行刑法ニ依リマスルト云フト、此暴行ヲ受ケマシテモ親告罪デアアル、早イ話ガ一ツ殴ラレテモ黙テ引込シテ居ル、隨テ此件數ハ極メテ少イ、斯ウ云フ大臣ノ答辯デアリマスルガ、殴ラレテ引込シテ居ル位ノ奴ハ、結局自己ノ良心ニ反省シテ惡カッタト、斯ウ云フ風ニ思フテ居ルノデアリマス、是等ノ點ヲ特ニ伺ヒタイノデアリマス、先ヅ此點ヲ伺テ、ソレカラ順

ニ伺ヒマス(拍手)

(國務大臣江木君登壇)

○國務大臣(江木君) 篠原君ノ御尋デゴザイマスル暴力行爲トハ何ゾヤ、此法律ノ案文ハ御覽ニナツタコト、思ヒマスガ、第一條カラ第三條マデノ中ニ、暴力行爲ト云フ文字ハ使テ居ラヌノデアリマス、暴力行爲ト此處ニ標題ニ掲ゲマシタノハ、威力ヲ示シ、兇器ヲ用シ、數人共同シテ、サウシテ二百八條ノ暴行デアリマスルカ、或ハ器物ヲ毀棄スルト云フガ如キ行爲ヲ爲スノヲ稱シテ暴力行爲ト申シタ譯ナノデアリマスカラ、左様ニ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ第二、暴力ハ時トシテハ獎勵ヲシテモ宜イデハナイカト云フヤウナ意味合ノ御言葉デアリマシタガ、司法當局ニ於キマシテハ、如何ナル場合ニ於キマシテモ、暴力行爲ハ斷ジテ獎勵スベキモノデナイト認メルノデアリマス、唯、本案ニ示シタルガ如キ、多數ヲ持ンデヤル、或ハ團體ノ威力ニ依リテヤル、或ハ兇器ヲ用シテヤルガ如キ暴行行爲ナルモノハ、目的ガ達シ易ク、且ツ其暴行ノ效果モ舉リ易イモノデアリマスルガ故ニ、隨ヒマシテ普通刑法ニ定メテ居リマスル刑デハ、其懲罰的若クハ豫防的ノ效果ヲ達シナイト認メマシテ、刑ヲ高クシタ所以ノデアリマス、ソレデ御諒承ヲ願ヒマス

(篠原和市長君登壇)

○篠原和市長君 本員ハ暴力獎勵トハ申シマセヌ、其意味ハ法律的ニ、現行刑法デアリマスレバ、一箇年デ宜シイモノヲ、之ヲ三年ニスル必要ガ何所ニアルカ、斯ウ言フタノデアリマスカラ、大臣ハ御聽違ヒニナツタノダラウト思フ、元來此制裁法デモサウデアリマスルガ、三段論法ノ法律一點張テ社會ノ事ガ總テ解決スルコト云フ考ヲ政府ハ持テ居ルカ、持テ居ナイカ、先ヅ此點ヲ伺ヒタイノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ(答辯シナイカ)ト呼フ者アリ) 日程第十六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ政府提出勞働爭議調停法案外二件ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認ママス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

程第十七、大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコリック」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案ノ第一議會ヲ開キマス

矢吹政府委員

第十七 大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコリック」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案(政府提出)

第一條 大正十一年法律第三十九號第一條ノ規定ニ該當シタル帝國臣民ニシテ大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコリック」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ニ對シテハ本法ニ依リ更ニ救恤金ヲ交付ス

第二條 前條救恤金ノ總額ハ百万圓以內トス

第三條 救恤金ハ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ二十五圓未満ノ金額ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第五條 救恤金ノ交付ハ之ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ救恤審査會ノ審査ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

救恤審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前條第一項ノ申請ハ大正十五年七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○政府委員(男爵矢吹省三君) 御承知ノ通り大正九年ノ尼港事變ハ、本邦官民ガ多數虐殺サレマシタ未嘗有ノ悲惨事デアリマス、尙ホ其後引續キマシテ「オコリック」方面ニ於ケル本邦人ノ漁場モ亦燒拂ハレ、慘澹タル光景ヲ呈シタデアリマス、本件ノ解決ニ付キマシテハ、露國政府トノ間ニ交渉ヲ致シマシテ、昨年一月北京ニ於テ協定セラレタモノガアルデアリマス、併ナガラ其以上ニ右被害者ノ爲ニ賠償ヲ得ルコトハ、列國トノ關係上、差當リ不可能ノ事ト認メタノデアリマス(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(男爵矢吹省三君) 然ル所是等被害者ハ、先ニ大正十一年法律第三十九號ニ依リ、既ニ一度政府ヨリ救恤ヲ受ケマシタガ、其窮狀ハ今尚ホ甚シイモノガアルノデアリマス、而シテ政府ニ對シテ何等カノ方法ニ依リテ救濟ヲ得タキ旨ヲ請願シ來ル者ガ多數アル狀況デアリマス、他方本院ニ於キマシテモ、本件被害者ニ對シテハ、政府ニ於テ更ニ救濟ノ方法ヲ講ゼンコトノ希望ガ屢、表明セラレタノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ、本件事變ノ特殊ノ性質ニ鑑ミ、今回限リ特例ト致シマシテ、本件被害者ニ對シテハ、大正十一年度ニ於ケル救恤ノ外ニ更ニ救恤ヲ爲シ、其窮狀ヲ幾分ナリトモ緩和救濟スルコトニ決シタ次第デアリマシテ、而シテ救恤金ノ總額ハ、財政上其他諸般ノ事情ニ依リ、百万圓以內ト致シマシタ、救恤審査會ヲ設ケ、詳細嚴密ナル調査ヲ遂ゲ、各個ノ場合ニ付救恤スベキ程度ヲ定ムル答デアリマス、以上ノ趣旨ニ依リ本法ヲ提出致シマシタニ付テハ、御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレ

○副議長(小泉又次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、中村嘉壽君

○中村嘉壽君 只今政府ガ御提出ニナリマシタ大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコリック」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案デゴザイマスルガ、便宜ノ爲メ私ハ先ツ此「オコリック」事件ニ關シマシテ政府ニ質問ヲ試ミタイト思フノデゴザイマス、此事件ハ大正十年ノ議會ニ於キマシテモ、政府ト議員トノ間ニ屢、質問應答ガ重ネラレマシテ、「オコリック」事變ハ正ニ我ガ日本ノ漁業家ノ失態ニアラズシテ、非ハ露國ニ在リト云フコトガ極メテ明瞭ニナラテ居ルノデゴザイマス、此事ハ既ニ政府當局者モ其當時ノ議會ニ於キマシテ言明サレタコトデゴザイマスルガ、其後政府ハ此二ツノ事件ヲ連ネテ西伯利ニ於ケル事變ノ爲ニト云フノデ、百五十萬圓ノ救恤金ヲ御出シニナシテ居ルノデゴザイマスルケレドモ、其後民間ノ被害者ハ此金デ以テ満足スルコトガ出來ズ致シマシテ、屢、政府ニ陳情請願ヲ致シタヤウナ次第デゴザイマス、是ガ今日迄ニマダ不問ニ付セラレ居リマシタコトハ、私共極メテ遺憾ニ存ジテ居リマシタ第デゴザイマスルガ、此際ガ提案サレタルタコトハ、少クとも國民ガ聊カ満足ヲ表スル所デゴザイマスルガ、私共此問題ニ付テ尠カラザル關係ヲ持テ居リマシタル者ハ、マダ之ニ満足スルコトガ出來ナイコトハ先ヅ此所ニ申上ゲテ見タイト思フノデゴザイマス、只今政府委員ノ御説明ニ依リマスルト、之ヲ以テ恰モ御打切ニナルカノ如キ御口吻デゴザイマシタガ、果シテ之ヲ御打切ニナル積リデアアルカト云フコトヲ、先ヅ御伺シテ置キタイノデゴザイマス、之ヲ以テ御打切ニナルト云フコトニナリマスルト、國民ハ尠カラズ失望ヲ致スノデゴザイマス、ソレカラ此事件ハ御承知ノ通り大正九年七月五日ニ我ガ日本ノ軍艦疾風カラ報告ガゴザイマシテ、日露漁業會社ト云フノガ漁區十四區、之ニ對シテ約四百七十七萬圓ノ損害ヲ受ケテ居リマス、ソレカラ其外二十名ノ個人漁業者ガ、十二箇所ノ漁區ヲ持テ居リマシテ、之ヲ燒拂ハレタガ爲ニ、約三百

十五萬圓ノ損害ヲ受ケテ居ルノデアリマス、ソレニ對シマシテ政府ガ之ニ救恤ヲ與ヘタ所ノモノハ、尼港事件ト合セマシテ百五十萬圓ノ内ノ極メテ微々タル少額ニ過ギナイノデゴザイマス、其爲ニ之ニ關係シテ居リマシタル所ノ實業家十名ノ内、二人ハ既ニ失業致シマシテ人ノ雇人ニナリ、三名ハ全ク權利ヲ失ヒテシマヒ、五名ハ辛ウジテ漁業ヲ繼續シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスルガ、斯ウ云フヤウナ事ヲ今日マデ不問ニ致シテアッタノデゴザイマスルカラ、何卒十分ノ御研究ヲ御願ヒ致シタイト思フノデゴザイマス、此事件ニ對シマシテ其當時此浦潮日露共同調査委員會ニ於キマシテモ、浦潮ノ政府ハ甚ダ遺憾デアッタ意味ヲ表明シテ居リマスルシ、我國ニ於キマシテハ之ニ對シテ七百萬圓ノ損害賠償ヲ要求シテ居ッタノデゴザイマスル、ソレニ對シマシテ露國ノ政府ハ二百萬圓マデハ損害ヲ受ケタノデアラウト云フコトヲ認メテ居ッタノデゴザイマスルガ、其事件ガ暫ク其儘ニ放任サレテ居ッタノデゴザイマス、ソレデ私ハ此事ニ關係カシテ、露國ノ政府ハ全ク是ハ内政ノ關係カラ起テ來タ所ノ問題デアリト云フコトヲ、我國ノ軍艦千早ニ報告ヲシテ居リマス、ソレカラ又九月二十六日、閣議ノ決定ニ基キマシテ、大正十年ノ春ニ露國ヲ要求シマシテ、只今申上ゲマシタ七百萬圓ト主張シテ居ッタ事實ガアリ、且又租借料ヲバ免除スル期間ヲバ設ケルコト云フコトヲ申出テ居ッタノデゴザイマスルガ、此事實ハ果シテアッタノデアアルカ、若シ是ガアッタモノデアルトスルナラバ、今日迄不問ニ付スルコトナクシテ、今少シ立派ナ交渉ガ出來タノデハナイカト云フコトヲ私ハ感ジテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ同時ニ此事件ニ關シマシテ、借區料約百六十萬圓ト云フ金ガ當時日本ノ政府ニ依テ特殊ノ銀行ニ供託ヲシテアッタノデゴザイマス、此百六十萬圓ノ金ハ是ガ損害ヲ被ッタ所ノ人達ニ補償スル意味ヲモ含シテ供託シテアッタノモノ拘ラズ、大正十三年四月マダ日露ノ間ノ國交ガ

八七一

官報號外 大正十五年三月十九日

衆議院議事速記第三十二號 議事日程第十七、件

開クナイ以前ニ當リマシテ、政府ハ之ヲ無條件ニ返シタ事實ガアルノデゴザイマス、此事實ニ對シマシテ抄カラス實業家ハ失望ヲシテ居ルノデゴザイマス、之ヲ返シタ理由ハ果シテ那邊ニ在ルノカ、政府ノ御辯明ガ欲シイノデゴザイマス、ソレカラ此事件ハ全ク「ボーツマウス」條約ノ利權關係ト別デアリ、又尼港事件トモ全ク別種ノ問題デアルト云フコトハ、内外ノ人共ニ之ヲ認メル所デアリニモ拘ラズ、相對的ニ對露關係ヲ解決スルコト云フ爲ニ、此百六十万圓ヲ犧牲ニシテ、詰リ漁業家ノ犧牲ニシタト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ存ズルノデゴザイマス、是ハ果シテ何ノ爲ニ斯ノ如ク漁業家ヲ相對的ノ犧牲ニ爲シタノデアラカト云フコトヲ御伺シタイノデゴザイマス、當時此事變ニ依リマシテ百五十萬圓ノ金ヲ交付シタノデゴザイマス、先程申上ゲマシタヤウニ、漁業家ニ分配シタ所ノ金ガ極メテ不公平デアリヤウニ吾々ハ思フ、居ルノデゴザイマス、又其當時某會社ニ對シマシテハ、朝鮮銀行ヲ經マシテ約千三百萬圓ノ融通ヲ致シマシタニモ拘ラズ、十人ノ漁業家デ、而モ某個人ト殆ド同額ノ損失ヲ受ケタ、是等憐レナル個人ニ對シマシテハ、殆ド比較ニナラナイ程度ノ融通シカ與ヘテ居ラナイ、僅ニ此百六十万圓ノ金ヲ見返リニ致シマシテ、日露漁業會社ヲ經テ十萬圓ノ融通ヲ計シタニ過ギナイノデゴザイマス、斯ウ云フヤウナ不公平ガアツト云フコトヲ吾々ハ考ヘテ居リマス、果シテ斯ノ如キ不公平ハ何ガ爲ニ爲サレタノデアラカト云フコトヲ伺ヒタイト思フノデゴザイマス、ソレカラ前ニモ申上ゲマシタガ、尼港事件ト此「オコーツク」事件トハ、全然別途ノ性質ノモノデアリニモ拘ラズ、之ヲ一緒クシテアルト云フコトガ甚ダ吾々ハ感ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、何ガ爲ニ一緒クシテアルト云フコトアルカト云フコトヲ御伺シタイ、更ニ此問題ニ付キマシテハ、政府ハ今後何等御交渉ヲ爲サル御考ハナイノカ、只今莫斯科ニ於キマシテ漁業條約ノ交渉中デゴザイマス

ガ、此會議ニ於テハ何等ノ御交渉モナイノデゴザイマス、カドウカト云フコトヲ御伺シタイ、是ダケガ此「オコーツク」問題ニ付テハ、私ノ質問デゴザイマス、其次ニハ尼港事件ニ付テ御伺致シタイノデゴザイマス、大正九年ノ七月三日ニ現外務大臣幣原氏ハ、當時華盛頓ニ於キマシテ各國ニ聲明シテ、斯ノ如キ不祥事件ガ起リタコトハ、殆ド前後ニ例ヲ見ルコトガ出来ナイヤウナ事件デアリ、極メテ殘虐ナル事件デアリ、此爲ニ日本帝國ハ相當ナル力ヲ盡サナケレバナラス、又此問題ノ解決ヲスル爲ニ、北陸哈連ヲ占領スルコトヲ云フコトヲ言ハレタノデアリマス、而シテ長イ間此北陸哈連ヲ占領ヲシテ居ラレマシタガ、其後色ニナ交渉ガゴザイマシテ、遂ニ日露間ノ問題モ解決ガ出来ルコトニナリマシテ、陸軍ハ撤兵ヲシ、利權會議ガゴザイマシテ利權ヲ獲得ヲシタノデゴザイマス、其當時露國ハ日本ニ對シテ色ニ難題ヲ持チ掛ケ、何等補償ノ途ヲ講ズベキ義務ガナイ、相互ノ戰爭行爲デアッタノデアラカラ、之ニ對シテ謝罪ヲスル必要モナイト云フヤウナ譯デアッタノデアリマス、此間ノ日露交渉ニ依リマシテ獲得シタ所ノ利權ト云フモノハ、是ハ果シテ日本ノ政府ハ賠償ノ意味ヲ獲得セラレタノデアラカ、ドウカト云フコトヲ御伺致シタイト思フノデゴザイマス、此事件ニ必ズ因果關係ガアツタモノト思ヒマス、此因果關係ガアルトスラバ、果シテ日本政府ガ得マシタ所ノ利權ハ之ヲ價格ニ見積リマシテ如何程ノモノデアラカ、此價格ノ大小ニ依リマシテ、其當時危害ヲ被シタ所ノ我が日本帝國ノ臣民ニ對シテハ、今後尙ホ何等カノ慰安ヲ爲サルコトガアルカドウカト云フコトヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、當時加藤子爵ハ第四十六議會ニ於キマシテ、北陸哈連ヲ占領シテ居ルコトハ甚ダ非デアルト云フヤウナ御説デゴザイマシタガ、此説ノ可否ハ別ト致シマシテ、加藤子爵デスラモ當時我日本ノ國民ガ斯ノ如キ危害ヲ受ケタニ付テハ、道義上ノ補償並ニ遺族ニ對スル精神的或ハ物質的ノ補償ヲ得ルト云フコトハ

認メテ居ラレタカノ如ク思フノデゴザイマス、隨テ現内閣ノ諸氏ハ加藤子ノ政策ヲ承繼イデ居ラレルノデゴザイマス、之ニ補償ヲスルコトヲ御考ハ十分ニ持テ居ラレルデアラウト思フノデゴザイマス、然ルニ只今ノ此二ツノ案ニ依リマシテ、前ノ補償ト今度ノ補償ニ依リマシテモ、其一人當リノ分配ハ極メテ少イモノデアリマス、前ノ救恤法ニ依リマシテ、一人當リ僅ニ一千圓宛デアリ、今度ノ金ハ尙ホソレヨリモ少ク、僅ニ二百萬圓ヲ是ダケノ人間ニ分配スルノデゴザイマス、即チ被害者ガ七百二十人ゴザイマシテ、此中軍人三百七十人、ソレカラ在留民ガ三百七十名、行方不明七八十名、斯ウ云フヤウナ達ニ對シテ、命チ一ツヲ捨テ、僅ニ千圓宛ノ補償デアリ、今度合セテ五六百萬圓カ幾ラカノ救恤金シカ出来ナイヤウナ始末デゴザイマス、之ヲ以テ此澤山ノ遺族ヲ養フノニ、勿論何等ノ助ケニモナラナイヤウニモ思ハレノデアリマス、斯ウ云フヤウナ僅カノ金ヲ以テ、其儘拾遺カレルト云フコトハ、吾々國民ニ對シテ少カラザル失望ヲ感ゼシムルモノデゴザイマス、是ハ其儘、御打切ニナルノデアラカ、ドウカト云フコトヲ、私ハ茲ニ御伺シテ、若シ御打切ニナラナイノデアラナラバ、ソレハ結構デゴザイマス、是ハ決シテ輕々ニ附セラレテハナラナイコトデアリ、之ヲ輕々ニ附セラレルト云フコトニナルト、其累ノ及ブ所極メテ大ナルモノガアリハシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、何レ又委員會ニ於キマシテ細カイ事ハ質問ヲ致シ機會ガゴザイマセウガ、十分ニ此點ヲ御辯明下サレシコトヲ御願ヒ致シマス(拍手)

〔政府委員男爵矢吹省三君登壇〕

○政府委員(男爵矢吹省三君) 中村君ノ御質問ノ第一點「オコーツク」方面ノ被害地ニ對スル救恤モ、之ヲ以テ打切トスル考デアラカドウカト云フコトデアリマシタガ、實ハ今回提出致シテ居リマス救恤ノ百萬圓ト云フモノハ、全ク尼港事件並ニ「オコーツク」ニ於ケル被害事件ノ特殊ナル事情ニ鑑ミマシテ、考慮シタノデアリマシテ、他ニ之ヲ以テ例ト致スベキモノト思ハナイノデアリマス、全ク特殊ノ性質ノ事件ト是ハ見マシテ、更ニ今回一度救恤ヲ致サウト云フ考ニナラナイデアリマス、隨テ斯ル事ヲ再三繰返ス考ハナイノデアリマシテ、之ヲ以テ打切ト致ス考デアリマス、次ニ御質問ノ第二點ノ過去ニ於テ露國ノ官憲ト日本トノ間ニ「オコーツク」方面ニ於ケル被害約七百萬圓ノモノニ對シテ、露西亞ノ方デハ二百萬圓位ナラバ、ト云フヤウナコトヲ言フタト云フ御質問デアリマシタ、此事ハ地方的ニハサウ云フ話ガアツタカモ知レマセヌ、併シ露國ノ政府ト日本ノ政府トノ間ニ、斯ル交渉ヲ致シタコトハ勿論ナイノデアリマシテ、昨年基本協約ヲスル際ニモ、金錢上ノ賠償ノ如キハ雙方共後日ニ讓ルトシテ決定致シマセヌデアリマシタ、隨テ公式ノ會議等ニ於テ、斯ル事ヲ露國ノ方カラ申シタコトハナイノデアリマス、ソレ故ニ假ニ中村君ノ御耳ニ左様ナ事ヲ達シテ居、タト致シマシテモ、露國ノ政府ノ言明トシテ御取上ゲ下サル價值ノアルモノトハ思ヒマセヌ、ソレカラ御質問ノ第三點ト心得マセヌ、自由出漁者ガ任意ニ漁區ノ使用料トシテ供託シタ金ヲ、其儘露西亞ニ納レテ、而シテ其際ニ於テハ「オコーツク」方面ノ被害者ニ對スルコトヲ、其百六十万圓ノ内ニ於テ何等カノ處置ヲ執ルト云フ最初カラノ諒解デアツタニモ拘ラズ、政府ハソレヲ其儘露西亞ノ方ニ返シタノハ何故デアラカト云フ御質問デアリマシタガ、實ハ百六十万圓ノ金ハ、任意ニ日本ノ漁業者ガ露西亞ノ漁場ニ參リマシテ、漁業ヲ致シマシタトキニ、後

日露西亞ノ方ニ借居料、漁場ノ使用料ヲ拂ハナケレバナラヌ時ガ來ルト云フコトヲ豫想シマシテ、其時ノ準備ノ爲ニ積立テ、アッタノデアリマス、而シテ其後露西亞トノ間ノ交渉ニ於テ、漁場ヲ使用スルコトノ交渉ヲ致シマシタトキニ、此從來留メテアリマシタ百六十万圓ノ使用料ヲ拂ハナケレバ、其後出漁スルコトニ付テノ交渉ガ困難デアッタノデアリマス、ソレ故ニ其預カテ保管シテ居リマシタ金ヲ、其儘自由出漁當時ノ漁區使用料トシテ露西亞ニ渡シタノデアリマシテ、全ク已ムヲ得ザルニ出デタノデアリマス、ソレカラ次ノ御質問ハ尼港事件ト此「オコトツク」方面ノ漁場ノ被害事件ト、イツモ一緒ニ見ラル、ノハ何故デアルカト云フ御質問デアリマシタガ、此兩者ハ時期モ似テ居リマス、殆ド同時デアリマス、又原因モ「バルチザン」ノ連中ガヤッタコトデアリマシテ、又其被害ノ悲惨ナコトカラ申シマシテモ、類似致シテ居ルノデアリマス、隨テ從來カラ此兩者ヲ同様ニ見テ取扱テ參タクノデアリマシテ、他ニ何等理由ガアル譯デハナイノデアリマス、ソレカラ次ノ御質問ハ、今度ノ日露漁業會議ニ於テ、斯ル被害民ノ損害等ヲ露西亞ニ交渉シテ解決スルノ機會ガアルカドウカト云フ御質問デアリマシタ、是ハ今度ノ日露漁業會議ハ、全ク漁業ニ關スル會議デアリマシテ、ソレ以外ノ事ヲ此會議ニ於テ議スル考ハ、露西亞ニ於テモ日本ニ於テモナイノデアリマス、隨ヒマシテ此度ノ漁業會議ニ於テ此問題ヲ決スルコトハ豫想サレナイノデアリマス、ソレカラ石油或ハ石炭ノ利權ヲ樺太ニ於テ得タノハ、此尼港事件ノ代償トシテ得タノデハナイカト云フ御質問デアリマス、樺太ニ於テ石油或ハ石炭ノ利權ヲ得マ

シタコトハ、昨年結バレマシタ日露基本協約ノ第六條ト記憶致シマスガ、御覽ニナツタラ分リマス通り、全ク日露ノ間ノ經濟的提携、親善ト云フヤウナ理想抱負カラ出タコトデアリマシテ、露西亞ニ於テハ、尼港事件アルガ爲ニ斯カル利權ヲ日本ニ與ヘタト云フ精神デハナイノデアリマス、而シテ尼港事件ニ對シテハ、當時遺憾ノ意ヲ表シタト云フコトハアッタノデアリマスガ、金錢上ノ問題ハ同條約ノ附屬ノ議定書ニ於キマシテ、將來兩國政府ノ間ノ交渉ニ依テ決スルト云フコトニ相成テ居リマス、隨ヒマシテ尼港事件ノ事柄ト、利權ヲ獲得ヲ致シマスコトハ、何等因果關係ガナイト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、次ニ此度百方圓救恤スルコトニナルガ、ソレニシロ一人當リノ費ヲ金ハ大變少イト云フ仰セデアリマシタ、是ハ中村サンニ於テ多少ノ誤解ガアルカト思フノデアリマスガ、此度ノ救恤ハ陸海軍ノ當時悲惨事ニ遭ヒ、虐殺サレマシタ人々ノ遺族ニ對スル部分ハ入テ居ラスノデアリマス、全ク民間ノ人、先ツ是ハ領事並ニ領事ノ家族ト云フガ如キ、軍人以外ノ人ニ對スル分デアリマス、ソレ故ニ御考ヨリハ救恤ヲ受ケル人ノ數ガ少イノデアリマス、隨ヒマシテ豫想サレルヨリ一人當リノ金額ハ餘計ニナルノデアリマス、併シ勿論十分ハ申セマイト思ヒマス、只今ノ所平均額カラ申シマスト千六百圓バカリニ相成テ居リマス、左様例承知ヲ願ヒマス、大體左様ノ御質問デアッタカト思ヒマスガ、尙ホ漏レテ居リマシタラ仰シヤンテ戴キタクゴザイマス

ウナ割合ニナツテ居ルノデゴザイマスガ、若シ只今定マツテ居リマセヌケレバ、審査機關ニ依テ御決定ニナル御積リテゴザイマスカ、其點ヲ一寸御同致シタイ

〔政府委員男爵矢吹省三君登壇〕

○政府委員(男爵矢吹省三君) 割合ハ只今ノ所別ニ定マツテハ居リマセヌ、併ナガラ之ヲ決定致シマスノハ、救恤審査會ニ於テ決定致サレルノデアリマシテ、吾々只今豫想ハ出來マセヌデスガ、大體先例ヲ追フコトニナリハセマカト思フテ居リマス、明言シテ幾ラト云フコトヲ只今申上ダ兼ルノデゴザイマス

〔前田房之助君登壇〕

○前田房之助君 私ハ只今上程サレマシタル議案ニ關聯致シマシテ、簡單ニ一箇ノ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、私ノ質問ハ極メテ簡單デアリマスガ、頗ル重要ナル意義ヲ含ンデ居ルモノト解シテ居ルノデアリマス、曩ニ日露兩國間ニ於テ協定サレマシタル所ノ利權協約ナルモノハ、只今外務ノ政務次官ハ、尼港事變ノ賠償ノ意味ハ毫モ包含サレナイト云フ御答デアッタノデアリマス、併ナガラ當時莫斯科ニ於キマスル所ノ利權會議ノ内容ヲ知ル者ハ、只今ノ政務次官ノ御答辯ハ詭辯デアラウト思フノデアリマス、當時我が代表ガ飽迄モ尼港事件ノ賠償デアルト云フコトヲ主張致シタニ對シテ、露國ノ代表ハ答ヘテ曰ク「ヨツツエ」ガ東京ヘ行、タトキニ、日本ノ政府ハ樺太ヲ二億圓デ賣リテ呉レナイカト云フコトヲ言ウタデヤナイカ、二億圓デ買ハウト云フ意思ヲ表明シタデハナイカ、既ニ日本ノ政府ガ樺太ヲ買フト云フ意思ヲ表明シタ以上ハ、賠償ノ意味ハ毫モ包含サレテ居ラナイ、斯ウ云フ詰問ニ會、タ結果、非常ニ我が代表ノ立場ハ不利益ニナツテ、已ムナク

賠償ト云フ意味ヲバ撤回シタト云フコトヲ私ハ確ニ聞イテ居ルノデアリマス、此意味カラ致シマシテ、此日露協定ニハ賠償ノ意味ハ包含サレテ居ラヌガ、性質上カラ申シテ、我が日本ノ立場カラ申シマスト云フト、確ニ賠償ノ意味ガ含マレテ居ルモノト私ハ解釋シテ宜カラウト思フノデアリマス、其問題ハ別ト致シマスルモ、免モ角モ日露兩國ガ、國家間ノ條約ニテ取極メラレタル此利權ノ處置ニ對シマシテハ、吾々國民ハ深キ注意ヲ以テ刮目ヲ致シテ居ルダラウト思ヒマス、然ルニ其利權ノ大部分デアリマス所ノ石油會社ノ創立ニ關シマシテ、其内容ヲ仄聞致シマスルノニ、甚ダ不可思議ノ點ガアラウト思フノデアリマス、第一ニ此樺太石油會社ノ創立ニ關シマシテハ、今申上ダマシタ如ク國家間ノ關係ガアルニ拘ラズ、政府ハ毫モ出資ヲナサラヌト云フ御意思ノヤウニ承テ居ルノデアリマス、其出資ヲナサラヌト云フ理由ヲ聞キマスノニ、日露協定ノ第何條デアリマシタカ忘レマシタガ、營業者間ニ請負ハシムルト云フ簡條ガアル、其簡條ニ依テ政府ハ躊躇ナサツテ居ルデヤナイカト云フ説ガアリマス、併ナガラ法人ニ政府ガ出資ヲスルト云フコトモ毫モ差支ガナイ、此莫斯科ニ於ケル利權會議ノ途中ニ於テ、中里代表ノ質問ニ對シテ、「ヨツツエ」ハ答ヘテ曰ク、營業者ニ引受ケシムルヨリハ、日本政府ガ引受ケテ呉レル方ガ、露國ノ政府トシテハソレ以上ノ安心ハナイカラ、一ツ政府ガ引受ケテヤツテ貰ヒタイ、斯様ナ事ヲ申述ベタト云フコトヲ、私ハ中里代表ヨリ直接ニ聞イテ居ルノデアリマス、然ラバ日露協定ニ、營業者ニ引受ケシムルト云フ簡條ガアリマシテモ、政府ガ此法人ニ出資ヲナサルト云フコトハ、何等相反シテ居ラヌト思フノデア

アリマス、私ハ此點ニ付テ先ツ以テ何ガ故ニ此北極太ニ於ケル石油會社ニ對シテ出資ヲナサラスノデアルコト云フコトヲ承リタイノデアリマス、第二ハ承ル所ニ依リマスルト、總株二十萬株ノ中デ、十萬株ハ北辰會ガ引受ケ、五萬株ハ發起人ガ引受ケ、他ノ五萬株ヲ一般ニ公募スル、斯様ニ聞イテ居ルノデアリマス、果シテソレガ事實デアルトスルナラバ、此國家ニ關係ヲ持ツ所ノ利權會社ニ對シ、悉ク民間カラ出資ヲ致シテ、而モ一部ノ資本家ガ過半數ノ株ヲ持ツト云フコトニ依リテ會社ノ將來ノ經營ニ非常ニ弊害ガ起ルト云フヤウナ御心配ガナイカドウカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、私ハ斯様ニ一部ノ人達ガ過半數ヲ持タレルト云フコトハ、結局ハ非常ナ橫暴ヲ極メ、或ハ極端ニ營利ニ趨キマシテ、石油ノ國策ニ反スルヤウナ結果ヲ招來スルノデハナカラウカト云フコトヲ憂フルモノデアリマス、是ガ質問ノ第二點デアリマス、第三點ハ本年ノ三月ノ五日ニ勅令第九號ヲ以テ、此利權會社ニ關スル所ノ規定ガ制定サレタノデアリマスガ、其中デ第十一條ニ「每營業年度ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額ヲ拂込資金額ニ對シ一年百分ノ十五ノ割合ヲ超過スルトキハ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ」斯様ニ箇條ト、第七條ニ於キマシテ「會社ノ採取シタル石油ニ付テハ政府ハ時價ヲ標準トシ優先シテ之ヲ購入スルコトヲ得」斯様ニ規定ガアルノデアリマス、斯様ニ規定カラ判斷致シマス、此石油會社ハ已ムヲ得ズ極端ニ營利政策ヲ執ルニ至ルデアラウト思フノデアリマス、斯様ニ勅令ノ精神ハ、石油ノ國策ニ反スルモノト私ハ思フノデアリマス、斯ル石油國策ニ反スル所ノ勅令ヲ制定ナスコト云フ意味ハ、私ハ政府ガ御出資ヲナサヌカラ、

何トカシテ國民ニ對スル手前上、政府ガ利益ヲ得テ置ク必要ガアルト云フ意味デ、斯様ニ勅令ヲ御制定ナサヌモノト思フノデアリマスガ、其結果ト致シマシテ、海軍カ年來御主張ニナリテ居ル石油ノ國策ニ非常ニ反シタ結果ヲ招クト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテハ海軍政務次官カラ、此勅令第九號ガ石油ノ國策ニ反スルヤウナ結果ヲ招キスルヤ否ヤト云フコトニ付テ、明確ニ御答ヲ得タイノデアリマス、此問題ハ實ニ我ガ同胞ノ血ト肉トニ依リテ得テ所ノ代償デアリマスカラ、願クバ此議場ニ於キマシテ、此石油會社ノ創立並ニ今後ノ方針ニ付テ、詳細ニ御報告アラント希望スル者デアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 片岡商工大臣

〔國務大臣片岡直温君登壇〕

○國務大臣(片岡直温君) 只今ノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、今回日露條約ノ出來マシタ其結果トシテ拵ヘマスル石油會社ニ、政府ガ何故ニ出資シナイカ、是ガ第一問デアッタト思ヒマス、是ハ御承知ノ通り條約ノ結果デアリマス、此日露條約、即チ北京條約ニ於テ石油石炭等ニ關スル利權ハ民間當事者ニ讓ル、斯ウ云フコトニナリテ居リ、日本ノ政府ニ讓ルト云フコトニ約束ハナシテ居ラヌノデアリ、是ニ於テ其條約ニ基ク最高ノ契約ヲ致シマス際ニ、日本政府 民間當事者ヨリ代表スベキ人間ヲ選ビマシテ、サウシテ此條約ニ當ラシメ、其結果トシテ營業者ト露國トノ間ニ於テ利權ノ條約ヲ調ウテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ次第デ政府ガ利權ヲ引受ケテ、サウシテ會社ヲ造ルモノト成立ノ根本ガ違フノデアリマス、斯様ニ次第デアリマスカラ、政府ガ之ニ出資ヲスルコトハ許サナイノデアリマス、ソレカラ第二ノ御質問ハ、二十萬株ノ内十萬株

ハ一方ニ引受ケシメ、尙ホ其殘ノ十萬株ノ中五萬株ハ發起人ガ引受ケ、五萬株ヲ公募スル事ニナリテ居ルヤウデアアルガ、ソレニ相違ナイカト云フ御尋デアリマス、是ハマダ確定致シテ居ルノデハゴザリマセマス、此石油ノ權利ヲ今度出來マスル會社ガ買得致スノデアリマス、此買得致ス爲ニ十萬株ハ從來ノ關係者ニ遺ルノデアリ、而シテ其殘ノ十萬株ノ内五萬株ヲ代表者ト今度ナリテ約束ヲ結ビマシタ者ガ得タイト云フ希望ヲ持テ居ルノデアリマスルガ、是ハ如何ニ尼港事付ニ直接ノ關係ハ無イニ致シマシテモ、彼ノ事件ガアルガ爲ニ此約束ガ出來ルヤウニナリテ居ルハアルト思ヒマス、ソレ故ニ此株式募集ニ對シマシテハ、成ベク公募株ヲ多カラシメント力メテ居ルノデアリマス、サリナガラ十萬株ハ幾ニ石油ニ關係ヲシテ居リマシタ者カラ買取ラナケレバナリマセマス、ソレノ代金ヲ遺ラナケレバナリマセマス、其代金ニ對シテ此十萬株ヲ與ヘルト云フコトデアリマスカラ、其殘ノ十萬株ヲ全部公募スルト云フ事ニナレバ、今回條約ヲ取結ンダ其代表トナツタ者ノ得ルモノガ無クナル、斯ウ云フ事ニナリマスカラ、彼等ノ要求ガ甚ダ不當デハナイト思ヒマスガ、成ベク此内ノ部分ヲ割イテ公募株ヲ多カラシムルト云フ考ヲ持テ居リマス、少クモ六萬五千株位ハ民間ヨリ募集スル結果ニ相成ラウカト考ヘテ居リマス、ソレカラ第三ノ質問ハ、國策ニ對スル海軍省ニ向テノ御求めデアッタト思ヒマスカラ、是ハ私ヨリ御答スルコトハ差控エマス

○前田房之助君 極ク簡單デスカラ自席ヨリ申上ゲタイト思ヒマス

○副議長(小泉又次郎君) 前田房之助君

○前田房之助君 只今ツ答辯ハ私ハ満足ガ出來ヌデアリマスガ、法人ニ對シテ政府

ガ出資ヲスルト云フコトハ、何等日露條約ノ規定ニハ反シナイト思フノデアリマス、次ニ北辰會ニ從來ノ權利料トシテ約二百八十萬圓程會社カラ出スト云フ事ニ付テ居リマスガ、此權利ヲ買フト云フ事柄ト株ヲ持タスト云フ事柄ハ、全然別個ノモノト思フノデアリマス、隨テ先刻申シタ如ク、一ツノ系統ノ團體ニ過半ノ株ヲ持タシムルト云フコトハ、餘程今後經營上困難ナ事ガ起ラウト思ヒマスカラ、政府ニ於テモ然ルベク考慮セラレンコトヲ希望致シマシテ、其他ノ質問ハ他ノ機會ニ譲リマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りマス

○副議長(小泉又次郎君) 是ニテ質問ハ終了致シマシタ、日程第十八、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十九、第二十八關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十九、都市計畫法中改正法律案、日程第二十、特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ付テ清算金及補償金ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、依政府委員

第十九 都市計畫法中改正法律案(政

府提出) 第一讀會

都市計畫法中改正法律案

都市計畫法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「國稅營業稅割」ヲ「營業收益稅割」ニ、「國稅營業稅」ヲ「營業收益稅」ニ改メ第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 特別地稅 北海道及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分ノ四以內、府縣及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分五以內

第八條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ 營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス 營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セララルル營業稅額ハ大正十五年度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

第二十 特別都市計畫法第五條ノ土地區畫整理ニ付テハ清算金及補償金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

特別都市計畫法第五條ノ土地區畫整理ニ付テハ清算金及補償金ニ關スル法律案 第一條 本法ニ於テ清算金ト稱スルハ特

別都市計畫法第五條ノ土地區畫整理ヲ施行スル場合ニ於テ其地整理法第三十條ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ交付スヘキ金銭ヲ謂フ

第二條 清算金ヲ納付スヘキ義務アル者ニ對シ同一土地區畫整理施行地區內ニ於ケル土地ニ關スル權利ニ付特別都市計畫法第八條ノ補償金ヲ交付スヘキ場合ニ於テハ整理施行者ハ徵收スヘキ清算金ニ之ヲ充ツルコトヲ得但シ其ノ補償金カ耕地整理法第二十五條ノ規定ニ依リ供託スヘキモノナルトキハ其ノ補償金ヲ交付スヘキ土地ニ關スル權利ニ付徵收スヘキ清算金ニノミ之ヲ充ツルコトヲ得

第三條 整理施行者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ徵收スヘキ清算金ニ付利子ヲ附シ三年ヲ超エサル期間ニ於テ分納スルコトヲ認ムルコトヲ得

第四條 整理施行者ハ清算金交付ノ爲必要アルトキハ耕地整理法第三十條ノ規定ニ拘ラス他ノ土地區畫整理施行地區ニ於テ徵收シタル清算金ヲ以テ繰替支辨シ又整理施行者行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ノ立替金ヲ以テ支辨スルコトヲ得

整理施行者前項ノ規定ニ依リ繰替又ハ立替支辨シタルトキハ徵收シタル清算金ヲ戻入シ又ハ返還スヘシ

第五條 清算金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其ノ剩餘金ハ整理施行者行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ニ歸屬ス

第六條 土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者雙方連署ヲ以テ遲滞ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ササル場合ニ於テハ清算金ノ徵收又ハ交付ニ關シテハ其ノ讓渡ハ之ヲ以テ整理施行者ニ對抗スルコトヲ得ス

土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者ニ於テ其ノ權利ヲ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 前條ノ規定ハ土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (政府委員俵孫一君登壇)

○政府委員(俵孫一君) 只今上程ニ相成リマシタ第十九、第二十ノ兩案ニ付テ御說明申上ゲマス、都市計畫法中改正法律案ノ提案ノ理由ハ、營業稅法廢止法律及營業收益稅法ノ制定ニ付ヒマシテ、都市計畫特別稅タル國稅、營業稅割ニ關スル規定ノ改正ヲ爲スノ必要ガアリマス、又地租條例ノ改正ニ依リマシテ、地價二白圓以下ノ田畑ヲ有スル自作農ヲ免稅スルノ結果、都市計畫特別稅ノ地租割ニ減收ヲ見マスルガ爲ニ、特別地稅ヲ設定スル必要ガアルノデアリマス、ソレ故ニ本案ヲ提出致シマシタ譯デアリマス、第二十ノ法案ニ付キマシテ、御說明申上ゲマス、東京及橫濱ノ復興計畫ニ於ケル土地區畫整理ノ施行ニ當リテハ、所謂換地

ハ從來ノ土地ノ標準トシテ、之ヲ交付シマシテ、換地ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハザル場合ニ、初メテ金銭ヲ以テ清算シナケレバナラヌコトニ相成テ居ルノデアリマス、而シテ金銭ヲ以テ清算スル、其清算ニ付キマシテハ、今次ノ區畫整理ニ於テハ努メテ之ヲ少カラシメル方針デアリマスルケレドモガ、實施上ハ尙ホ已ムヲ得ズシテ換地處分ニ付ヒ、清算金ノ徵收又ハ交付ヲ要スヘキモノガ相當ニ上リマス見込デアリマス、而シテ清算金ノ交付ハ、即時ニ爲スノ豫定デアリマスルケレドモガ、其徵收ニ付キマシテハ、金額如何ニ依リテハ、大震災ノ創痕尙ホ癒エザル關係者ヨリ、一時ニ之ヲ徵收スルコトハ頗ル困難ナル事情ガアルノデアリマスガ故ニ、市民ノ經濟ヲ考慮シ、茲ニ特別ノ立法ヲ致シマシテ、清算金ノ徵收ニ付キ、整理施行者ヲシテ一定期間ノ猶豫ヲ求ムルヲ得セシメ、以テ市民ノ困難ヲ緩和スルコトヲ期スルト共ニ、其交付ニ付キ必要ガアル時ニハ、第一特別都市計畫法第八條ニ依リテ交付スヘキ補償金ヲ以テ、徵收スヘキ清算金ニ當テルノ途ヲ開キマス

シ、第二ニハ國又ハ公共團體ノ經費ヲ以テ立替支辨スルノ方法ヲ設ケテ、以テ區畫整理ノ圓滑ナル施行ヲ圖ラント致シマスルノデアリマス、是ガ本案ヲ提出スル所以デアリマシテ、尙ホ本法ノ施行ニ必要ナル經費ハ、別途追加豫算ヲ以テ之ヲ提出致シマス次第デアリマス、就キマシテハ速ニ御審査ノ上デ御協賛アラントヲ希望致シマス (拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ付テ質疑ノ通告ガアリマス、近藤達兒君

○近藤達兒君 此帝都復興ノ問題ハ、申ス迄モナク東京橫濱ノ問題デアリマスル

八七五

八七五

ガ、國力ヲ舉ゲテ國民ハ一日モ早く其達成ヲ望シテ居ルノデアリマス、然ルニ今日マデ遲々トシテ其事業ノ進行セザルコトハ、市民ハ勿論國民全般ノ遺憾ト致シテ居ル所デアリマス、現總理大臣兼内務大臣タル若槻氏ハ熱心ナル此速成論者デアリ、又當局ノ方々モ熱心ニ其事業ニ從事致シテ居リマスルガ、少シモ其成績ノ見ルベキモノガナイノハ、洵ニ遺憾至極デアルノデアリマス(拍手)此成績ノ舉ラザルコトハ果シテ何ニ由ルカ、何等カ其所ニ原因ノ存スルモノガナケレバナラヌト思フノデアリマス、事ノ困難ナル事業デアルト云フコトハ、當初ヨリ明白ナル事實デアリマス、然ラバ或ハ法制ノ上ニ於テ缺陷ガアルノデハナイカ、若クハ復興局職制ノ上ニ於テ不都合ガアルノデハナイカ、或ハ又之ニ要スル所ノ資金ノ不足ニ基クノデハナイカト云フヤウナ方面カラ考ヘテ見マスルガ、要スルニ此問題ハ、一ハ當局ノ怠慢デアルト云フコトヲ申シテ、差支ナカラウト思フノデアリマス(拍手)過去二年半ノ實績ニ徴シマシテモ、當局ノ聲明シタル事柄ハ、哀切ラレマシテ、東京市民並ニ横濱市民ノ苦痛困憊ハ益々増大シテ參ッテ居ルノデアリマス、一例ヲ舉ゲテ申シマスレバ、當局ニ於キマシテ、例ヘバ何年何月マデニ此地區ノ換地、移轉命令ヲ完了スルト云フヤウナコトヲ言明致シマスカラ、市民ハ之ニ一種ノ期待ヲ以テ、或ハ建築ヲ差控ヘ、或ハ營業ヲ差控ヘルト云フヤウナ事ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ其事柄ガ、一年乃至ハ三年遅ル、ト云フヤウナコトニ相成リマシテ、市民ハ妙カラザル損害ヲ被テ居ルノデアリマス、東京市民ハ此國家的ノ大事業ニ對シマシテハ、或ハ農村振興、若クハ産業ノ發展等ニ費スベキ所ノ國費ヲ擧ゲテ、東京横濱ノ爲ニ投ジ下

サルト云フコトヲ、深ク感謝シテ居ルモノデアリマス、ソレ故ニ此問題ニ對シテハ、相當ノ理解ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、當局ノ仕事ヲ遅ル、ガ爲ニ、或ハ此仕事ヲ達成シナイノデハナイカ、若クハ中止サレルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ起ス市民モ段々出テ參ッタノデアリマス、然ルニ又斯ル時ニ乘ジマシテ、虚偽ノ事實ニ立脚致シマシテ、或ハ公開演説ヲ爲シ、或ハ印刷物ヲ配布シ、區劃整理ノ反對ヲ叫ビ、甚シキニ至ッテハ此問題ヲ選舉ノ具ニ供スル不徳漢ヲ生ズルニ至ッテ居ルノデアリマス(ノウノウ)「拍手」ソレ故ニ此事業ガ長引ケバ長引ク程、斯ノ如キ障碍ガ生ジテ參ル、又昨今ハ區劃整理委員會ナルモノガ設ケラレマシテ、此委員會ノ議長ナル者ガ、故ラニ委員會ヲ開會セズシテ、此事業ノ進捗ヲ妨グルト云フヤウナ傾向ガ、實際ニ見得ラレルヤウニナッテ居ルノデアリマス(ヒヤヒヤ)「ノウノウ」斯ノ如キ有様デアリマスカラ、此事業ガ遅ルレバ遅ル、ダケ市民ノ損害モ多ク、又事業ノ障碍モ從ッテ多ク出テ參ルノデアリマス(ヒヤヒヤ)ソレ故ニ當局ニ於カレマシテハ、是等ノ事ニ留意セラレ、斯ノ如キ虚構ノ事實ニ立脚シ、或ハ演説ニ、或ハ印刷物ニ、若クハ整理委員會ガ故ラニ開會セズシテ長引クト云フヤウナ事實ニ對シマシテハ、如何ナル方法ヲ執ララル、御考デアリマスカ、其邊ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、又此區劃整理ノ事業ガ前申シタ如ク年々進レテ參ッテ居リマスカ故ニ、豫算ト仕事トハ一緒ニ參ラヌト云フヤウナ形ニナッテ居ルノデアリマスルガ、本年度ハ既ニ年度末ニ近付イテ居ルノデアリマスカラ、事業ノ大體及豫算ノ金額ガ何程使用サレテ居ルカ、其邊ノ點ヲ御伺致シタイト思フノデアリマス、ソレカラ只今ノ清算金ノ問題

デアリマスガ、此問題ハ區劃整理ヲ行フニ付キマシテハ、市民ノ特ニ知ラント欲スル所ノ問題デアリマス、私ノ聞ク所ニ依リマスレバ、清算金ノ算定ハ豫メ路線價ナルモノヲ算定致シテ置キマシテ、之ニ依ッテ計算ヲ致スト云フコトニ承知致シテ居リマスルガ、其路線價ナルモノ、算出ノ方法ハ東京市、東京府、東京府農工銀行、或ハ勸業銀行、若クハ興業銀行等ノ算定ヲ基礎ト致シマシテ、而モ震災後ニ於ケル土地ノ價格ノ最モ暴落シタル時ヲ根據トシテ路線價ナルモノヲ算出致シテ居ルヤウニ記憶致シテ居リマス、而シテ又一方區劃整理後ノ清算金ハ、區劃整理後土地ノ價格ガ増大スルモノト看做シマシテ、高イ數字ヲ見積リマシテ清算スルト云フコトニナッテ居リマスカラ、清算金ヲ取ラレル場合ニ當リマシテハ、高イ根據ニ基ク算出方法ニ依ッテ清算金ヲ收受セラレ、補償金ヲ貰フ場合ニハ少イ所ノ路線價ニ依ッテ算出セラレタル少額ナル補償金ヲ貰フヤウナ關係ニナリハセヌカト云フコトヲ、頗ル憂ヘテ居ルノデアリマス(拍手)ソレ故ニ是等ノ點ニ對シマシテモ、昨今市民ノ間ニ頗ル疑義ヲ懷ク人ガ多クナッタノデアリマスカラ、是等ノ點ニ付キマシテハ、明白ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)只今又内務次官ノ御説明ニ依リマスレバ、清算金ノ支拂方法ハ、震災後大ナル打撃ヲ被ッテ居ル東京横濱市民デアルガ故ニ、三年間ノ猶豫ヲ致スノデアルト云フコトヲ申サレマシタガ、東京市民並ニ横濱市民ノ震災後ニ於ケル經濟狀態ハ、恐ラクハ政府當局ノ豫想シ能ハザル程疲弊シテ居ルノデアリマス、然ルニ僅ニ三年間ノ期限ヲ以テ之ヲ完納セシムルト云フコトハ、頗ル慘刻ナル致方デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、加之、之ニ對シテ利子

ヲ附スルニ至リマシテハ、恰モ高利貸ト同一ナル方法ヲ御執リニナルヤウニ私ハ考ヘラレルノデアリマス、東京市ニ於ケル道路ノ利益負擔金、若クハ下水ノ利益負擔金ノ如キハ、十箇年ノ年賦ニナッテ居ルノデアリマスルカラ、政府ニ於キマシテモ是等ノ點ニ鑑ミテ、之ヲ十箇年ノ年賦ニスルト云フ御考ハナイモノデアリマセウカ、其邊ヲ御伺致シタイト思フノデアリマス(拍手)モウ一ツ御伺致シタイトハ、第五條デアリマスガ、第五條ニハ清算金ニ剩餘ヲ生ジタル場合ヲ規定シテアルノデアリマス、此清算金ニ剩餘ヲ生ジタル場合ハ行政廳又ハ公共團體ナルトキハ公共團體ニ歸屬ス、斯様ナコトニ規定致シテ居リマスガ、今日マデ政府當局ノ言明スル所ニ依リマスレバ、區劃整理ヲ行フベキ一地區内ニ於ケル清算金ハ、其地區内ニ於ケル所ノ補償金ト補償ヲ受クベキ人ニ之ヲ支拂フスルノデアアルカラ、國庫ノ收入若クハ公共團體ノ收入トナシテ居タト私ハ記憶シテ居ルノデアリマス、然ルニ之ニ依ッテ見マスレバ、國家若クハ公共團體、即チ區劃整理ノ執行者ガ剩餘金ヲ收得スル規定ヲ設ケテアルノデアリマスカラ、所謂今日マデ政府ガ區劃整理ヲヤテ儲ケルノデアルト云フヤウナ説ガ盛行ハレテ居タノガ、甚ニ實現サレルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ懷クノデアリマス(拍手)是等ノ點ハ先刻申上ゲマシタ、即チ補償金ノ場合ニ於テハ、震災直後ニ於ケル最モ下落シタ當時ノ地價ヲ根柢トシテ計算シ、又清算金ノ場合ニ於テハ、區劃整理後ノ昂上シタル市價ヲ以テ換算シテ、多額ヲ市民ヨリ徴收シ、以テ此間ノ差額ヲ益スルノデハナイカト云フヤウナ疑ハ當然ニ起ル所デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ願ク

ハ明確ナル御回答ヲ得タイト思フノデアリマス(拍手)

〔政府委員清野長太郎君登壇〕

○政府委員(清野長太郎君) 近藤君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ申シマス、私昨年九月ニ復興局長官ヲ拜命致シマシタガ、只今近藤君ヨリ此復興事業ノ遅々トシテ居ルノハ、當局ノ怠慢デアルト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ私就任ヲ致シマシテカラ昨年マデノ調査ヲ研究シテ見マスト云フト、御承知ノ通り此換地ノ設計ヲ致シマスルニ、又其設計ガ——一口ニ設計ト申シマスレドモ、所謂此大都會ノ土地ノ所有者以外、借地権者、殊ニ震災後ニ於テハ此借地権者ノ登記ノナイモノガ多イ爲ニ、其申告ヲ取りマスタケデモ十方以上ニモ數ガ上、テ居リマス、前長官ノ時ニ其苦心ヲ致シマシタ跡ハ、一々之ヲ申上デルコトハ此處デ憚リマスガ、決シテ怠慢ト云フコトデハナカッタと思フノデアリマス、但シ豫定年度ヨリ申シマスレバ、事業ノ遅レテ居ルト云フコトハ遺憾ナガラ事實デアリマス、併ナガラ從來ノ苦心ヲ致シマシタコトモ、稍、報ヒラレマシテ、現在ニ於キマシテハ假ニ東京ヲ例ニ取ツテ申上デマスレバ、六十六區ノ地區ニ分ケテ區制整理ヲ致シテ居リマスガ、位置ノ決リマシタモノガ六十、既ニ面積ノ決定ヲ致シマシテ、移轉命令ヲ出シ得ル迄ノ準備ノ出來マシタ數ガ三十九ニ上、テ居リマスヤウナ譯デアリマス、又昨年ノ九月頃カラ此移轉命令ヲ法律ニ依テ出シテ居リマス數ガ、月々ニ非常ニ増加ヲ致シマシテ、現在東京デハ約一万五千ノ移轉命令ガ出テ居リマシマスレバ、遅レテ居ルト云フ事柄ハ遺憾ナガラ事實デアリマスガ、昨今ハ餘程順調ニ進ンデ居リマスと云フコトダケハ、御諒

承テ願ヒタイト存ジマス、尚ホ此區制整理委員ノコトニ付キマシテハ段々御話ガアリマシタガ、只今ノ所デハ此區制整理委員ノ方々ハ、固ヨリ千四百人ト云フ多數ノ人間ガ東京ニハ整理委員ニナツテ居リマスノデ、一二ノ例外ガナイト云フコトハ申上デ兼ネマスガ、故意ニ此整理委員ガ區制整理ノ進行ヲ阻碍ヲスル、或ハ私ヲスルト云フウナ事實ハ、復興局長ノ認メマセヌ、又萬一二或ハ此委員會ノ議長等ガ、故意ニ整理ノ仕事ニ妨害ヲ加ヘルト云フ事實ガアリマスレバ、是ハ勅令ニ依リマシテ相當ナ途モアリマスガ、右ノ如キ事實ハ現在迄モナイト云フコトヲ申上デテ置キマス、ソレカラ此清算ノコトニ關シマシテ、路線價ノ御質問ガアリマシタガ、是ハ詳細ニ申上ゲマスルト、數字ニモ關係シテ餘程時間モ取リマス故ニ、唯、簡單ニ近藤君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲテ置キマスガ、補償ヲ致シマスノハ整理前ノ平均ノ地價デ補償ヲスベシト云フコトハ、御承知ノ通り勅令ノ規定ニ在リマスノデ、即チ震災前ノ平均地價ヲ一定ノ數額ノ上カラ割出シマシテ、サウ致シテ此整理前ノ地價ト云フモノヲ決メテ居リマス、又此整理後ノ地價ヲ殊更ニ或ハ幹線、補助線等ガ出來ルノデ、漫リニ上ゲテ居ルコトハナイカト云フ御話デアリマスガ、決シテサウデハアリマセヌ、清算ヲ致シマスノハ、理想ト致シテハ寧ロ此整理前ノ地價ヲ代表致シマスル此土地ノ價ヲ指數デ現ハシテ居リマスガ、此指數ニ最モ近付ケルコトカ理想デアリマス、併ナガラ色々技術ノ上デサウハ參リ兼ネマス、固ヨリ此整理前ノ地價ト、整理後ノ地價トハ違テ居リマス、併ナガラ御話ノヤウナ事實ハ決シテナイノデアリマスガ、是等ハ何レ此委員會デ詳細ニ其事ヲ御諒承テ願フ積リデア

リマスカラ、此席デハ評シク申上ゲマセヌ次第デアリマス、尚ホ此清算金ノコトニ付キマシテ、三年ト云フコトガ酷デハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、一應至極御尤ノ御話デ、東京市ノ此ノ下水八十一年ト云フコトニナツテ居リマスガ、ソレニ較ベテ三年ハ短カ過ギル、如何ニモ下水ニ較ベテハ短カ過ギルト云フコトハ事實デアリマスガ、但シ申スマデモナク、所謂清算金ハ政府デ徵收致シ、政府デ交付スルト云フ仕事ノ事務ダケハ致シマスガ、本來ノ性質ハ矢張此耕地整理デ清算ヲ致シマスと同様ニ、當事者ノ間ニ清算勘定ヲ致ス筋合デ、之ヲ政府ニ於キマシテ特ニ此震災後ノ東京橫濱ニ對シテ立替ヲ致シマスと云フ爲ニ之ヲ延シマスノデ、清算ノ性質カラ申シマスレバ、下水ノ受益者ノ負擔ト云フヤウナモノトハ、性質ガ全然違ヒマス、殊ニ此三年ト云フコトニ致シマシタノハ、大藏省ノ財政計畫ノ都合モアリマスノデ、三年ト云フコトニ致シマシタ次第デアリマス、尚ホ此利子ヲ取ル、是ハ酷デナイカト云フ御話デアリマスガ、御承知ノ通り此區制整理ハ六十六ノ中デ五十一マデハ東京市ガ行、テ居リマスノデ、東京市ハ矢張市債ヲ起シマシテ、此立替金ニ充ツルヨリ外ハナイノデ、市ノ市債ノ利廻ハ矢張八分近イモノニ事實ナツテ居リマスノデ、是ハ已ムヲ得ズ東京市或ハ橫濱市ノ關係モアリマスノデ、利子ヲ取りマス關係ニナツテ居ル次第デアリマス、尚ホ詳細ハ委員會ノ節ニ申述ベマス(拍手)

○近藤達見君 簡單デアリマスカラ……
○副議長(小泉又次郎君) 許可致シマス
○近藤達見君 尚ホ一ツ御同致シマスガ、此區制整理ノ問題ニ對シマシテ、最モ市民ノ苦痛ニ考ヘルノハ移轉料ノ問題デアリマス、其移轉料ガ近來頗ル少イト云フコトデ、各方面ヨリ怨嗟ノ聲ヲ聞クノデアリマス、市民ノ最モ困憊シテ居ル今日、少キ移轉料ヲ與ヘテ之ヲ強制スルガ如キハ、市民ノ苦痛甚シイモノガアルト存ズルノデアリマス(拍手)ソレ故ニ政府ニ於カレマシテハ、何等カ豫算ノ流用ニ依テ移轉料ヲ増大スルトノ御考ハナイデアリマセウカ、此點ヲ御同致シマス
〔政府委員清野長太郎君登壇〕
○政府委員(清野長太郎君) 御答申上ゲマスガ、御承知ノ通り移轉料ガ若シ誤テ少イト云フコトガアリマスレバ、法律ニ依リマシテ司法裁判所ヘ訴ヘ得ル途ヲ法律ハ開イテ居リマス、ソレデ裁判所ノ方ヘ出マスル關係ガアリマス、殊ニ法律ニ依リマシテ通常受クベキ損害ト云フ文字ヲ法律ハ書イテアリマスキリデ、私ノ方デハソレト皆關係ノ者ガ一戸々々ニ付キマシテ、サウシテ其家ヲ移轉スルノニ付テハ、御承知ノ通り或ハ全部一時解體ヲシテ改築ヲスルノモアリマスルシ、或ハ簡單ニ引ケルモノモアリマス、或ハ一部除却スルモノハ一々其見取圖ヲスツカリ拵ヘマシテ、新築ノ單價ヲ調ベテ居リマス、只今近藤君ノ御話ハ、或ハ移轉料ノ中デモ營業ノ補償ト云フコトデナイカト云フ想像ヲ致シマスガ、是モ亦各種ノ業體ニ付キマシテ、各、其業體ノ如何ニ依リマシテ損害ヲ皆拂フコトニ致シテ居リマス、尚ホ雜作ノ移轉料、或ハ此動産ヲ運搬致シマス移轉料モ拂テ居リマス、只今補償審査會ニ懸ケテ居リマスノハ、御承知ノ通り唯、彼所デ決メルト云フコトデナシニ、審査會デ一戸々々ニ付テ果シテ補償ガ不十分デアルカ、十分デアルカト云フコトヲ審査致シテ居リマスノデ、今日迄此補償額ニ付キマシテ幸ニ裁判所ヘ出訴ノアリマ

シタモノハ、昨今一ツアリマシタキリデ、サウ仰セノヤウニ不都合ナ事ハ断ジテ致シテ居ラヌ積リデアリマスガ、尙ホ將來其事ニ付テハ一層ノ注意ヲ無論拂フ積リデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 日程第二十一、右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二十一 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、此場合暫時休憩ヲ致シマス

午後六時三十八分休憩

午後八時開議

○議長(粕谷義三君) 休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、休憩前ニ日程第二十一ノ委員數ヲ九名ト述ベラレタサウデアリマスガ、是ハ十八名ノ誤リデアルト云フコトデアリマスカラ、之ヲ訂正スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナイモノト認メマス、仍テ委員數ヲ訂正致シマス、日程第二十二、出版物法案ノ第一讀會ヲ開キマス、俵政府委員

第二十二 出版物法案(政府提出)

第一讀會

出版物法案
出版物法目次

第一章 總則

第二章 新聞紙及雜誌

第三章 普通出版物

第四章 出版物掲載事項ノ制限

第五章 行政處分

第六章 罰則

附則

出版物法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ出版物ト稱スルハ發賣頒布ノ目的ヲ以テ機械的又ハ化學的方法ニ依リ複製セラレタル文書圖書ヲ謂フ

第二條 出版物ヲ分チテ左ノ三種トス

一 新聞紙 一定ノ題號ヲ用ヒ七日以内ノ期間ヲ隔テテ時期ヲ定メ又ハ定メス繼續シテ發行スルモノ

二 雜誌 一定ノ題號ヲ用ヒ三月以内ノ期間ヲ隔テテ時期ヲ定メ又ハ定メス繼續シテ發行スルモノニシテ前號ニ該當セザルモノ

三 普通出版物 前二號ニ該當セザルモノ

新聞紙又ハ雜誌ト同一題號ヲ用ヒ臨時發行スル出版物ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ト看做ス

第三條 本法ニ於テ發行者ト稱スルハ出版物ノ發賣頒布ヲ管理スル者ヲ謂フ

第四條 本法ニ於テ著作ト稱スルハ文書圖書ヲ著述シ又ハ複製スル者ヲ謂フ

他人ノ演述ノ筆記ニ付テハ筆記者ニ於

テ之ヲ出版物ト掲載スルハ掲載セシメタルトキハ筆記者ヲ以テ著作ト看做ス但シ演述者ニ於テ特ニ其ノ掲載ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ演述者モ亦著作トタルコトヲ失ハス

著作物ノ編纂ニ付テハ編纂者ヲ以テ著作ト看做ス但シ原著者ニ於テ特ニ其ノ編纂ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ原著者モ亦著作トタルコトヲ失ハス

翻譯ニ付テハ翻譯者ヲ以テ著作ト看做ス

學校、會社、協會其ノ他ノ團體ヲ著作

者名義トスル普通出版物ニ付テハ其ノ學校、會社、協會其ノ他ノ團體ヲ代表スル者ヲ以テ著作ト看做ス

第五條 本法ニ於テ編輯者ト稱スルハ新聞紙又ハ雜誌ノ編輯ヲ管理スル者ヲ謂フ

第六條 官廳ニ於テ發行スル出版物(第二十四條ニ掲グルモノヲ除ク)ニ付テハ發行ト同時ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第二章 新聞紙及雜誌

第七條 新聞紙又ハ雜誌ヲ發行セムトスルトキハ發行者ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

三 發行ノ時期

四 第一回發行ノ年月日

五 發行所及印刷所ノ名稱及所在地

六 發行所及編輯者(新聞紙又ハ雜誌ノ版ニ依リ其ノ編輯者ヲ異ニスルト

キハ其ノ版別編輯者)ノ住所、氏名及年月日

前項ノ届出ハ文書ヲ以テシ第一回發行ノ日前七日目迄ニ發行所所在地ノ北海道廳又ハ府縣廳(東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同シ)ニ之ヲ差出スヘシ

第八條 前條届出事項ノ變更ニ付テハ發行所ハ之ヲ豫知シ得ル場合ニ於テハ變更前豫メ、之ヲ豫知シ得ル場合ニ於テハ變更後五日以内ニ前條第二項ノ例ニ依リ之ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ發行所變更ノ届出ハ新ニ發行所ヲラムトスル者ニ於テ之ヲ爲シ其ノ變更前ノ届出ニハ從前ノ發行所ノ連署アルコトヲ要ス

發行所又ハ編輯者所在不明ト爲リ又ハ本法施行ノ地域外ニ旅行スルコト一月ニ及フトキハ發行所又ハ編輯者ハ變更セラレタルモノト看做ス

第九條 左ニ掲グル者ハ新聞紙又ハ雜誌ノ發行所又ハ編輯者タルコトヲ得ス

一 本法施行ノ地域内ニ住所ヲ有セザル者

二 陸海軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セザル者及歸休中ノ者ヲ除ク)

又ハ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者

三 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者

四 禁錮以上ノ刑ノ執行中ノ者

第十條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙又ハ雜誌ノ發行所ハ其ノ發行前保證トシテ新聞紙ニ在リテハ左ノ金額、雜誌ニ在リテハ其ノ半額ヲ發行所所在地ノ北海道廳又ハ府縣廳ニ納ムヘシ

一 東京市 大坂市及其ノ市外三里以
内ノ地ニ於テハ二五圓
二 人口七萬以上ノ市及其ノ市外一里
以內ノ地ニ於テハ十圓
三 其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類
ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
第十一條 保證金ニ對スル權利義務ハ發
行者變更ノ場合ニ於テハ新發行者之ヲ
承繼ス

第十二條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルト
キニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其
ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅
徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又
ハ新聞紙若ハ雜誌ニ掲載シタル事項ニ
基ク罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行ス
ルコトヲ妨ケス

第十三條 保證金ヲ納ムル新聞紙又ハ雜
誌ノ發行者又ハ編輯者カ其ノ納付スヘ
キ罰金、料料又ハ刑事訴訟費用ノ確定
ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ完納セザルト
キハ檢事又ハ檢察官ハ保證金ヲ以テ之
ニ充ツルコトヲ得

第十四條 保證金ニ關シテ生シタルトキ
ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總
監以下之ニ同シ)ハ之ヲ其ノ新聞紙又
ハ雜誌ノ發行者ニ通知スヘシ
發行者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其
ノ日ヨリ七日以內ニ保證金ノ關額ヲ填
補スヘシ

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ廢止
シタルトキハ發行者ハ遲滞ナク第七條
第二項ノ例ニ依リ其ノ旨ヲ內務大臣ニ
届出ツヘシ

新聞紙又ハ雜誌ハ其ノ發行ノ期日ヲ經
過スルモ之ヲ發行セザルコト新聞紙ニ
在リテハ二月、雜誌ニ在リテハ四月ニ
及フトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノ
ト看做ス

第十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ印刷所ハ之
ヲ本法施行ノ地域外ニ設クルコトヲ得
ス

第十七條 新聞紙又ハ雜誌ニハ發行者及
編輯者ノ氏名、發行所及印刷所ノ名稱
及所在地並發行ノ年月日ヲ記載スヘシ
第十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ新
聞紙ニ在リテハ發行ト同時ニ、雜誌ニ
在リテハ發行前日迄ニ內務省ニ二部、
發行所所在地ノ北海道廳又ハ府縣廳、
地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ
各一部ヲ納ムヘシ

第十九條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル
事項ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直
接關係者ヨリ正誤ノ請求又ハ正誤書若
ハ辯駁書ノ掲載ノ請求アリタルトキハ
其ノ請求ヲ受ケタル後日刊ノ新聞紙ニ
在リテハ第三回迄、其ノ他ノ新聞紙又
ハ雜誌ニ在リテハ第二回迄ノ發行ノ新
聞紙又ハ雜誌ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤
書若ハ辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ但シ
正誤若ハ辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルト
キ、請求者ノ住所及氏名ヲ明記セザルト
キ又ハ原文掲載ノ日ヨリ六月ヲ經過シタ
ル後請求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
正誤又ハ正誤書若ハ辯駁書ノ掲載ハ原
文ノ掲載セラレタルト同様ノ場所ニ於

テシ且原文ニ於テ主トシテ用ヒラレタ
ルト同大ノ活字ヲ用フヘシ
正誤書又ハ辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ
超過シタルトキハ其ノ超過シタル字數
ニ付發行者ノ定メタル普通廣告料ト同
一ノ料金ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 官報、新聞紙又ハ雜誌ヨリ轉
載シ又ハ抄録シタル事項ニシテ官報、
新聞紙又ハ雜誌ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ
正誤書若ハ辯駁書ヲ掲載シタルトキハ
前條第一項ノ請求ナシト雖モ其ノ官報、
新聞紙又ハ雜誌ヲ得タル後前條ノ例ニ
依リ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書若ハ辯駁書
ヲ掲載スヘシ但シ前條第三項ノ規定ハ
之ヲ適用スルノ限ニ在ラズ

第二十一條 普通出版物ヲ發行セムトス
ルトキハ發行者ハ到達ニ要スヘキ日數
ヲ除キ發行ノ日前三日目迄ニ製本二部
ヲ添ヘ之ヲ內務大臣ニ届出ツヘシ改訂
増減シテ普通出版物ヲ發行セムトスル
トキ亦同シ

前項ノ届出ハ著作者ノ連署シタル文書
ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ著作者死亡其
ノ他ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサ
ルトキ又ハ著作者カ其ノ著作權ヲ讓渡
シタルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十二條 普通出版物ハ著作者ヲ除
クノ外其ノ販賣ヲ以テ營業ト爲ス者ニ
非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第二十三條 普通出版物ニハ其ノ末尾ニ
發行者ノ住所及氏名、發行所及印刷所
ノ名稱及所在地並發行ノ年月日ヲ記載
スヘシ

第二十四條 書簡、定款、會則、事業報
告、目錄、引札、張札、番附、諸種ノ
用紙、證書ノ類及寫眞ニ付テハ前三條
ノ規定ヲ適用セス

第二十五條 出版物ニハ左ノ事項ヲ掲載
スルコトヲ得ス

一 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル事項
二 國體ヲ變革セムトスル事項
三 憲法上ノ政治組織ノ大綱又ハ私有
財產制度ヲ不法ニ變革セムトスル事
項
四 軍事又ハ外交ノ機密ニ關シ帝國ノ
利益ヲ害スル事項
五 犯罪ヲ煽動シ若ハ曲庇シ又ハ刑事
被告人若ハ被疑者ヲ賞恤シ若ハ陷害
スル事項
六 虛偽又ハ誇大ノ事項ニシテ社會ノ
不安ヲ惹起スヘキモノ
七 亂倫、猥褻、殘忍其ノ他善良ノ風
俗ヲ害スル事項

第二十六條 出版物ニハ公判開廷前ニ於
テ刑事事件ノ訴訟ニ關スル書類ノ内容
ヲ掲載シ又ハ公開シ停メタル訴訟ノ辯
論ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十七條 戰時、事變其ノ他特ニ必要
アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ軍事又ハ外交ニ關スル事項ヲ出版物
ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スル
コトヲ得

第二十八條 內務大臣ハ治安維持上重大
ナル影響ヲ及ボスノ虞アル事件ニ關シ
特ニ事項ヲ指示シテ之ヲ新聞紙又ハ雜
誌ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限ス
ルコトヲ得

第二十九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍

事上ノ秘密ニ關シ特ニ事項ヲ指テシテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三十條 外務大臣ハ外交上ノ秘密ニ關シ特ニ事項ヲ指テシテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三十一條 檢察官又ハ檢察官ハ捜査中又ハ豫審中ノ事件ニ關シ特ニ事項ヲ指テシテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第五章 行政處分

第三十二條 第七條若ハ第八條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ第十條第一項若ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ填補スル迄地方長官ハ其ノ發行ヲ差止ムルコトヲ得

第三十三條 内務大臣ハ第二十五條ニ掲クル事項又ハ第二十七條若ハ第二十八條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反スル事項ヲ出版物ニ掲載シタルト認ムルトキハ其ノ事項ヲ掲載シタル部分ヲ指稱シテ(但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ指稱セザルコトヲ得)其ノ出版物ノ發賣頒布ヲ禁止シ必要アル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

内務大臣ハ前項ノ規定ニ依リ差押ヘタル出版物ニ付發行者ノ請求アルトキハ前項ノ事項ヲ掲載シタル部分ヲ除キ其ノ差押ヲ解除シテ之ヲ還付スルコトヲ得但シ之ノ力爲必要ナル費用ハ發行者ノ負擔トス

第三十四條 本法施行ノ地域外ニ於テ發

行スル新聞紙又ハ雜誌ニ對シ一年以内ニ二回以上前條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入シ又ハ移入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ禁止セラレタル新聞紙又ハ雜誌ヲ輸入シ又ハ移入シタルトキハ地方長官ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十五條 第五十五條第一項ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキハ地方長官ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十六條 内務大臣ハ普通出版物ヲ差押フル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ差押ヘタル原版ニ付テハ第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 本法ニ依リ差押ヘタル出版物又ハ原版ニシテ一年以上其ノ差押ヲ解除セラレザルトキハ差押ヲ執行シタル官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第六章 罰則

第三十八條 第七條ノ届出ヲ爲サスシテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキハ發行者ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第九條各號ノ一ニ該當スル者新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シ又ハ編輯シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行者ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第十八條又ハ第二十一條ノ規定ニ違反シテ出版物ノ納本ヲ爲サス又ハ之ヲ怠リタルトキハ發行者ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第十九條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ編輯者ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ規定ニ違反シタルトキハ編輯者ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十四條 第二十一條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シテ普通出版物ヲ發行シタルトキハ發行者ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第二十五條第一號又ハ第二號ニ該當スル事項ヲ出版物ニ掲載シタルトキハ發行者、編輯者及著作者ヲ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第二十五條第三號又ハ第四號ニ該當スル事項ヲ出版物ニ掲載シタルトキハ發行者、編輯者及著作者(新聞紙又ハ雜誌ニ在リテハ其ノ掲載事項ニ署名シタル著作者以下之ニ同シ)ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第二十五條第五號乃至第七號ニ該當スル事項ヲ出版物ニ掲載シタルトキ又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行者、編輯者及著作者ヲ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第二十七條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタルトキハ發行

者、編輯者及著作者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第二十八條乃至第三十一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタルトキハ發行者及編輯者ヲ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 第三十二條ノ規定ニ依ル差止命令ニ違反シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキハ發行者ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第三十三條第一項ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタルトキハ發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ出版物ヲ發賣頒布シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條第一項ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者及情ヲ知リテ其ノ出版物ヲ輸入シ、移入シ又ハ發賣頒布シタル者ハ前項ニ準シ之ヲ處罰ス

第五十三條 第三十三條第一項、第三十四條第二項、第三十五條又ハ第三十六條第一項ノ規定ニ依ル差押ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 出版物ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外被告人ニ於テ其ノ事實ナルコト及其ノ掲載力惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニシタルモノナルコトヲ證明シ得タルトキハ其ノ行為ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

第五十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタ

ル事項ニ付第四十六條ノ規定ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ禁止ニ違反シタルトキハ發行者ヲ二年以下ノ禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ發賣頒布シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 本法ニ掲クル罰ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第五十七條 本法ニ掲クル罪ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四十六條乃至第五十條ノ罪ニ付テハ時効期間ハ發行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則

第五十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 出版法及新聞紙法ハ之ヲ廢止ス

第六十條 本法施行後ニ於テ發行スル出版物ニ付從前ノ規定ニ依リ爲シタル届出ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル届出ト看做ス

第六十一條 本法施行ノ際現ニ新聞紙法ニ依リ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ新聞紙又ハ雜誌ニ該當スルモノハ之ヲ第七條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル新聞紙又ハ雜誌ト看做ス

第六十二條 前二條ノ新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第七條第一項第六號ノ事項ヲ届出ツ

第六十三條 本法施行ノ際現ニ出版法ニ依リ發行スル雜誌ニシテ本法ノ新聞紙

又ハ雜誌ニ該當スルモノニ付テハ其ノ發行者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第七條ノ例ニ依リ届出ヲ爲スヘシ但シ第一回發行ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要セス

第六十四條 本法施行前出版法又ハ新聞紙法ニ依リ爲シタル處分ハ本法中ニ相當スル處分ニ關スル規定アル場合ニ於テハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

本法施行前新聞紙法ニ依リ爲シタル發行ノ禁止ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル發行ノ禁止ト看做ス

第六十五條 本法施行ノ際新聞紙又ハ雜誌ニ付新聞紙法ニ依リ納メタル保證金アルトキハ之ヲ本法ニ依リ納メタル保證金ト看做ス

第六十六條 本法施行前ニ發行シタル出版物ニ付テハ第十九條、第二十條及第四十三條ノ規定ハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第六十七條 本法施行前內務大臣ニ於テ出版法又ハ新聞紙法ニ依リ差押ヘタル出版物及原稿ニ付テハ第三十三條第二項及第三十六條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第六十八條 他ノ法律中出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノニ適用スル規定ハ出版業ニシテ本法第二章ノ規定ニ依ルモノニ之ヲ適用ス

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 只今上程致サレマシタ出版法案ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスルガ爲ニ、内務大臣ガ直接御説明爲サレテ御審度アリマスガ、御差支ガアリマスノデ

私ガ代テ説明申上ゲマス(怪シカラヌ)ト呼フ者アリ) 現行出版法ハ遠ク明治二十六年ノ制定ニ係リマスシ、新聞紙法ハ同四十二年ニ於テ制定セラレタモノデアリマス、漸ク時勢ノ進運ニ伴ハザルモノガアリマス、其改正ノ要求ハ近年益々切實ナルモノガアルヲ見ルニ至テ居リマス、仍テ政府ニ於テモ調査研究ノ結果、此際内外ノ狀況ニ鑑ミマシテ、從來ニ於ケル出版物取締ノ實績ニ徴シ、現行出版法及新聞紙法ノ全體ニ互リ改正ヲ爲スコトヲ以テ適當ナリト認メタノデアリマス、仍テ茲ニ兩法律ニ代ルベキ統一シタル出版法ノ制定ヲセントスル次第デアリマス、以下其要項ヲ説達シマス、第一ニ出版法及新聞紙法ヲ合併シテ、單一ノ法律ニ統一規定致シタノデアリマス、蓋シ現在兩法律ガ並存スル所以ハ、單ニ其沿革ノ理由——沿革ノ理由ニ基クベキモノデアリマシテ、其以外ニハ特別ノ事由ヲ認メ得ザルノミナラス、兩法律ガ其制定ノ時ヲ異ニ致シテ居ル結果ト致シマシテ、罰則其他ノ點ニ於テ著シク不權衡ノ規定ガアリマス、仍テ茲ニ兩法律ヲ統一規定致シマシテ、且ツ現時ノ社會通念ニ基イテ、出版法ヲ分テ新聞紙、雜誌及普通出版物ノ三種ト致シマシタ、其二者乃至三者ニ同様ナル事項ニ付テ、カメテ共通ノ規定ヲ設ケ、以テ上記ノ缺點ヲ是正スルコトニ意ヲ用キタノデアリマス、第二ハ出版物ニ關スル責任者ノ範圍ヲ發行者、編輯者及著作者ニ限局致シマシテ、現行法ニ於テ責任者ト爲セル印刷人並ニ新聞紙、雜誌ノ實際編輯擔當者、假發行入及假編輯人ヲ除外致シマシテ、尙ホ新聞紙雜誌ノ持主ニ關スル一切ノ規定ヲ削除致シマシタ、蓋シ從來ノ取締ノ實績

ニ徴シマシテ出版ノ實情ニ適シ、且ツ取締上ニ於キマシテ支障ナシト認メタカラデアリマス、第三、出版物ニ掲載ヲ禁止スル事項ヲ列記致シマシタ、是レ實ニ今回改正ノ大眼目ノ一ツデアリマス、由來此點ハ出版法及新聞紙法改正ノ要求中ニ於キマシテ、最重要ニシテ且ツ最も困難ナル問題トシテ論議セラレタル所デアリマスルガ爲ニ、政府ト致シマシテハ、此點ニ深甚ノ考慮ヲ費シマシタ結果ト致シマシテ、現行法ノ安寧秩序ヲ紊シ、風俗ヲ害スルト云フ事項ノ如キ抽象的尙句ヲ排シマシテ、具體的ニ之ヲ七項目ニ分類列舉シテ、以テ廣ク社會ニ對シテ豫メ其確ルベキ所ヲ明示スルト共ニ、取締ノ適切ヲ期シマシタ次第デアリマス、第四ニハ行政處分ヲ公明ニ致シ且ツ差押ニ依リテ受クル所ノ損害ヲ出來ルダケ少クナラシムルコト、致シマシタノデアリマス、出版物ニ對スル發賣頒布又ハ禁止處分ヲ爲スニ當リマシテ、當ニ原則ト致シマシテハ、其處分ノ原因トナリマスル事項ヲ指攝セザルノミナラス、一度差押ヘタル出版物ト雖モ其發賣頒布ニ妨ゲナキ部分ニ於キマシテハ、發行者ヨリノ請求アルトキハ之ヲ分割シテ差押ヲ解除シ、還付スルノ制度ヲ設ケタノデアリマス、第五ニハ、新聞紙雜誌ニ關スル正誤制度ヲ改善致シタノデアリマス、現行新聞紙法ニ於ケル本制度ノ實効ナキコトハ、由來定評ノ存スル所ニ顯ミマシテ、正誤文掲載ノ場合等ニ關シ適當ナル改正ヲ加ヘ、且ツ正誤義務違反ノ罪ヲ非親告罪ト致シ、以テ將來本制度ノ實效ヲ擧グルコトヲ期シタ次第デアリマス、第六ニハ、發行禁止ノ場合ヲ局限致シマシタ、新聞紙雜誌ニ對シマシテ最モ重大ナル

制裁タル發行禁止ニ處セラルベキ原因ハ、之ヲ現行法ニ比シテ著シク局限致シタノデア

青木精一君登壇

青木精一君 只今上程セラレマシタ出版

リマス、其情狀最モ重シト認ムベキ所ノ場

法案ノ如キハ、頗ル重大ナル所ノ法律案デ

合タル新聞紙雜誌ガ、事皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆

ゴザイマシテ、殊ニ新聞紙法ノ改正モ此中

スルノ事項、又ハ國體ヲ變革セントスル事

ニ含マテ居ル所ノ案デゴザイマス、此重

項ヲ掲載シタルモノニ依テ處罰セラルベ

大ナル所ノ法案ノ審議ニ方リマシテ、數名

キニツノ場合ノミニ限リテ次第デアリマス、

ノ質問者ノ通告ヲシテアルノデアリマス、

第七ハ罰則ニ付テ之ヲ現行法ニ比シ、其罰

而シテ總理大臣、内務大臣ノ出席ハ數日前

金額ヲ一様ニ増加致シタノデアリマス、

日程ニ上、タトキヨリシテ、通告ヲ致シテ居

蓋シ今日ニ於テ現行法所定ノ如キ罰金額

ル、要求ヲ致シテ居ル、然ルニモ拘ラズ本

ヲ以テシマシテハ、刑罰輕キニ失シ、科

日時間ヲ延長シテ、本案ヲ審議スルト云フ

刑ノ目的ヲ達スル能ハザルト認メタカラデ

ノニ(事故ナラバ仕方アリマセヌ)ト呼フ

アルノデアリマス、然リト雖モ一面ニ於テ

者アリ(國務大臣ガ如何ナル事故ニ依テ出

ハ新聞紙雜誌ニ關スル單純ナル手續違反ニ

席ガ出來ナイノデアルカ、凡ソ國務大臣ト

對シマシテ、現行法ノ如ク原則トシテ直

シテ議會開會中ニ於テ、議會ノ公務ガ最モ

ニ處罰ヲ以テ臨ムコトハナク、一應ハ地方

重大ナル所ノ公務デナクテハナラヌ答デア

長官ノ差止命令ヲ以テ致シマシテ、尙ホ之ニ

ル(ヒヤ)「拍手」然ルニ如何ナル公務ガ

違反シタル場合ニ限リテ處罰スルコトニ致

アツテ出席ヲ妨ゲラレテ居ルノデアルカ、此

シタノデアリマス、以テ苛酷ニ失スルコト

出版法ノ如キハ最モ立憲政治ノ進歩ノ上

ニ、重大ナル所ノ關係ヲ有スル所ノ法律デ

アル(ヒヤ)「拍手」之ニ對シテ内務大

臣、總理大臣ガ出席ヲシテ、質問ニ應答ス

ルト云フコトハ當然ノ事デナクテハナラナ

イ、ソレヲ與黨ノ諸君ガ大臣ガ出ナイカラ

ト云フテ、サモ出ナイノガ當然ノヤウニ應酬

スルトハ何事デアルカ(差支アレバ出ラレ

ヌデヤナイカ)ト呼フ者アリ(差支ガアツテ

出ラレナイト云フナラバ、如何ナル差支ガ

アルノデアルカ(不熱心ナル結果ダ)ト呼

フ者アリ)其他引續イテ上程セラレテ居ル

所ノ議案ニハ、民事、刑事ニ關係スル所ノ

重要法案アリ(ヒヤ)「産業組合法ノ如キ

アリ、其他豫備金支出ノ問題ノ如キアリ、

頗ル重要ナル所ノ問題ガ緊慎シテ居ルデハ

ナイカ、然ルニ大臣席ヲ見レバ、一人モ大

臣ガ出テ居ラナイトハ何事デアルカ(ヒヤ

「拍手」斯ノ如クシテ吾々議員ニバカリ

議事ヲ進行ヲ強ルト雖モ、是ハ議事ノ進行

ハ出來ナイノデアアル(ヒヤ)「拍手」午後

一時カラ午後十時頃マデ此議席ニ若イテ、

審議スルト云フコトハ隨分(苦シイカ)ト

呼フ者アリ)苦シイ(笑聲)困難ナル所ノ仕

事デアアル、然ルニ國務大臣ハ勝手ニ院外ニ

出テシマフ、大臣連ハ勝手ニ事故ナルガ故

ニ、此場所ニ出席ヲシナイ、サウシテ議員

ニダケハ時間ヲ何時マデモ延長ヲシテ、此

重要法案ヲ審議シナケレバナラヌト云フヤ

ウナ、左様ナコトドドウシテ議會政治ニ於

テ、圓滑ナル所ノ議事ヲ進行ガ出來ルカ、

(拍手)議員自ラ時間ヲ延バシテヤレテ居ル

デヤナイカ)ト呼フ者アリ)何ヨ言フカ、議

會ノ權威ノ問題デアアル、政府ト議會ノ關係

ノ問題デアアル、與黨ナドト云フ些々タル關

係ヲ離レテ、此重大ナル所ノ大事ナ問題ニ

付テハ、冷靜ナル所ノ態度ヲ取ラナケレバ

ナラヌ(ヒヤ)「ヤレ」ト呼フ者アリ

拍手)ニ私ハ此場合議長ニ對シテ、今一

應關係國務大臣ノ出席ヲ要求セラレンコト

ヲ茲ニ希望致シテ、議事ヲ進行ヲ圖ラレタ

イト希望致ス次第デアリマス

(篠原和申君)議長、議事ノ進行ニ關シ

テ)ト呼フ

議長(粕谷義三君) 只今青木君ノ御述ニ

ナリマシタ大臣ノ出席ノ事ニ付キマシテ

ハ、夕刻ヨリ只今マデ交渉中デアリマス、

併ナガラ其出席ノ如何ハ、今直ニ御確答ヲ

申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマス、紫

安新九郎君ヨリ議事ノ進行ニ關シテ、發言

ヲ求メラレテ居リマス、紫安新九郎君

○議長(粕谷義三君) 議事ノ進行ニ關シテ

篠原和申君ヨリ發言ヲ求メラレマシタ、篠

原君

(篠原和申君登壇)

○篠原和申君 本員ハ議事ノ進行ニ關シマ

シテ、一言ヲ述アルモノデアアル、出版物法

案ノ國家、社會、殊ニ帝國ニ最モ必要重大

ナル法案デアアルコトハ、本期議會ニ於テ最

モ重大トシタル所ノ豫算案、稅制整理案、關

稅定率案及出版物法案トハ、是ハ四大法案デ

アルト吾々ハ左様ニ確信シテ居ル者デアリ

マス(ヒヤ)「拍手」隨テ本案ヲ本議場ニ

上程スルニ付キマシテハ、本案ニ對スル質

問通告ト致シマシテ、加藤君、安藤君、寺

田君、倉元君、原夫次郎君、篠原和申(笑

聲)此通告ガアルノデアリマス(拍手)殊ニ

先刻秘書課ヨリ此法案ノ上程ニ付キマシテ

ハ、國務大臣ハ誰方ト誰方ガ出席セラレ、

バ宜シイノデアアルカ、御希望ノ申出ヲ願ヒ

タイ、斯様ニ秘書課ヨリ本員ニ對シテ相談

ガアツタノデアリマス、切テ本員ハ内閣總

理大臣、内務大臣若槻君ト、司法大臣ノ江

木君ト、逓信大臣安達君、此三大臣ニハ是

ノ發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(俵孫一君)(續) 以上ハ現行法

ニ對照シマシテ本法案ヲ...

(發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(俵孫一君)(續) 改正致シマシ

タ理由デアリマスノデアリマス、願クハ慎

重御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ切ニ希

望致シマス次第デアリマス

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ質疑ノ發言ヲ

非御出席ヲ願ハナケレバナラナイカラ、サ
ウ云フヤウニ政府へ通達ヲシテ戴キタイ、
承知致シマシタト云テ秘書課ノ人ハ歸タ、
然ルニ此休憩ヲシテ、此重要法案ガ議題ニ
ナツタルニ拘ラズ、見渡セバ國務大臣一人
モ居ラナイデヤナイカ、斯様ナ不熱心ナコ
トデ(其通り)ト呼フ者アリ(國務ノ遂行ガ
出来マスカ、與黨、本黨諸君少シク此點ニ
關シテ考へ給へ(本黨トハ何ダ)ト呼フ者アリ
先刻諸君ハ憲政會ト共鳴シテ居ルデヤ
ナイカ、若シ諸君ガ共鳴シナイナラバ其點
ハ取消シマス、憲政會諸君——而シテ本日
ノ各派交渉會ニ於テハ政府提出重要案ガア
ルカラ、今晚ハ休憩ヲ致シテ互ニ夕食ヲ致
シテ、午後十時マデハ議事ノ進行ヲ圖ラウ
デヤナイカト、斯様ニ各派協調シテ居ルデ
ヤナイカ、(其通り)ト呼フ者アリ)然ルニ
國務大臣一人ノ出席ナシ、此點ニ關シテハ
實ニ非立憲モ亦甚シイ(ヒヤ)ト拍手)此
憲政會内閣、非立憲モ甚シイデヤナイカ、
吾々議員ノ權能ニ於テ此重大ナル法案ヲ審
議スルニ方シテ、國務大臣ノ出席ガナケレ
バ議事ガ出来ナイ、仍テ此場合五分間、時
間ノ猶豫ヲ與ヘマスルカラ(拍手、笑聲起
ル)議長ヨリ國務大臣ニ直ニ出席ヲ求メテ
戴キタイ、五分間ノ猶豫ヲ與ヘル、若シ國
務大臣ガ出席シナイ場合ニハ、吾々又改メ
テ考慮スル考デアアル、即チ議事ノ進行ニ關
シテ一言述ブル所以デアアル

モ此議席ニ見ルコトヲ得ナイト云フコト
ハ、本案ニ對シテ政府ガ如何ニモ不潔切ナ
リト云フ其舉動ニ對シテ洵ニ遺憾禁ズルコ
トガ出来ナイノデアリマス、仍テ是カラ國
務大臣ノ出席ヲ見ルマデ、本日程ノ延期ノ
動議ヲ提出致シマス

〔贊成〕贊成ト呼ヒ拍手起ル

○議長(粕谷義三君) 秋田君ニ御導致シマ
スガ、秋田君ノハ大臣ノ出席マデ(發言ス
ル者アリ) 靜肅ニ願ヒマス——大臣ノ出席
セラル、マデ此議事ヲ延期スルト云フ意義
デアリマスカ

〔動議デス〕ト呼フ者アリ

○横山金太郎君 都合ニ依リ暫ク休憩アラ
シコトヲ望ミマス

〔動議ヲドウスル〕ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 尙ホ一應秋田君ニ御
尋シマスガ、秋田君ノハ休憩シヤウト云フ
御意見デスカ

○秋田清君 モウ一度……

○議長(粕谷義三君) 秋田君ノ只今御連ニ
ナリマシタ事ハ、大臣ノ出席マデ休憩スル
ト云フ御意見デアリマスカ

○秋田清君 日程延期ノ動議デアリマ
ス——休憩ニ贊成ヲ致シテモ宜シイノデア
リマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) ソレデハ大臣ノ出席
セラル、マデ暫時休憩ヲ致シマス(拍手)

午後八時二十二分休憩

午後八時三十八分開議

○議長(粕谷義三君) 休憩前ニ引續イテ會
議ヲ開キマス、通告順ニ依テ質疑ヲ許シ
マス——安藤正純君

〔安藤正純君登壇〕

○議長(粕谷義三君) 文部大臣モ司法大臣
モ早速出席セラル、ヤウデアリマスカラ、
暫ク御辛抱ヲ願ヒマス

〔休憩〕降レト呼ヒ其他發言スル者
多ク議場騒然

○安藤正純君 私ハ議長ノ許可ヲ得テ此處
ニ居ル

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

〔總理大臣、内務大臣ニ質問シタラ宜
イデヤナイカ〕ト呼フ者アリ

○安藤正純君 質問スル人ガ居ナイ

〔總理大臣ガ居ルデヤナイカ〕ト呼フ
者アリ

○安藤正純君 質問ノ相手ガナケレバ質
問ハ出来ナイデヤナイカ

○議長(粕谷義三君) 只今安藤君ニ發言ヲ
許シタノデアリマスケレドモ、安藤君ノ
御質疑ハ更ニ内務大臣ノミナラズ、司法
大臣、文部大臣等ノ出席ヲ必要トセラル、
サウデアリマス、就キマシテハ此日程ヲ後
廻ハシニ致シマシテ、次ノ日程ニ移ルト云
フコトニ付テハ如何デセウ

〔異議ナシ〕〔異議アリ〕ト云フ譯
デト呼ヒ議場騒然

○議長(粕谷義三君) ソレデハ已ムヲ得ズ
暫時休憩致シマス

午後八時五十一分休憩

○議長(粕谷義三君) 休憩前ニ引續イテ開
會致シマス、只今定足數ヲ缺イタト認メマ
スカラ、本日は是ニテ散會致シマス

午後九時五十分開議

○議長(粕谷義三君) 休憩前ニ引續イテ開
會致シマス、只今定足數ヲ缺イタト認メマ
スカラ、本日は是ニテ散會致シマス

午後九時六分散會

